

保育学科

分類	授業科目	方法	必修	選択	年次	期
基礎教育科目	大学教育入門	講義	1		1	前
	社会人基礎入門(地域と大学)	講義	1		1	前
	茶道文化Ⅰ	演習	1		1	前
	茶道文化Ⅱ	演習	1		1	後
	茶道文化Ⅲ	演習	1		2	前
	茶道文化Ⅳ	演習	1		2	後
	日本国憲法	講義	2		1	前
	女性学	講義		2	1	後
	生物学	講義		2	1	後
	実践国語演習	演習		2	1	後
	英語Ⅰ	演習	2		1	前
	国際コミュニケーション演習Ⅰ	演習		1	2	前
	国際コミュニケーション演習Ⅱ	演習		1	2	後
	スポーツ科学	講義	1		2	前
	スポーツ実習	実技	1		2	後
	コンピュータ演習	演習		2	1	前
	専門教育科目	保育原理	講義	2		1
教育原理		講義	2		2	前
子ども家庭福祉		講義	2		1	前
社会福祉		講義	2		1	前
社会的養護Ⅰ		講義	2		1	後
保育者論		講義		2	2	前・後
教育方法論		講義		2	2	後
教育経営論		講義		2	2	前
保育の心理学		講義	2		1	後
子ども家庭支援の心理学		講義		2	2	後
子どもの理解と援助		演習	1		2	後
臨床心理学		演習		2	2	前
子どもの保健		講義	2		1	前
子どもの健康と安全		演習	1		2	前
子どもの食と栄養		演習	2		1	後
子ども家庭支援論		講義		2	2	後
カリキュラム論		講義	2		1	後
保育内容総論		演習	2		1	前
保育内容演習Ⅰ(健康)		演習		1	1	前
保育内容演習Ⅰ(表現音楽活動)		演習		1	2	前
保育内容演習Ⅰ(表現造形活動)		演習		1	2	前
保育内容演習Ⅰ(人間関係)		演習		1	2	後
保育内容演習Ⅰ(環境)		演習		1	2	前

分類	授業科目	方法	必修	選択	年次	期
専門教育科目	保育内容演習Ⅰ(言葉)	演習		1	1	後
	乳児保育Ⅰ	講義	2		1	後
	乳児保育Ⅱ	演習		1	2	後
	特別支援教育概論	演習		2	2	後
	社会的養護Ⅱ	演習		1	2	前
	子育て支援	演習		1	2	後
	保育相談	講義		2	2	前
	総合保育技術Ⅰ	演習		1	1	前
	総合保育技術Ⅱ	演習		1	1	後
	総合保育技術Ⅲa	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳa	演習		1	2	後
	総合保育技術Ⅲb	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳb	演習		1	2	後
	総合保育技術Ⅲc	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳc	演習		1	2	後
	総合保育内容Ⅱ(保育教材研究a)	演習		1	1	前
	総合保育内容Ⅱ(保育教材研究b)	演習		1	2	前
	保育学特別演習	演習		1	1	後
	子どもと音楽Ⅰa(ピアノ・楽典)	演習		1	1	前
	子どもと音楽Ⅰb(ピアノ・楽典)	演習		1	1	後
	子どもと音楽Ⅱ(歌唱)	演習		1	1	後
	子どもと音楽Ⅲa(ピアノ・楽典)	演習		1	2	前
	子どもと音楽Ⅲb(ピアノ・楽典)	演習		1	2	後
	子どもと造形a	演習		1	1	前
	子どもと造形b	演習		1	1	後
	子どものリズム	演習		1	1	前
	子どもと運動	演習		1	1	後
	子どもと言語	演習		1	1	前
	子どもと暮らし	演習		1	1	前
	保育実習Ⅰ	実習		4	1・2	後・前
	保育実習Ⅱ	実習		2	2	後
	保育実習Ⅲ	実習		2	2	後
教育実習	実習		4	2	前	
実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)	演習		2	2	前	
保育実習指導Ⅱ	演習		1	2	前	
保育実習指導Ⅲ	演習		1	2	前	
保育実践演習(教職実践演習 幼稚園)	演習		2	2	後	
卒業研究Ⅰ	演習		1	2	前	
卒業研究Ⅱ	演習		1	2	後	

講義科目名称：日本国憲法	授業コード：BS101
英文科目名称：The Constitution of Japan	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
中野 明人				

授業概要	<p>幼児教育に携わる人材にはさまざまな能力が求められるが、この講義においては、日本国憲法の意義を理解し、主として2つの柱「基本的人権」「日本の国の仕組(三権分立)」について学ぶ。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 明治憲法と日本国憲法との違いを理解する。日本国憲法の三大原則について理解する。天皇制について理解する。 ② 明治憲法における人権について理解する。日本国憲法の主体について理解する。近代憲法の特徴について理解する。 ③ 平等権について理解する。自由権について理解する。社会権について理解する。 ④ 新しい人権の生まれた背景について理解する。新しい人権について具体的に知る。新しい人権について事例を通して学ぶ。 ⑤ 国会の仕組みについて理解する。内閣の仕組について理解する。裁判所の仕組について理解する。三権分立について理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・人権の基本的な意義を理解し、子どもたちをめぐるさまざまな人権について説明することができる。	・筆記試験	60%
確かな専門的知識や技能	・三権分立について理解し、政治を取り巻く課題について自分の考えを持つことができる。	・筆記試験	30%
コミュニケーション能力	・授業で得た知識をもとの自分の考えを授業の最後に行うコミュニケーションシートに表現することができる。	・授業後アンケート(コミュニケーションシート)	5%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・日本国憲法が幼稚園教諭に必要な専門知識であることを理解し、積極的な学習ができる	・授業への参加・態度	5%

合計	100%
補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、定期試験 90%、授業後アンケート 5%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。 ・授業後に行うコミュニケーションシート以外にも、「Merry」での質問も大いに歓迎します。 	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	ガイダンス この授業が目指すもの	①保育学科でなぜ「日本国憲法」を学ぶのか、資格要件の観点や、実際に保育者に求められる視点から学ぶ。 ②15回を通して何を学ぶのかを概観する。	・予習：保育学科で取得できる資格である「幼稚園教諭」の免許取得には何を学ぶことが求められるか調べておく。
2 回目	憲法制定の歴史的経緯を振り返る	①明治憲法から日本国憲法に移り変わる経緯について学ぶ。 ②民主主義の意味について学ぶ。 ③日本国憲法と明治憲法の違いを学ぶ	・予習：明治憲法の特徴を調べておく ・復習：保育学科で日本国憲法を学ぶ意義について振り返る。
3 回目	日本国憲法の三大原則について	①国民主権は生まれた背景を学ぶ。 ②基本的人権の尊重が生まれた背景を学ぶ。 ③平和主義の生まれた背景について学ぶ。	・予習：現代社会における平和主義の意義を考えてみる。 ・復習：明治憲法の抱える問題点について整理しておく。
4 回目	基本的人権総論	①人権の世界的な歴史について振り返る。 ②基本的人権が何故生まれてきたのかについて振り返る。	・予習：中学や高校の歴史の教科書を読み、日本国憲法が生まれてきた背景を調べておく。 ・復習：日本国憲法の三大原則について確認する。
5 回目	包括的基本権	① 人権が時間を経ていかに拡大していったのかについて学ぶ。 ② 社会権の概念の登場について学ぶ。 ③ 新しい人権について学ぶ。	・予習：新しい人権という言葉調べる。 ・復習：基本的人権は最初は何から生まれたのかを確認する。
6 回目	平等権	①平等権が生まれてきた歴史的背景を学ぶ。	・予習：「差別」について調べておく。

		<p>②平等権にはどのようなものがあるか具体的に学ぶ。</p> <p>③どのようなときで「不平等」を感じるのか考えてみる。</p>	<p>・復習：新しい人権についてまとめておく。</p>
7回目	精神的自由権	<p>①思想・良心の自由について学ぶ。</p> <p>②信教の自由について学ぶ。</p> <p>③学問の自由について学ぶ。</p> <p>④表現の自由について学ぶ。</p>	<p>・予習：自分が考えると「表現」についてまとめておく</p> <p>・復習：平等権の具体的な内容をまとめておく。</p>
8回目	経済的自由権	<p>①居住移転の自由について学ぶ。</p> <p>②職業選択の自由について学ぶ。</p> <p>③財産権について学ぶ。</p>	<p>・予習：自分のなりたい職業についてまとめておく。</p> <p>・復習：表現の自由がなぜ重要なのかについてまとめておく。</p>
9回目	身体的自由権	<p>①この人権がないとなぜ困るのかについて学ぶ。</p> <p>②刑事手続き全般そして基本原則について学ぶ。</p> <p>③被疑者の人権、被告人の人権について学ぶ。</p> <p>④死刑制度について学ぶ。</p>	<p>・予習：黙秘権という言葉について調べておく。</p> <p>・復習：職業を選択できる意義についてまとめておく。</p>
10回目	参政権	<p>①参政権の意義について学ぶ。</p> <p>②選挙制度について学ぶ。</p> <p>③現代社会における選挙制度の抱える問題点について学ぶ。</p>	<p>・予習：最近の選挙の結果について調べておく。</p> <p>・復習：死刑制度について自分の考えをまとめておく。</p>
11回目	社会権	<p>①生存権が生まれてきた経緯について知りその意義について学ぶ。</p> <p>②教育を受ける権利について学ぶ。</p> <p>③勤労権について学ぶ。</p> <p>④労働基本権について学ぶ。</p>	<p>・予習：生活保護という言葉について調べておく。</p> <p>・復習：投票に行き、政治に参加する意義についてまとめておく。</p>
12回目	国会	<p>①三権分立について学ぶ。</p> <p>②国会の組織と権能について学ぶ。</p> <p>③国会議員の実際の活動を知る。</p>	<p>・予習：自分の住んでいる街の国会議員について調べる。</p> <p>・復習：生存権の意義についてまとめておく。</p>
13回目	内閣	<p>①内閣制度について学び、これまでの内閣の変遷を振り返る。</p> <p>②内閣の組織と権能について学ぶ。</p>	<p>・予習：首相官邸のホームページを見ておく。</p> <p>・復習：衆議院と参議院の</p>

		③現在の政権を例に、内閣の実際について学ぶ。	違いについてまとめておく。
14 回目	裁判所	①裁判所の組織について学ぶ。 ②裁判官の権能について学ぶ。 ③裁判員裁判について学ぶ。	・予習：裁判員裁判という言葉調べておく。 ・復習：内閣総理大臣の役割についてまとめておく。
15 回目	まとめ	①この授業で何を学んだのかについて振り返る。 ②学んだことがこれからの保育士や幼稚園教諭としてどのような観点から役立つのかについて確認する。 ③日本国憲法を学び、この15回を通して何を身につけたかを各人が考える。	・予習：これまでのノートをふりかえる。 ・復習：裁判所の基本的な機能についてまとめておく
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	① テキスト：「よくわかる憲法」（嵯峨野書院） ② 参考書：授業内容に合わせて別途指示する。
履修条件	
履修上の注意	日頃からニュースなど時事問題に関心を持つことが大切です。必ずニュースに目を通して授業に臨んでください。
オフィスアワー	・木曜日の放課後をオフィスアワーとして設定しています。事前に予約を取って研究室を訪問してくださると助かります。 ・また、水曜日以外の昼休みもオフィスアワーとして利用できますので、ぜひ質問にきてください。
備考・メッセージ	日本国憲法は、とっつきにくい印象をもたれがちですが、なるべく今の世の中で起きている事象に結び付けてわかりやすく解説をし、考えてもらおうと思います。

講義科目名称：女性学	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	1 単位	科目必選区分	授業形態
後期	1 年	2 単位		選択	講義
担当教員					
川原ゆかり					

授業概要	<p>歴史的・文化的・社会的・法的変遷の中の女性の生き方についての基本的な知識を修得する。さらにフェミニズムの理論やジェンダー問題についての理解を深め、女性のエンパワメントについて見識を高めることができる。</p> <p>各論として、女性と家族、母子世帯と社会福祉、貧困、結婚、子育て・労働・高齢者問題、DV、児童虐待などについての理解に必要な知識を養う。また、LGBTなどセクシャリティの多様性についての知識や理解を深めることで、多様な生き方を受け入れる事ができるようになる。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	多様な生き方・様々な考え方・価値観を知り、受容できるようになる。	・レポート	
確かな専門的知識や技能	女性を取り巻く社会情勢の中の様々な課題や問題点、福祉制度などについて理解し、自らの生き方の考察に繋げることができる。	・定期試験 ・レポート	70% 10%
コミュニケーション能力	多様な生き方・様々な考え方・価値観を知るために、グループディスカッションを通して、自己覚知することができる。	・グループディスカッション	
課題解決能力	講義で得た知識や他の生き方を通して、自己課題を発見し、問題解決する力をレポート等で言語化して再認識し、行動かできる力を身に付ける。	・定期試験 ・レポート	10%
主体的に学ぶ力	積極的に他とディスカッションし、新聞記事等の関連情報に自らリサーチできるようになる。	・予習・復習力 ・レポート	10%
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目			
2 回目			
3 回目			
4 回目			
5 回目			
6 回目			
7 回目			
8 回目			
9 回目			
10 回目			
11 回目			
12 回目			
13 回目			
14 回目			
15 回目			
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：実践国語演習	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択	講義・演習
担当教員				
山本 みづほ				

授業概要	<p>保育者としてふさわしい国語力を修得するために、「会話表現」と「文章表現」の基礎を学び、応用力を身に付ける。子ども、保護者、職場の人それぞれに対する言葉遣いと気遣いのできる人間力を養う。</p> <p>本講義では、①保育現場において正しい言葉遣いで対応することができる、②広い視野で物事を捕らえ保育の実践をすることができる、③読みやすい文字で順序立てた文章を書くことができることを目標とする。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・ビブリオバトルを通して自分の思いを伝えることができる。	・授業での発表	10%
確かな専門的知識や技能	・総合的な国語力を身に付けている。 ・保育士としての思いを的確に文章で表現できる。	・定期試験	50%
コミュニケーション能力	・グループ内で協力して「事例カード」による寸劇を作り上げることができる。	・グループディスカッションと授業での発表	10%
課題解決能力	・保育に関する新聞記事を読み、有効な解決策を考えることができる。	・レポート	10%
主体的に学ぶ力	・毎回の講義の感想や質問を文章で表現できる。	・授業への参加・態度 ・振り返りメモ	20%
合計			100%

補足事項	
<p>・本授業では、定期試験50%、授業の振り返りメモと授業への参加・態度20%及びビブリオバトル、グループディスカッション、レポート各10%の割合で評価する。</p>	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義の進め方、保育士に求められる国語力について説明する。	予習：自己紹介（保育園・幼稚園時代の思い出エピソード）を考えておくこと 復習：シラバスを再度確認しておく
2回目	会話表現1	聞き取りやすい話し方の基本について説明する。 ・正しい発声、アクセント、プロミネンス	予習：P20～P25を読んでおく 復習：早口言葉を声に出して言う
3回目	会話表現2 ビブリオバトル	4人グループで予選を行い、チャンプ本を決め、全体で代表者による決戦大会を行う。 ・本を持参（図書館で借りても良い）	予習：紹介する本を準備し、5分間で話す練習をしておく 復習：チャンプ本のどこに惹かれたかについてまとめる
4回目	会話表現3	敬語について説明する。 ・敬語の種類 ・二重敬語に注意	予習：P26～P30を読んでおく 復習：敬語の種類についてまとめる
5回目	会話表現4	実習先での自己紹介について説明する。（先生方、子ども、保護者の3つのパターン） 演習シートを用いて授業の理解を深める。	予習：P32～P36を読んでおく 復習：発表した内容の振り返りをする
6回目	会話表現5	電話の応対について説明する。 ・ロールプレイ式 ・伝言メモの取り方	予習：P37～P39、P55～P56を読んでおく 復習：的確な応対に必要な知識をまとめる
7回目	会話表現6	保育現場での話し方について説明する。 事例カードごとに園児役、先生役に分かれての寸劇 ・役になりきることが重要	予習：P40～P45を読んでおく 復習：各グループの良かった点をまとめる
8回目	文章表現1	文字を正しく書くことについて説明する。 ・ペンの正しい持ち方 ・正しい表記	予習：P58～P65を読んでおく 復習：自分の文字の癖を再認識する。

9回目	文章表現2	文章作成上の留意点について説明する。 ・当て字、隠語、記号の使い方、重複表現、同じ言葉の多用	予習:P66~P71 を読んでおく 復習:自分の文章の癖を再認識する。
10回目	文章表現3	文章の基本的な書き方について説明する。 ・毎回書いている振り返りメモを参考	予習:P72~P76 を読んでおく 復習:自分の文章の癖を文章化する。
11回目	文章表現4	実習日誌の書き方を説明する。 ・ある保育士の1日のビデオを参照	予習:P78~P87 を読んでおく 復習:実習日誌を完成させる。
12回目	文章表現5	指導計画、連絡帳の書き方について説明する。 ・指導計画の見本から学ぶ ・連絡帳を実際を書く	予習:P88~P92 及び P125~P132 を読んでおく 復習:グループで交換して見た連絡帳の長所をまとめる。
13回目	文章表現6	小論文の書き方を説明する。 ・原稿用紙の使い方、作文と小論文の違い、構成 ・過去に出されたタイトルから一つを選び実際に書く	予習:P112~P124 を読んでおく 復習:時間内に提出した小論文の振り返りをする。
14回目	文章表現7	手紙、はがき、メールの書き方を説明する。 ・年賀状を書く	予習:P93~P106 を読んでおく 復習:実際に年賀状を書いて出す。
15回目	文章表現8 会話表現7	履歴書の書き方と面接の受け方を説明する。 ・履歴書を書き、それをもとにグループで面接練習をする。	予習:P107~P111 及び P46~P50 を読んでおく 復習:今日の学びの振り返りをする。
16回目	定期試験	小論文	

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:『保育者になるための国語表現』2019改訂版2刷 萌文書林

	参考書、資料に関しては授業で提示する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問に対応します
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席指定とする ・ 欠席の場合は欠席願（届）を必ず提出すること ・ 常に保育関連の新聞記事やニュースに注目しておくこと ・ 演習形式の授業なので、積極的に取り組み国語力を養おうとする意欲のある学生を望みます

講義科目名称：英語 I	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年			
担当教員				
内山智子				

授業概要	保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながらいつでもどこでも使える頻出表現と4技能の基礎を身につける。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	社会の様々な立場の人に親和的な態度で積極的に働きかけることができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識や技能	英語で保育現場に役立つ身近な表現と語彙を用いて活用することができる。	・定期試験 ・小テスト	50% 25%
コミュニケーション能力	英語で相手や目的・場面に応じて自らの意志を的確に表現、理解することができる。	グループディスカッション・プレゼンテーション	10%
課題解決能力	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組むことができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	自己について深く理解し、興味関心に基づき保育について考えることができる。		
合計			100%

補足事項			
英語学習は日々の積み重ねです。常に学習意欲を持ち、現場で役立つ語彙や表現をマスターしていきましょう。授業参加の際に単語帳やアプリを活用すれば語彙力アップにも繋がります。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
------	-----	-------	-------

1回目	オリエンテーション	英語の会話に最低限必要な表現	予習・復習の内容を説明
2回目	Unit 1	自己紹介に関する英語表現	PreUnit の復習と予習
3回目	Unit 2	場所に関する表現を説明する	Unit1 の復習と予習
4回目	Unit 3	体調に関する英語表現を学習する	Unit2 の復習と予習
5回目	Unit 4	好き嫌いに関する英語表現	Unit3 の復習と予習
6回目	Unit 5	存在・状態に関する英語表現	Unit4 の復習と予習
7回目	Unit 6	時間に関する英語表現	Unit5 の復習と予習
8回目	Unit 7	病気・アレルギーに関する表現	Unit6 の復習と予習
9回目	Unit 8	緊急事態に関する英語表現	Unit7 の復習と予習
10回目	Unit 9	行事に関する英語表現	Unit8 の復習と予習
11回目	Unit 10	天気に関する英語表現	Unit9 の復習と予習
12回目	Unit 11	禁止・助言に関する英語表現	Unit10 の復習と予習
13回目	Unit 12	病気に関する英語表現	Unit11 の復習と予習
14回目	Unit 13	電話での応対に関する英語表現	Unit12 の復習と予習
15回目	Unit 14	感謝の気持ちを表す英語表現	Unit13 の復習と予習
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	Happy English for Childcare 保育のための基礎英語
履修条件	
履修上の注意	教科書を忘れないこと。
オフィスアワー	（前期）月曜日の2～4限目
備考・メッセージ	授業中の携帯電話は辞書、単語アプリ使用に限り許可する。 毎回小テストを行うので必ず既習内容の復習を行うこと。

講義科目名称： 国際コミュニケーション I	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	講義
担当教員				
キムキャロライン キム (Caroline Kim)				

授業概要	This course is designed to provide students with basic English conversation skills and targeted English needed for working in a childcare environment. Students will learn every day, practical vocabulary, and phrases. Students will lead and participate in activities, role play, learn games and songs that will help them develop situation-specific language and skills that can use in the working environment. At the end of course, not only students will strengthen and improve vocabularies and expressions but also gain overall confidence to use English on the job.
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
主体的に学ぶ力	積極的な学習ができる。遅刻の有無なども評価に加味する。	出席度	20%
専門的知識や技能	① Learn basic communication with non-Japanese children and study childcare contents in English. ② Improve English communication skill required for nursery schools. ③ Prepare the student-teaching in English.	定期試験 小テスト (単語と文法など)	50% 15%
課題解決能力	実際の受験を念頭に授業を進めるので文法と語彙の復習が大事である。	課題の提出	5%
心豊かな人間力	異文化知識・対応能力 相手の意思を理解・自らの意思を表現ができる。	グループワーク 授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、出席度 20%、定期試験 50%、小テスト 15%、課題の提出 5%、グループワーク 10%の割合で評価する。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	Orientation	Intro about the course, self-introduction	予習 : Check vocabulary and grammar from Unit 1 復習 : N/A
2 回目	Unit 1	What's your name?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
3 回目	Unit 2	Where are you from?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
4 回目	Unit 3	Good morning!	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
5 回目	Unit 4	Are you OK?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
6 回目	Unit 5	What are you doing?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
7 回目	Unit 6	How are you feeling?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
8 回目	Unit 7	What's she like?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
9 回目	Unit 8	DO's and DON'Ts	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
10 回目	Review Unit 9	Unit 1-8 Let's eat lunch!	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
11 回目	Unit 10	What do you want to do?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
12 回目	Unit 11	What do you have to do?	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment

13 回目	Unit 12 and 13	I need to go potty / Good job!	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
14 回目	Unit 14	Injuries and emergencies	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
15 回目	Unit 15 Review Unit 9-15	We're going to go outside	予習 : Check vocabulary and grammar from the next unit. 復習 : Assignment
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：「Speaking of Childcare」 Peter Vincent・Naoko Nakazato NAN'UN-DO 参考書：「保育の英会話 Childcare English」 赤松直子・久富陽子 萌文書林
履修条件	
履修上の注意	授業の際は必ず教科書、ハンドアウト、辞書を持参すること。
オフィスアワー	授業の前後・メールで質問や聞き合わせ。学生の希望によって相談可能。 (carolinekim930@gmail.com)
備考・メッセージ	毎回復習の小テスト有り。 学生のレベルに合わせて学習を進む。学生は、率先して声を出してもらうなど、積極的な参加を望む。学生自身が用意する準備物の徹底。 課題の提出期限厳守。 This class will be conducted primarily in English. Students should have a strong desire and willingness to learn and use English. Please note that this syllabus is subject to change based on the needs of the class.

講義科目名称：スポーツ科学	授業コード：21133
英文科目名称：Sports science as liberal arts	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1	必修	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	<p>①スポーツと人との関わりについて、自からのスポーツとの関わりについて振り返る</p> <p>②健康と運動との関わり、効果的な体力維持向上の方法、食生活と運動とのかかわりについて理解する</p> <p>③日本のスポーツの現状、スポーツ基本法、スポーツ基本計画について理解する</p> <p>④トップアスリートのパフォーマンスについて、スポーツ科学的視点から理解する</p> <p>⑤熱中症対策や自らの生活とスポーツとの関わりについて説明し、生涯スポーツの観点について理解する</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・体力づくりに果たす運動やスポーツの役割について説明できるようになる ・する・みる・支える・創るなど人とスポーツの関わりについて説明できるようになる ・日本のスポーツ推進の現状を知り、スポーツ基本法、スポーツ基本計画について説明できる ・スポーツの科学的視点からトップアスリートのパフォーマンスを理解できるようになる 	小レポート	40%
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活習慣を振り返り、生涯スポーツの考え方を理解できるようになる 	期末レポート 授業への参加・態度	50% 10%

合計	100%
補足事項	
講義内容をポイントを押さえて理解できているか、レポート提出による評価 40%、教養としてスポーツが身についているかどうか、末レポート提出による評価 50%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	・リエンテーション ・スポーツと人の関わりと生涯スポーツの考え方について	これまでの自分の運動やスポーツへの関わりについて考える	予習：これまでの自分の運動やスポーツへの関わりについて振り返る 復習：配布資料を参考に運動やスポーツとの関わりをまとめる
2 回目	健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について① 体力測定	・体力測定を実施し、自分の健康づくりに向けて運動やスポーツへの関わりについて考えるきっかけとする	予習：現在の体力・運動能力について振り返る 復習：体力測定の結果を振り返り、運動やスポーツとの関りについて考える
3 回目	健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について② 健康・体力づくりの方法について	・体力測定の結果をもとに健康・体力づくりと運動・スポーツの関係について学ぶ ・有酸素運動の効果、筋力トレーニングの効果、食生活と健康・体力づくりについて学ぶ	予習：健康・体力づくりと食生活との関りについて調べる 復習：配付資料を参考に健康体力づくりに果たす運動・スポーツの役割についてまとめる
4 回目	日本のスポーツの現状と課題、日本のスポーツ振興策について	・統計データから日本のスポーツの現状と課題、スポーツ基本法、スポーツ基本計画について学ぶ	予習：日本のスポーツ振興の現状について調べる 復習：配付資料を参考にスポーツ振興の現状と課題についてまとめる
5 回目	トップアスリートのパフォーマンスとスポーツ科学的視点①	スポーツ科学的視点から各競技のトップアスリートのパフォーマンスを理解する①	予習：日本のトップアスリートの活躍について調べる 復習：配付資料を参考にトップアスリートの特徴をまとめる
6 回目	トップアスリートのパフォーマンス	スポーツ科学的視点から各競技のトップアスリートのパフォーマンスを理解	予習：オリンピックなどのトップアスリートの活躍に

	とスポーツ科学的視点②	する②	ついて調べる 復習：配付資料を参考にトップアスリートの特徴をまとめる
7回目	子どもの熱中症対策について	乳幼児の熱中症とその対策及び対応について学ぶ	予習：熱中症対策について調べる 復習：配布資料を参考に子どもの熱中症対策について振り返る
8回目	理想的な運動基準と効果的な実践方法について	生涯にわたるスポーツライフの実現に向けた計画の立て方について学ぶ	予習：自分のこれからのスポーツライフについて考える 復習：現実的な計画を作成し実践する

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布する 参考書：教養としてのスポーツ科学 大修館書店
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に教室にて質問を受け付ける
備考・メッセージ	自分の健康に関心を持ち、運動やスポーツとの関わりを振り返りながら取り組むこと。

講義科目名称：スポーツ実習	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位		実習
担当教員				
野田 章子				

授業概要	<p>本実習は、スポーツの楽しさと大切さを学び、スポーツを取り入れた豊かなライフスタイルについて考えることをねらいとしている。</p> <p>本実習では、①体力テストなどから自分の現状が分かる、②さまざまなスポーツのルールが分かる、③自分にあうトレーニングのやり方が分かる、④スポーツを通じたコミュニケーションができる、⑤運動の大切さが分かることを目標にする。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の健康に興味を持ち、スポーツに積極的に取りくむことができる ・自身にふさわしいスポーツ活動を選び、豊かなスポーツライフを考えることができる。 	授業への参加・態度	50%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツのルールを理解して、試合に生かすことができる。 	確認テスト	10%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・だれとでも、スポーツを通じて、交流することができる。 	試合などのチーム活動	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・実践を通して、自分の課題を見つけ、改善する方法を考えることができる。 	レポート	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力やスポーツ技術を高めようと努力することができる。 	スポーツテスト(2回)	20%
合計			100%
補足事項			

ゲーム形式のチーム活動、スポーツテスト、ルール確認テスト、レポート、授業への参加・態度を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	体力テスト①	新体力テストの実施	予習：ストレッチなどを行い、けがの予防について調べる 復習：体力テストの結果から自分の生活を見直す
2回目	バドミントン①	ルールの理解と用具の扱い方	予習：ルール・用具について調べる 復習：ルール・用具について復習する
3回目	バドミントン②	サーブを中心とした基本練習 リーグ戦形式でのゲーム	予習：サーブについて調べる 復習：試合を観戦する
4回目	バドミントン③	スマッシュ・カットを中心とした基本練習 リーグ戦形式でのゲーム	予習：スマッシュ・カットについて調べる 復習：試合を観戦する
5回目	バレーボール①	ルールの理解と用具の扱い方	予習：ルール・用具について調べる 復習：ルール・用具について復習する
6回目	バレーボール②	パスを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：パスについて調べる 復習：試合を観戦する
7回目	バレーボール③	アタック、レシーブを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：アタック、レシーブについて調べる 復習：試合を観戦して感想を書く
8回目	卓球①	ルールの理解と用具の扱い方	予習：ルール・用具について調べる 復習：ルール・用具について復習する
9回目	卓球②	サーブを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：サーブについて調べる 復習：試合を観戦して感想

			を書く
10 回目	卓球③	スマッシュ、カットを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：スマッシュ、カットについて調べる 復習：試合を観戦した感想を書く
11 回目	バスケットボール ①	ルールの理解と用具の扱い方	予習：ルール・用具について調べる 復習：ルール・用具について復習する
12 回目	バスケットボール ②	パス、ドリブルを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：パス、ドリブルについて調べる 復習：試合を観戦して感想を書く
13 回目	バスケットボール ③	シュートを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	予習：シュートについて調べる 復習：試合を観戦して感想を書く
14 回目	体力テスト②	トレーニングについて 各スポーツの基礎技術の確認	予習；トレーニングについて調べる 復習：トレーニングの実践を各自で行う。
15 回目	学習のまとめ	各競技のルールについて確認 自分のライフスタイルとスポーツについて考える	予習：各競技のルールを調べる 復習：自分にあったスポーツを実践する

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布 参考書：松野修二（監）『スポーツステップアップ DVD シリーズ バドミントンパーフェクトマスター』、新星出版社、2008 大林素子（監）『DVD で分かる！バレーボール基本・練習・実践テクニック』、西東社、2015

	宮崎善仁（監）『絶対うまくなる！卓球』、主婦の友社、2012 長谷川健志（監）『DVD 上達レッスン バスケットボール』、成美堂出版、2007
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応可
備考・メッセージ	積極的に運動に取り組む姿勢で参加すること 運動できる服装、体育館シューズが必要

講義科目名称：コンピュータ演習	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	2	必修	演習
担当教員				
小浦康平				

授業概要	<p>① パソコンの基本操作や各種設定方法を身につけ、タッチタイピングを習得する。</p> <p>② インターネットを使用する上で必要な社会ルールやマナー、著作権について理解する。ホームページ閲覧や検索方法などを身につける。</p> <p>③ Word を使い、正確かつスピーディな文書作成が行えるよう、基本操作を学習する。保育現場で必要となる園だよりやポスターなどを作成する。</p> <p>④ Excel を使い、計算式や関数の組み立て、表の装飾やグラフの作成を学習する。行事カレンダーや出席簿などを作成する。</p> <p>⑤ PowerPoint を使い、プレゼンテーションの仕方および注意点等を学習する。電子絵本を作成し発表する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	保育士として必要な Word、Excel、PowerPoint の基本的な使い方を学ぶ。	・課題提出	50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	Office 系アプリケーションを活用して、相手に伝わる資料やプレゼンテーションを構築する。	・課題提出 ・成果発表	40%
主体的に学ぶ力	授業態度や完成まで取り組む姿勢を身に付ける。	・課題提出	10%
合計			100%
補足事項			

本授業では毎回 10 分間のタイピング練習を行う。課題は指定した形式（データもしくは印刷物）での提出とする。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	コンピュータの基礎知識	パソコンの基本操作、各種設定、ファイル保存、タイピングの基本	パソコンがどのような仕組みで構成されているか、また、操作方法と大学内でのファイルの保存場所などを確認する
2 回目	文書作成（1）	Word の基本操作、画面構成、タイピング、文字入力（ひらがな、カタカナ、漢字変換）	ホームポジションを守ったタッチタイピングを継続的に学習する
3 回目	文書作成（2）	ビジネス文書の作成（あいさつ文の挿入、文字の装飾、書式設定、拡張書式設定）	中央揃えやインデントなど文字の配置や飾りつけの練習課題を行う
4 回目	文書作成（3）	表枠作成（表の挿入、列の分割・結合、罫線の装飾）	表挿入のボタンの位置および完成例をもとにした表枠作成の練習課題を行う
5 回目	文書作成（4）	図形の操作（図形の基本操作、クリップアート、オートシェイプ、写真）	図形の拡大縮小・移動などの基本操作の確認と、図形を含む練習課題を行う
6 回目	Word のまとめ	総復習・課題作成（園だより）	レイアウトを整え、イラストや表枠を入れた見やすく楽しい園だよりを完成させる
7 回目	Excel の基礎（1）	表計算の基本用語と概念、画面構成、データ入力の基礎、オートフィル、セルの書式設定	効率の良い範囲選択や曜日などの自動入力など、テキストを見なおして例題を解く
8 回目	Excel の基礎（2）	計算式（加減乗除）、関数（合計、平均、カウント、最大、最小）	計算式の作成と関数の使用（オート SUM）の練習課題を行う
9 回目	Excel の基礎（3）	関数（IF、RANK、COUNTIF）、データの並べ替え	目的に応じた関数の使用、住所録などの並べ替えの練習課題を行う
10 回目	Excel のまとめ	総復習・課題作成（行事カレンダー・出	適切な関数を活用し、レイ

		席簿)	アウトを整えた見やすい行事カレンダーや出席簿の作成を行う
11 回目	情報モラルおよびインターネットの活用	インターネット社会のルール・マナー、著作権の保護、情報検索方法	インターネットを活用する際の危険な行為を再度認識し、ネット活用を行う
12 回目	PowerPoint の基礎 (1)	スライドの作成、テキスト・図の挿入、アニメーションの設定	文字や図を活用したスライド作成の練習課題を行う 電子絵本の構成を考える
13 回目	PowerPoint の基礎 (2)	スライドショー操作および発表の注意点、印刷・配布資料の作成、電子絵本作りの課題内容説明	電子絵本の構成を考える
14 回目	PowerPoint のまとめ	課題作成 (電子絵本)	電子絵本作りに必要な素材集めや、資料作成を行う
15 回目	PowerPoint のまとめ・発表	電子絵本のプレゼンテーション発表	効果的な手法でのプレゼンテーション発表を振り返り、改善点を考える
16 回目			

科目 (教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：コンピュータ演習 (保育) (テキスト代：1,000 円)
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	月火水の放課後
備考・メッセージ	毎回の提出課題が評価に繋がるため休んだ場合も提出すること。

講義科目名称：保育原理	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
松田 清美				

授業概要	<p>本科目の目的は、保育の本質にかかわる専門的知識や考え方を習得し、保育者として自己探求できる力の基礎を養うことである。前半では、保育とは何かを考え、保育の意義や制度を学ぶ。続いて保育指針や教育要領に抛りながら保育の内容や方法について理解する。後半では、保育の思想や歴史的変遷について取り上げ、現代の保育や子どもをめぐる状況を多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力の基盤を養うことを目指す。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・保育者の基盤となる人間性について理解し、考えを述べることができる。	・テスト	5%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義及び目的について理解している。 ・保育に関する法令及び制度を理解している。 ・保育指針・教育要領における保育の基本について理解している。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題② ・テスト 	10% 60%
コミュニケーション能力	・子どもや保育に関して、他者と意見を交わしたり、話し合ったりすることができる。	・課題①の発表・討議	5%
課題解決能力	・保育における課題について、自身の関心に基づき探究することができる。	・課題①	10%
主体的に学ぶ力	・自らがめざす保育や保育者について考え、論じることができる。	・課題③	10%
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保育の理念と目的	保育とは何かを、理念や目的から考える。	予習：テキストのレッスン1を読み、保育とは何かを考えておく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
2回目	保育の社会的意義	現代社会における保育の意義を考える。	予習：テキストのレッスン2を読んでおく。 復習：授業を振り返り、保育の社会的意義に対する考えを深める。
3回目	保育の法令と制度	法令と制度から幼稚園・保育所・認定こども園について学ぶ。	予習：テキストのレッスン8を読み、基礎的事項を理解しておく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
4回目	現代における保育の現状と課題（資料収集・レポート作成）	各自の関心に基づき、資料を収集し、レポートにまとめる。（課題①）	予習：ニュース等から、保育に関する内容で関心のあるものを集めておく。 復習：資料収集を十分に行う。
5回目	現代における保育の現状と課題（発表・討議・講義）	レポートにまとめた内容を発表し、他者と意見を交わす。	予習：発表の準備をする。 復習：自身や他者の発表を振り返り、関心を深める。
6回目	保育指針・教育要領における保育の基本(1)	「発達に応じた保育」「養護と教育」について学ぶ。	予習：テキストのレッスン5を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
7回目	保育指針・教育要領における保育の基本(2)	「環境と通して行う保育」と「遊びによる学習」について学ぶ。	予習：テキストのレッスン6・10を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。

8回目	保育者の役割と専門性	子ども理解と援助について学ぶ。	予習：テキストのレッスン4を読んでおく。 復習：授業を振り返り、子ども理解について考えをまとめる。
9回目	保育の目標・内容及びカリキュラム・マネジメント	保育指針・教育要領から保育の目的・内容、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。	予習：テキストのレッスン11を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
10回目	これまでの学習のまとめ	1・2・3・6・7・8・9回の授業内容を整理し、学習成果をノートにまとめる。(課題②)	予習：これまでの学習を振り返り、まとめる準備をしてくる。 復習：課題を仕上げる。
11回目	海外の保育思想	ルソー、フレーベル、オーエンの保育思想を学ぶ。	予習：テキストのレッスン13を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
12回目	海外の保育	レッジョ・エミリアの保育を学ぶ。	予習：テキストのレッスン14を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
13回目	日本における保育の歴史	明治期以降の幼稚園・保育所の歴史を学ぶ。	予習：テキストのレッスン15の前半を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
14回目	日本の保育思想	倉橋惣三と城戸幡太郎の保育思想について学ぶ。	予習：テキストのレッスン15の後半を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
15回目	全体のまとめにかえて	本授業での学習を踏まえ、これからの保育と保育者について考えたことを小論文にまとめる。(課題③)	予習：これまでの学習を振り返っておく。
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
-----------	----------------

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科書・参考書	<p>●教科書</p> <p>『MINERVA はじめて学ぶ保育 1 保育原理』那須川智子・大方美香(監修) ミネルヴァ書房 2019年</p> <p>●参考書</p> <p>『幼稚園教育要領』文部科学省 2017年 『保育所保育指針』厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水曜日を基本とするが、研究室在室中はいつでも対応する。
備考・メッセージ	<p>テキストを用いる他に、適宜プリントを配布する。</p> <p>子ども・保育・子育て等に関する社会の動向に関心をもち、報道等にも目を向けてほしい。</p>

講義科目名称：子ども家庭福祉	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
高橋 幸市				

授業概要	現代社会における子どもと家庭の現状や課題について、基本的な理解を学習する。また、家族や子育てに対する意識が変化中、子どもの豊かな成長発達を支援していくための様々な子ども家庭福祉に必要とされる法制度や支援の仕組み、その利用について理解する。さらに、一人親家庭の困難、児童虐待や少年非行など子ども家庭福祉の抱える課題や今後の展望についても提示し、今後のあり方について関心を深める。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	現代の子どもと家庭がおかれた状況と課題について理解できる。	中間の小テスト及び定期試験	30%
確かな専門的知識や技能	子どもと家庭の健やかな生活を保障するための子ども家庭福祉の制度や施策、サービスについて理解できる。	中間の小テスト及び定期試験	50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	自身の保育実践の延長線上に子どもと家庭の福祉を想定することができ、それを実現するための方法（制度、施策、サービス等）を考えることができる。	中間の小テスト及び定期試験	10%
主体的に学ぶ力	保育実践を支える基盤としての子ども家庭福祉を理解し、積極的に学習に参加できる。	積極的な授業参加、授業態度	10%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義の展開と評価方法等のガイダンス、子ども家庭福祉の位置づけ	
2回目	現代の子どもの育ちと家族	少子高齢化をキーワードに現代の家族と子どもの育ちを取り巻く状況について学習する。	自分の育ちや家族について関心を持ち振り返ってみておく。
3回目	子どもの権利擁護と子どもの権利条約	子どもの権利について、児童福祉法や子どもの権利条約等を通して理解する。	講義内容を振り返って理解を深めておく。
4回目	子ども家庭福祉の歴史と理念	我が国の子ども家庭福祉の歴史について学びその理念を理解する。	〃
5回目	子ども家庭福祉の法体系と実施体制	我が国の子ども家庭福祉に関する施策や仕組みについて理解する。	〃
6回目	子ども家庭福祉に関わる機関と施設	子ども家庭福祉を支える機関や施設の機能について学習する。	次回小テストを実施するので準備をする
7回目	中間まとめと小テスト	これまでのまとめと確認のための小テストを実施する	
8回目	子ども子育て支援制度と子どもの貧困対策	子ども・子育て支援制度や子どもの貧困対策について学習する。	講義内容を振り返って理解を深めておく。
9回目	母子保健とひとり親施策、DV防止対策	母子保健施策を学習し、ひとり親に対する施策、DV防止について学ぶ。	〃
10回目	保育サービス	保育の現場とサービスの提供について理解する。	〃
11回目	心身障害児をめぐる現状と福祉サービス	心身障害・難病児福祉に関する施策やサービスの提供について理解する。	〃
12回目	児童虐待防止と対応	児童虐待防止と対応について、学習する。	〃
13回目	社会的養護	家庭から離れ代替養育を受ける子どもたちの生活について理解する。	〃
14回目	少年非行と家庭	非行に至る過程を理解し、家庭の重要性を学ぶ。	次回のまとめに備えて質問を準備する。
15回目	まとめ 子ども家庭福祉の今後の課題	これまでの振り返りと学生からの質問に答える。	これまでの復習をして試験に準備する
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	なし。毎回講師が資料を準備する。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	子どもの育ちにとって家庭や社会の持つ意味を考え、その支援の一端を担う保育士の役割の重要性を深く考える機会として欲しい。

講義科目名称：社会福祉	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2	必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	<p>社会福祉とは何か。社会福祉を学ぶ視点、意味・内容を学び、社会福祉の分野（子どもと家族、障害者、高齢者、地域）について理解を深める。本講義では、①社会福祉を学ぶ視点について説明できる、②社会福祉の法体系（福祉六法）を理解できる、③社会保障の要素（社会保険や生活保護制度など）を理解できる、④社会福祉（子どもの家族の福祉、障害のある人の福祉など）について説明できる、⑤子どもと家族の福祉における保育士の役割を説明できることを目標とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉を学ぶ視点について説明できる。 ・社会福祉の法体系を理解できる。 ・社会保障の要素を理解できる。 ・社会福祉について説明できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、社会福祉について理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	社会福祉の課題についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	社会福祉における保育士の役割について考えることができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項			
<p>本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。</p>			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保育と社会福祉	社会福祉としての保育サービスについて説明する。	予習：社会福祉を学ぶ視点を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
2回目	保育と社会福祉	社会福祉を学ぶ視点を説明する。	予習：保育のたどった道すじを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
3回目	社会福祉の道すじ	保育のたどった道すじを理解する。	予習：社会福祉の法体系を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
4回目	社会福祉の意味と考え方	社会福祉の法体系を説明する。	予習：社会福祉の動向をを読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
5回目	社会福祉の意味と考え方	社会福祉の動向を説明する。	予習：社会保障の財源について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
6回目	社会福祉の実施体制	公的機関と財源について説明する。	予習：社会保険の種類を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
7回目	暮らしを支える社会保障制度	社会保険の種類と内容を説明する。	予習：生活保護制度について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
8回目	暮らしを支える社会保障制度	生活保護制度について説明する。	予習：子どもと家族の福祉を学ぶ視点を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
9回目	子どもと家族の福祉	子どもと家族の福祉を学ぶ視点を理解する。	予習：子ども・子育て家庭への支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返

			り理解を深めておくこと。
10 回目	子どもと家族の福祉	子ども・子育て家庭への支援について説明する。	予習：ノーマライゼーションについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
11 回目	障害のある人の福祉	障害のとらえ方とその定義について理解する。	予習：障害のある人に対する福祉サービスについて調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
12 回目	障害のある人の福祉	障害のある人に対する福祉サービスについて説明する。	予習：保育士に求められる役割を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
13 回目	保育士とソーシャルワーク	保育士に求められる役割を理解する。	予習：ソーシャルワーカーとしての保育士の機能を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
14 回目	保育士とソーシャルワーク	ソーシャルワーカーとしての保育士の機能を理解する。	予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
15 回目	まとめ	振り返りを行う。	
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『保育士をめざす人の社会福祉』（みらい）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の 5 限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：社会的養護 I	授業コード：31231 32232
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	卒業：必修、保育士：必修	講義
担当教員				
花城 暢一				

授業概要	<p>現代社会における社会的養護の現状と課題および基本的な考え方を理解し、保育士に必要な知識を養う。本講義では以下の事項を目標とする。</p> <p>①現代社会における社会的養護の意義と歴史的な変遷について理解する</p> <p>②社会的養護の基本的な考え方について理解する</p> <p>③社会的養護の制度や実施体系等について理解する</p> <p>④社会的養護の対象、関係機関および専門職等について理解する</p> <p>⑤社会的養護の現状と課題、保育士の役割について理解する</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	社会的養護における保育士の役割や必要な資質について理解することができる。	・レポート課題 ・学習に取り組む姿勢	10% 10%
確かな専門的知識や技能	社会的養護における保育士に求められる専門的な知識や技能について理解することができる。	・レポート課題 ・定期試験	5% 25%
コミュニケーション能力	社会的養護における対象を理解し、関係者と協働する必要性について理解を深めることができる。	・レポート課題	10%
課題解決能力	現代社会の社会的養護の現状と課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・レポート課題 ・事例検討	5% 10%
主体的に学ぶ力	社会的養護の歴史的変遷を踏まえ、今日の社会的養護の課題を理解することができる。	・定期試験	25%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

○授業内で実施するレポート課題（30%）

○定期試験・事例検討（60%）

○事例検討など、授業全体を通じた学習に取り組む姿勢（10%）を総合して評価を行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のねらいと進め方について	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	社会的養護と保育士	社会的養護の意味、目標、視点を学習する	予習：社会的養護の意義を考える 復習：配布資料を読む
3回目	社会的養護の成り立ちと最近の動向	社会的養護の歴史を学ぶ	予習：児童福祉の歴史を振り返る 復習：配布資料を読む
4回目	社会的養護の基本的な考え方	子どもの権利、自立支援等について学ぶ	予習：子どもの権利について振り返る 復習：配布資料を読む
5回目	社会的養護の形態1	社会的養護の形態を学ぶ	予習：児童福祉の体系を振り返る 復習：配布資料を読む
6回目	社会的養護の形態2	施設養護の内容を学ぶ ～養護系施設～	予習：児童福祉施設を振り返る 復習：配布資料を読む
7回目	社会的養護の形態3	施設養護の内容を学ぶ ～養護系施設～	予習：児童福祉施設を振り返る 復習：配布資料を読む
8回目	社会的養護の形態4	施設養護の内容を学ぶ ～障がい系施設～	予習：児童福祉施設を振り返る 復習：配布資料を読む
9回目	社会的養護の形態5	施設養護の内容を学ぶ ～障がい系施設～	予習：児童福祉施設を振り返る 復習：配布資料を読む
10回目	社会的養護の形態6	施設養護の内容を学ぶ ～治療・育成系施設～	予習：児童福祉施設を振り返る 復習：配布資料を読む
11回目	社会的養護の形態7	家庭的養護の種類と内容を学ぶ	予習：グループホーム等の役割を振り返る 復習：配布資料を読む

12 回目	社会的養護の形態 8	家庭養護の種類と内容を学ぶ	予習：里親制度を振り返る 復習：配布資料を読む
13 回目	施設と関係機関	施設と児童相談所等の関係機関の 関わりを学ぶ	予習：児童相談所の機能を 振り返る 復習：配布資料を読む
14 回目	地域における家庭へ の支援	家庭の養育機能、地域子育て支援に おける保育士の役割を学習する	予習：家庭の機能について 考える 復習：配布資料を読む
15 回目	保育士の役割と専門 性	社会的養護における保育士の役割 と専門性について学ぶ	予習：これまでの授業内容 を振り返る 復習：配布資料を読む
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：参考資料をその都度配布します。 参 考 書：『保育と社会的養護原理』大竹智 他 編集 みらい 『保育福祉小六法』みらい
履修条件	
履修上の注意	原則、指定された座席で受講すること。（席の移動を希望する場合はご相談下さい）
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	授業の出欠確認は出席カード（感想記入シート等）を活用して実施します。

講義科目名称：保育者論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前・後期	2年	2単位	選択・幼稚園免許 必修	講義
担当教員				
安部恵美子・川原ゆかり				

授業概要	<p>保育職が携わるフィールドや保育・教育者の社会的意義を理解する素養を育て、子どもとの関係構築の基本や公教育の目的とその担い手である保育・教育者の存在意識の理解力を向上させる。保育資格の位置づけ、関連諸法令・規則・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「保育・教育要領」を理解することができる。さらに、子育て支援の場に求められる保育者の資質向上を目指し、保育職の社会的使命を会得するために仲間と共に学びあい、考察に繋げることができる。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	グループで子育て支援の事例等をディスカッションし、「保育職の保育職による保育支援」について意見交換し、異なる意見を聴いて、感じる取る感受性を豊かにする。	レポート	
確かな専門的知識や技能	保育資格の位置づけ、関連諸法令・規則・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「保育・教育要領」を理解する。さらに、子育て支援の場に求められ保護者支援の基本を学び、考察する。	定期試験	80%
コミュニケーション能力	子育て支援や保護者支援に不可欠なコミュニケーション能力を醸成するために、グループ討議や意見交換・意見発表を行い、自己見聞を広げる。	レポート	
課題解決能力	対人援助職に必要な能力の考察と洞察を行い、自分の考えを言語化する力を養う。決められた時間・期限内に課題レポートをまとめる事ができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	保育職の専門性を認識し、ワークやグループディスカッションに積極的	レポート	10%

	に取り組むことができる。		
		合計	100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目			
2 回目			
3 回目			
4 回目			
5 回目			
6 回目			
7 回目			
8 回目			
9 回目			
10 回目			
11 回目			
12 回目			
13 回目			
14 回目			
15 回目			
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：教育方法論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	必修	講義
担当教員				
岩崎 勢智子				

授業概要	乳幼児期にふさわしい保育方法への理解を深め、この学びが実践の現場に生かされることを目標とする
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のあいさつ、返事が笑顔でできる ・肯定的なものの見方・考え方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・授業への参加・態度 	25%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等で学んだことを授業の中にフィードバックし、正しく検証することができる ・専門的なことが、日々の保育に生かす工夫ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中でのグループワーク ・レポート 	25%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・対指導者ときちんとあいさつができる ・グループワーク（ディスカッション）で、相手の意見を傾聴し、受容できる ・更に自分の考えを述べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・呼名でのあいさつ、返事 	20%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、自分なりの考えを明確に述べるができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・定期試験 	15%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・諸エピソードについて、自分なりの解決方法を考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加、態度 ・レポート 	15%
合計			100%
補足事項			

・本授業では、定期試験 50% グループディスカッション 30% 授業への参加態度 20%の割合で評価する
 ・レポートは紙媒体のみとする

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	「保育方法とは何か？」について理解する	テキストのエピソードについて復習する
2回目	子ども理解と保育方法	保育の方法は子ども理解が出発点であることを知る	子ども理解の方法について予習する
3回目	環境を生かした保育方法	環境を通しての保育とは何かを理解する	実習でどんな環境構成があったか予習する
4回目	遊びを通しての保育	遊び=学びであることを理解し、そのための援助の仕方を考えさせる	“遊び”をどう捉えるか予習する
5回目	個と集団を生かした保育方法	乳幼児期の集団の育ちについて理解させる	個と集団の育ちについて復習する
6回目	乳幼児期にふさわしい園生活と保育形態	子どもにとってふさわしい園生活について考えさせる	実習で学んだことを予習しておく
7回目	発達の時期に応じた保育方法①	3.4.5 才児の発達と保育方法を考えさせる	保育の原理と方法を振り返る
8回目	発達の時期に応じた保育方法②	0.1.2 才児の発達と保育方法を考えさせる	保育の原理と方法を振り返る
9回目	保育の計画・実践、評価の実際	PDCAのサイクルを説明し、実践への理解を図る	保育の方法のステップアップを考えておく
10回目	保育計画作成	実際に部分保育の計画をパソコンで作らせる	保育計画のテーマを決めておく
11回目	メディアと保育	保育におけるメディアの活用とメディアとの向き合い方を理解させる	前回作成した計画案を準備しておく
12回目	保育の計画・実践・評価の実際	わこう村 和光保育園の場合を考察する	実習での経験例を考えておく
13回目	家庭・地域との連携を生かした保育	社会や家庭との連携の必要性とその方法を理解させる	なぜ連携なのか考えておく
14回目	小学校との交流活動のデザイン	幼・保・小連携のあり方について理解させる	小学校学習指導要領にふれておく
15回目	配慮を要する子どもへの保育方法	“ちょっと気になる子”への保育の実際を理解する	「ちょっと気になる子」の意味を考えておく
16回目	定期試験	レポートにより確かな保育観が確立で	レポート

		きたか	
--	--	-----	--

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の方法及び技術
教科書・参考書	教科書：保育方法・指導法 ミネルヴァ書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業前後で対応可能
備考・メッセージ	各自が確かな保育観・子ども観を確立できるよう、まじめに授業に臨むこと

講義科目名称：教育経営論	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	幼稚園教諭必修	
担当教員				
久保田 美千代				

授業概要	<p>①社会状況の変化を踏まえ学級経営や教育経営の概要・理念について理解する。</p> <p>②子どもの生活の変化や幼児の発達について理解し教育運営の具体的な展開について計画立案する。</p> <p>③5領域の保育内容に関する基本原理や活動を理解し学級づくりの進め方が分かる。</p> <p>④幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型子ども園教育・保育要領等の関係法規・教育行政の理念について理解し保育記録の書き方や要録の記入方法が分かる。</p> <p>⑤個に応じた指導、地域社会や家庭との連携など保育の背景と広がりについて理解する。</p> <p>⑥保育施設を取り巻く安全管理について具体的な取り組みを理解する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容を理論的に考察できる。 学級経営及び保育について理解し成果として制作及び表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 レポート 課題制作の成果 	40%
確かな専門的知識や技能			15%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で協議し内容をまとめ表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループディスカッション及び発表 	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題を考察しレポートを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート 	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 教育経営論が保育教諭にとって必要な専門知識であることを理解し積極的な学習ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加・態度 	5%
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	学級経営の概要・教育政策	本時の復習、次時予習 学級経営の理念の確認
2回目	学級経営の理念	学級経営の理念と信頼される保育者の在り方	復習、次時予習：学級経営計画準備の確認
3回目	学級経営計画準備	5領域の保育内容に関する基本原理や教育・保育課程と指導計画の立案	復習、予習：学級経営計画と運営の確認
4回目	学級経営計画運営1	3～5歳児の発達とクラス運営（心を育てる場としてのクラス）	復習、予習：学級経営計画と運営の確認
5回目	学級経営計画運営2	3～5歳児の発達とクラス運営（仲間関係と共同的活動）	復習、予習：保育内容と領域別活動の確認
6回目	保育内容と領域別活動	5領域の保育内容と実践事例の理解	復習、予習：集団形成の過程と学級づくりの確認
7回目	集団形成の過程と学級づくり	人とのかかわり・言葉の獲得に関する育ちと活動についての理解と事例対応	復習、予習：学級づくりの進め方の確認と制作物の構想
8回目	学級づくりの進め方	環境の構成と再構成、感性と表現に関する育ちと活動についての理解と制作活動	復習、予習：個に応じた指導の確認
9回目	個に応じた指導	個の特性及び発達に課題のある子どもの指導について	復習、予習：安全教育の確認
10回目	安全教育	危機管理や事例を基にした事故対応を含む学校安全と新たな課題について	復習、予習：幼稚園、保育所、認定こども園の確認
11回目	幼稚園と保育所、認定こども園	幼稚園教育要領、保育所指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた関係法規・教育理念等の理解	復習、予習：保育の記録と評価の確認
12回目	保育の記録と評価	指導要領をもとにした評価資料の記録の在り方と保育要録の記入方法の理解	復習、予習：保育の背景と広がりの確認と朝の会の構想
13回目	保育の背景と広がり	先駆者たちの教育思想と保育施設の関わり、地域社会や家庭との連携について	復習、予習：連携教育の確認と学級便りの構想
14回目	連携教育について	保幼小連携の在り方、家庭との連携及び保護者との関りについての理解と便りの作成	復習、予習：保育者の研修の確認とスピーチの構想
15回目	保育者の研修と評価	保育者の自己研鑽と研修体制及び自己評価スピー実習	総復習
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
教科書・参考書	教科書：保育の実践・原理・内容 ミネルヴァ書房 参考書：保育内容総論、〇歳児のクラス運営、学級経営の基礎・基本 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育の心理学	授業コード：53251 54251
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
座間味 愛理				

授業概要	<p>1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、現代の発達を捉える視点について理解する。</p> <p>2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を捉える歴史的文脈を踏まえ今日の発達観について述べることができる。 ・子どもの発達に影響を与える要因、子どもの学びに関わる理論（学習理論、模倣）を述べることができる。 	学習態度・感想シート	10%
		筆記試験	20%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの情動や認知発達を理解し保育者が関わる意義について述べる 	筆記試験	30%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学びを支える保育の意義について文字への関心を例に述べる 	レポート課題	40%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	I. 発達を捉える視点(1)	子どもの発達を理解することの意義	復習:「子どもに関するイメージシート」の整理 予習:自分の現在の特徴(身体の発達・食べ物の好み・性格など)は何によって規定されたかを考える
2回目	I. 発達を捉える視点(2)	子どもの発達と環境	復習:発達を規定する要因 予習:私達が「子ども」と聞いて連想する内容を記す。その後、70歳代の方に「子どもの頃よくしていたことは何か」と聞いて比較する。そして50年後の子どもは何をしているかを想像する。
3回目	I. 発達を捉える視点(3)	発達理論と子ども観・保育観	復習:子どもは小さな大人か?保育の誕生に関わる保育観の歴史生態学的システム理論(ecological systems theory) 予習:歩行ができるまでの運動発達の順番について実際に姿勢を取りながら整理する
4回目	II. 子どもの発達過程(1)	赤ちゃんの能力、身体的機能と運動機能の発達	復習:乳児の発達プロフィールの作成、幼児期の運動機能 予習:自分の6つの情動(感情)を表す顔を写真に撮っておく
5回目	II. 子どもの発達過程(2)	社会情動的発達①情動表出	復習:情動表出の特性理解、社会的機能 予習:ペアになり、相手の不快情動を快情動に、快情動を落ち着けるよう誘導する方法を模索する
6回目	II. 子どもの発達過程(3)	社会的情動発達②情動調節の発達	復習:情動調整における母子の相互作用、情動制御の発達 予習:自分の身体の部位を問われて触る時期、名前を呼ばれると返事ができるのはなぜか等、子どもの自己理解に関する資料を読む
7回目	II. 子どもの発達過程(4)	自己の発達に関する心理学実験	復習:子どもの自己理解に関する発達過程 予習:これまで見たこともない物体について理解するとき、私達はどのように対象を理解していくのかについて整理する
8回目	II. 子どもの発達過程(5)	認知の発達	復習:ピアジェの認知発達理論 予習:あなたは人を叩いてはいけないという頃学習したか。それはどのように理解していったかを考え記述する

9回目	II. 子どもの発達過程（6）	心の発達	復習：心の理論、道徳性の発達 予習：家族や周囲の人から初めて話した言葉について調査する
10回目	II. 子どもの発達過程（7）	言葉の発達とコミュニケーション	復習：一語文、二語文、多語文、言葉の発達過程で生じる問題 予習：子どもが大人の真似をする写真資料を探す
11回目	III. 子どもの学びと保育（1）	乳幼児期の学びに関わる理論	復習：模倣、学習理論 予習：幼少期に好きだった遊びについて、家族や周囲に聞き、記述する
12回目	III. 子どもの学びと保育（2）	乳幼児期の学びの過程と特性	復習：子どもの遊びと保育者とのかかわり 予習：子どもの好きな遊びを5つ挙げ、発達段階で整理する
13回目	III. 子どもの学びと保育（3）	乳幼児期の学びを支える保育	復習：遊びと仲間づくりを支える社会性 予習：子どもが文字に感心を示す時期、子どもの書く文字の特徴について整理する
14回目	III. 子どもの学びと保育（4）	乳幼児期の学びを支える保育	復習：遊びと学習 文字への関心 予習：第1回で記述した「子どもに関するイメージシート」を振り返る
15回目	本講義のまとめ		復習：保育の心理学の視点を得ることで子ども理解がどのように変化したかを対応表にまとめる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	講義で使用する資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	発達に関する用語を具体的事象との関連から理解していくため、学生の経験を踏まえた発表を積極的に取り入れる。
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	「名前を呼ばれて返事ができるのはどうして？」など、人に関心を持ち、人の持つ能力や個性がどのような過程で発達（変化）するのか、身近なことを意識しておきましょう。

講義科目名称：子どもの家庭支援の心理学	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2		講義
担当教員				
座間味 愛理				

授業概要	<p>本科目は、さまざまな場面の子どもと家庭・保育士・社会の様子について知識を得る。その中で今日の子どもと家庭をめぐる状況、保育士養成教育において子育て家庭支援で強化する内容につながる課題を読み取る力を養うことを目的としている。</p> <p>講義では、①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。②家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達心理学の視点から初期経験の重要性、発達課題を理解できる。 ・親子関係や家族関係など子どもの家庭を包括的に捉えることができる。 	定期試験	50%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を通して自分の意見を文章で表現し、他者に伝えることができる。 	授業後のコメントシート①	10%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭をめぐる現代社会と課題についてテーマを選択し、保育者としての役割を発表することができる。 	授業内発表	20%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家庭をテーマとした現代の社会状況と課題を述べることができる。 	授業後のコメントシート②	20%
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価について説明する	予習：教科書の目次を読み、知らない用語を調べる 復習：オリエンテーション資料、教科書 pp. 3-7.
2回目	生涯発達	人生周期の階層的構造・人間の発達過程・発達課題	予習：生涯発達に関する用語を調べる 復習：教科書 pp. 9-16 を読む
3回目	初期経験の重要性	人間の発達過程・発達課題	予習：発達課題に関する用語を調べる 復習：pp. 17-20 を読む
4回目	家族・家庭の理解	家族・家庭の意義と機能 親子関係・家族関係の多様性	予習：ルソーの考え方に関する資料を読み返す 復習：pp. 21-28 を読む
5回目	子育て家庭に関する現状と課題	子育てを取り巻く社会的状況①	予習：子どもとメディアに関する用語を調べる 復習：pp. 29-36 を読む
6回目	子育て家庭に関する現状と課題	子育てを取り巻く社会的状況② ライフコースと仕事・子育て	予習：3歳児神話に関する用語を調べる 復習：pp. 36-45 を読む
7回目	子育て家庭に関する現状と課題	子育てを取り巻く社会的状況③ 多様な家庭とその理解	予習：育児不安に関する用語を調べる 復習：pp. 46-56 を読む
8回目	特別なニーズを持つ家庭と援助	特別なニーズへの支援の考え方・子どもへの対応	予習：教科書事例 4-1～6 を読む 復習：pp. 57-68 を読む
9回目	特別なニーズを持つ家庭と援助	ドメスティック・バイオレンス・ひとり親家庭	予習：教科書事例 4-8～11 を読む 復習：pp. 68-84 を読む
10回目	子どもの精神保健とその課題	子どもの心の理解－子どもの行動の意味を読み取る・乳時期の精神保健	予習：心身症に関する用語を調べる 復習：pp. 85-93 を読む
11回目	子どもの精神保健とその課題	幼児期の精神保健	予習：事例 5-2、3 を読む 復習：pp. 93-100 を読む
12回目	子どもの精神保健	児童期・青年期の精神保健	予習：ゲーム依存に関する

	とその課題		用語を調べる 復習：pp. 101-107を読む
13回目	子どもの精神保健 とその課題	喪失体験による問題と対応	予習：災害による喪失体験 に関する用語を調べる 復習：pp. 107-111を読む
14回目	子どもの精神保健 とその課題	児童虐待	予習：被虐待時が表すサイン について調べる 復習：pp. 111-117を読む
15回目	授業のまとめ	重要な用語と理解の確認	予習：これまでの資料を 読み返す 復習：教科書の振り返り
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	保育の対象の理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房、2019 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	毎回の授業後にコメントシートを配布します。授業についてのあなたの意見、疑問、子どもや家庭についての新たな理解、授業への要望などを書いてください。次回の授業の進行に使用します。

講義科目名称：子どもの理解と援助	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	必修	演習
担当教員				
座間味 愛理				

授業概要	<p>1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、現代の発達を捉える視点について理解する。</p> <p>2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実践を通して子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義を述べることができる。 ・ 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解している。 	学習態度・感想シート	10%
		レポート課題	30%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを理解するための具体的な方法を他者に分かるよう伝えることができる。 	口頭発表	30%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本について例を挙げて概説することができる。 	レポート課題	30%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	I. 発達を捉える視点	(1) 子どもの発達を理解することの意義	復習:「子どもに関するイメージシート」の整理 予習:自分の現在の特徴(身体の発達・食べ物の好み・性格など)は何によって規定されたかを考える
2回目	I. 発達を捉える視点	(2) 子どもの発達と環境	復習:発達を規定する要因 予習:私達が「子ども」と聞いて連想する内容を記す。その後、70歳代の方に「子どもの頃よくしていたことは何か」と聞いて比較する。そして50年後の子どもは何をしているかを想像する。
3回目	I. 発達を捉える視点	(3) 発達理論と子ども観・保育観	復習:子どもは小さな大人か?保育の誕生に関わる保育観の歴史、生態学的システム理論(ecological systems theory) 予習:歩行ができるまでの運動発達の順番について実際に姿勢を取りながら整理する
4回目	II. 子どもの発達過程	(1) 赤ちゃんの能力、身体的機能と運動機能の発達	復習:乳児の発達プロフィールの作成、幼児期の運動機能 予習:自分の6つの情動(感情)を表す顔を写真に撮っておく
5回目	II. 子どもの発達過程	(2) 社会情動的発達 ①情動表出	復習:情動表出の特性理解、社会的機能 予習:ペアになり、相手の不快情動を快情動に、快情動を落ち着けるよう誘導する方法を模索する
6回目	II. 子どもの発達過程	(3) 社会的情動発達 ②情動調節の発達	復習:情動調整における母子の相互作用、情動制御の発達 予習:自分の身体の部位を問われて触る時期、名前を呼ばれると返事ができるのはなぜか等、子どもの自己理解に関する資料を読む
7回目	II. 子どもの発達過程	(4) 自己の発達に関する心理学実験	復習:子どもの自己理解に関する発達過程 予習:これまで見たこともない物体について理解するとき、私達はどのように対象を理解していくのかについて整理する
8回目	II. 子どもの発達過程	(5) 認知の発達	復習:ピアジェの認知発達理論 予習:あなたは人を叩いてはいけないといつ

			頃学習したか。それはどのように理解していったかを考え記述する
9回目	II. 子どもの発達過程	(6) 心の発達	復習：心の理論、道徳性の発達 予習：家族や周囲の人から初めて話した言葉について調査する
10回目	II. 子どもの発達過程	(7) 言葉の発達とコミュニケーション	復習：一語文、二語文、多語文、言葉の発達過程で生じる問題 予習：子どもが大人の真似をする写真資料を探す
11回目	III. 子どもの学びと保育	(1) 乳幼児期の学びに関わる理論	復習：模倣、学習理論 予習：幼少期に好きだった遊びについて、家族や周囲に聞き、記述する
12回目	III. 子どもの学びと保育	(2) 乳幼児期の学びの過程と特性	復習：子どもの遊びと保育者とのかかわり 予習：子どもの好きな遊びを5つ挙げ、発達段階で整理する
13回目	III. 子どもの学びと保育	(3) 乳幼児期の学びを支える保育	復習：遊びと仲間づくりを支える社会性 予習：子どもが文字に感心を示す時期、子どもの書く文字の特徴について整理する
14回目	III. 子どもの学びと保育	(4) 乳幼児期の学びを支える保育	復習：遊びと学習 文字への関心 予習：第1回で記述した「子どもに関するイメージシート」を振り返る
15回目	本講義のまとめ		復習：保育の心理学の視点を得ることで子ども理解がどのように変化したかを対応表にまとめる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	「名前を呼ばれて返事ができるのはどうして？」など、人に関心を持ち、人の持つ能力や個性がどのような過程で発達（変化）するのか、身近なことを意識しておきましょう。

講義科目名称：こどもの保健	授業コード：
英文科目名称：Child Health	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
滝川 由香里				

授業概要	子どもの心身の健康と保健の意義・子どもの身体発育について理解する。さらに子どもの疾病とその予防についての知識を習得し、適切な対応について学びを深める。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	子どもの発達・発育、健康や保健活動の意義について理解し、述べることができる。	定期試験 小テスト	75% 10%
コミュニケーション能力	子どもの健康増進に関する課題について、グループで協力して議論することができる。	グループディスカッション	5%
課題解決能力	子どもの疾病と予防、健康増進に関する適切な対応について述べるができる。	レポート	5%
主体的に学ぶ力	授業を受講する際に、質問や発言をするなど、積極的に授業に参加することができる。	授業参加の意欲・態度	5%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、定期試験 75%、小テスト 10%、レポート 5%、グループディスカッション 5%、授業参加の意欲・態度 5%で評価する。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	子どもの健康と保健の意義	保健活動の意義と目的、健康の概念、健康指標、母子保健の現状	予習；教科書 p 9～13 復習：授業内容の復習
2回目	身体発達及び運動機能の発達と保健①	生物としての成り立ち、身体測定、発育曲線、	予習：教科書 p 19～27 復習：授業内容の復習

3回目	身体発達及び運動機能の発達と保健②	運動機能の発達	予習：教科書 p 27～29 復習：授業内容の復習
4回目	生理機能の発達と保健①	呼吸、循環、排泄機能、水分代謝、体温調節	予習：教科書 p 30～35 復習：授業内容の復習
5回目	生理機能の発達と保健②	内分泌の発達、睡眠・覚醒リズム、感覚・神経機能	予習：教科書 p 35～40 復習：授業内容の復習
6回目	発達に即応した基本的生活習慣の形成①	睡眠、食習慣、排泄週間、	予習：教科書 p 41～50 復習：授業内容の復習
7回目	発達に即応した基本的生活習慣の形成②	清潔習慣、歯磨きについて	予習：教科書 p 50～58 復習：授業内容の復習
8回目	健康状態の観察	健康観察と対応について 体調不良時によくみられる症状	予習：教科書 p 59～63 復習：授業内容の復習
9回目	発達発育の把握と健康診断と保護者との情報共有	健康診断、身体発育についての評価、保護者との健康情報の共有	予習：教科書 p 64～71 復習：授業内容の復習
10回目	子どもの疾病の特徴	疾病の特徴、感染症、予防接種、	予習：教科書 p 73～84 復習：授業内容の復習
11回目	子どもの疾病の予防及び適切な対応①	先天異常、アレルギー、消化器疾患、呼吸器疾患、	予習：教科書 p 84～90 復習：授業内容の復習
12回目	子どもの疾病の予防及び適切な対応②	循環器疾患、血液疾患、悪性腫瘍、神経疾患、腎・泌尿器疾患	予習：教科書 p 90～95 復習：授業内容の復習
13回目	子どもの疾病の予防及び適切な対応③	感覚器の疾患、整形外科疾患、内分泌・代謝疾患	予習：教科書 p 96～100 復習：授業内容の復習
14回目	子どもの健康に関する現状と課題①	子どもの貧困、医療的ケア児童虐待について	予習：教科書 p 13～18 復習：授業内容の復習
15回目	まとめ、復習	まとめや復習を行う	
16回目		定期試験	

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：子どもの保健（ななみ書房）
履修条件	特になし
履修上の注意	教科書を事前に読み、専門用語等不明なところは積極的に質問する事。
オフィスアワー	火曜日 5 限目（研究室）
備考・メッセージ	保育士には子どもの命を守る責任があります。覚えることが沢山ありますが、真摯な態度で学びを深めて下さい。

講義科目名称：子どもの健康と安全	授業コード：13135 14134
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	選択必修	演習
担当教員				
井田裕子				

授業概要	<p>①乳幼児の日常生活の養護の実際を学び実習する。</p> <p>②バイタルサインの測定・記録および評価の実施、体調不良や障害が発生した場合の対応とケアについて学ぶ。</p> <p>③感染予防の3原則を理解する。排泄物の処理方法を理解する。効果的な手洗い・うがいを体験する。</p> <p>④子どもの事故と発生要因を理解する。気道内異物時の模擬演習、心肺蘇生法の模擬演習、包帯法などを実習する。</p> <p>⑤集団保育における年間保健安全計画、施設設備の消毒、保育者自身の生活習慣の整え方と健康管理にふれる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技術	<p>①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</p> <p>②保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</p> <p>③子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解できる。</p> <p>④保育における感染症対策について、具体的に理解する。</p> <p>⑤保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</p> <p>⑥子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価等について、具体的に理解する。</p>	<p>・筆記試験</p> <p>・実習・提出物</p>	<p>50%</p> <p>40%</p>
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力		・学習への取り組み・態度	10%
出席			受験要件
補足事項			100%
筆記試験（50％）、実習・提出物（40％）、学習への取り組み・態度（10％）を総合して評価を行う。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保健的観点を踏まえた保育環境および援助	子どもの健康と保育の環境、保健的環境を作る保健活動と実際	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
2回目	子どもの健康と発育発達状態の把握	子どもの成長発達（形態・運動・精神・生理的機能の発達）、発育評価	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
3回目	保育における健康および安全の管理①	衛生管理（屋内・屋外施設）、日常の清潔保持と消毒	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
4回目	保育における健康および安全の管理②	事故の特徴と発生要因、事故防止および安全対策、危機管理、災害への備え	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
5回目	子どもの体調不良に対する適切な対応①	体調不良や障害が発生した場合の対応とケア、ガイドライン	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
6回目	子どもの体調不良に対する適切な対応②	子どもに起きやすい事故の応急処置	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと

7回目	子どもの体調不良に対する適切な対応③	救急処置および救急蘇生法	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
8回目	感染症対策	感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応、ガイドライン	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
9回目	保育における保健的対応①	保健的対応の基本的な考え方、3歳未満児の特徴と保健的対応	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
10回目	保育における保健的対応②	3歳未満児の養護の実際（日常生活の養護）	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
11回目	保育における保健的対応③	個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
12回目	保育における保健的対応④	障害のある子どもへの対応、ガイドライン	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
13回目	健康および安全管理の実施体制①	職員間の連携・協働と組織的取組、保育における保健活動の計画・評価	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
14回目	健康および安全管理の実施体制②	母子保健・地域保健における自治体、家庭・専門機関・地域の関係機関との連携	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
15回目	健康および安全管理の実施体制③	健康管理（年間保健安全計画・健康観察など）、生活習慣の整え方と健康管理	予習：学習する範囲の教科書を読んでおくこと 復習：学んだことを振り返りながら教科書・資料などをまとめておくこと
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：「子どもの健康と安全」佐藤直子 編著 ななみ書房 参考書：「子どもの健康と安全 演習ノート」小林美由紀 編著 診断と治療社 「子どもの健康と安全」大西文子 執筆・編集 中山書店
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	前期：月曜日3・4限目
備考・メッセージ	実技の実習を自分で実践したり、教科書をよく読んでおくこと。

講義科目名称：子どもの食と栄養	授業コード：11231、11233
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
小玉智章・石橋由香里				

授業概要	<p>保育士が接する乳幼児期は人生の始まりの時期であり、適切な発育のために栄養は必要不可欠である。本科目では、保育士が子どもの発育を栄養面からも支援できるように、栄養学の基礎を理解し、実践できることを目指す。また、近年は栄養面で特別な配慮を必要とする子どもが増えており、特にアレルギー対応は一步間違うと命に関わる。本科目ではアレルギーについて、その成り立ちから対応を理解し、保育所で他の業種と関わりながら実践できることも目指す。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の基礎知識を理解し、説明できる ・子どもの成長に合った栄養を理解し、実践できる ・アレルギーの基礎と保育所における対応を理解し、説明できる ・特別な配慮が必要な子どもにおける栄養を理解し、説明できる 	定期試験（筆記） 定期試験（実技）	80% 10%
コミュニケーション能力	他者と協働し、適切に調理実習ができる	提出物 授業態度	5% 5%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

本科目は講義と調理実習で進めていく。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	本授業の進め方、評価の観点等の説明	予習：シラバスを読んでおく
2回目	栄養の基礎知識①	栄養とは？ 五大栄養素のはたらき	予習：教科書 P26～29 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
3回目	栄養の基礎知識②	糖質、脂質、たんぱく質の種類とはたらき	予習：教科書 P30～35 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
4回目	栄養の基礎知識③	ビタミン、ミネラルの種類とはたらき	予習：教科書 P36～39 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
5回目	乳児期の栄養	乳児期の体の特徴と必要な栄養	予習：教科書 P50～69 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
6回目	調理実習①	調乳	予習：乳児期の栄養を振り返る 復習：実習の内容をまとめる
7回目	幼児期の栄養	幼児期の体の特徴と必要な栄養	予習：教科書 P74～79 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
8回目	調理実習②	離乳初期・中期の離乳食の調理	予習：乳児期の栄養を振り返る 復習：実習の内容をまとめる
9回目	学童期の栄養	学童期の体の特徴と必要な栄養	予習：教科書 P80～85 を読んでおく

			復習：配布プリントをまとめる
10回目	アレルギーの成り立ち	免疫のしくみ アレルギー発症のしくみ	予習：教科書 P136～38 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
11回目	保育所におけるアレルギー対応	保育所におけるアレルギー対応ガイドラインを用いた説明	予習：配布プリントを読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
12回目	調理実習③	離乳後期・完了期の離乳食の調理	予習：乳児期の栄養を振り返る 復習：実習の内容をまとめる
13回目	特別に配慮が必要な子どもの栄養	子どもが落ち入りやすい栄養障害と対応	予習：教科書 P139～153 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
14回目	食育	食育の計画と実施について	予習：教科書 P88～103 を読んでおく 復習：配布プリントをまとめる
15回目	調理実習④	幼児食の調理	予習：幼児期の栄養を振り返る 復習：実習の内容をまとめる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	「子どもの食と栄養 改訂第2版」児玉浩子編（中山書店）
履修条件	
履修上の注意	調理実習の際は、エプロン、三角巾、上履きを持参すること
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：子ども家庭支援論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2	必修	講義
担当教員				
藤島法仁				

授業概要	子ども家庭支援について、その目標、保育士の役割、支援の内容と対象について理解を深める。本講義では、①子ども家庭支援の目標と機能を理解できる、②子ども家庭支援における保育士の役割を説明できる、③子ども家庭支援における保育士の基本的態度を説明できる、④子育て家庭に対する支援の体制を説明できる、⑤子ども家庭支援の内容と対象を理解できることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども家庭支援の目標と機能を理解できる。 ・ 子ども家庭支援における保育士の役割を説明できる。 ・ 子ども家庭支援における保育士の基本的態度を説明できる。 ・ 子育て家庭に対する支援の体制を説明できる。 ・ 子ども家庭支援の内容と対象を理解できる。 	定期試験	70%
コミュニケーション能力	グループ内で議論し、子ども家庭支援における保育士の基本的態度について理解できる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	子ども家庭支援における保育士の役割についてレポートをまとめることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	子ども家庭支援の課題を理解し積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験 70%、グループディスカッション 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	子ども家庭支援の意義と役割	子ども家庭支援の意義と必要性について説明する。	予習：子ども家庭支援の目標と機能を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
2 回目	子ども家庭支援の意義と役割	子ども家庭支援の目標と機能について説明する。	予習：保育所保育指針を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
3 回目	子ども家庭支援の意義と役割	子ども家庭支援における保育士の役割について理解する。	予習：バイステックの 7 原則を調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
4 回目	保育士による子ども家庭支援の基本	保育士に求められる基本的態度について説明する。	予習：保育士の専門性を生かした子ども家庭支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
5 回目	保育士による子ども家庭支援の基本	保育士の専門性を生かした子ども家庭支援を理解する。	予習：信頼関係について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
6 回目	保育士による子ども家庭支援の基本	保護者との信頼関係の形成について理解する。	予習：子どもの発達段階について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
7 回目	保育士による子ども家庭支援の基本	家庭の状況に応じた支援について説明する。	予習：子育て家庭の福祉を凶るための社会資源を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。

8回目	子育て家庭に対する支援の体制	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について説明する。	予習：子ども子育て新制度について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
9回目	子育て家庭に対する支援の体制	子育て支援の施策と次世代育成の支援策について説明する。	予習：子ども家庭支援の内容と対象を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
10回目	多様な支援の展開と機関との連携	子ども家庭支援の内容と対象について説明する。	予習：保育所を利用する子ども家庭への支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
11回目	多様な支援の展開と機関との連携	保育所を利用する子ども家庭への支援について理解する。	予習：地域子育て支援センターの役割について調べておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
12回目	多様な支援の展開と機関との連携	地域の子育て家庭への支援について説明する。	予習：要保護児童およびその家庭に対する支援を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
13回目	多様な支援の展開と機関との連携	要保護児童およびその家庭に対する支援について説明する。	予習：保育の現場での子育て支援の現状と課題を読んでおくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
14回目	多様な支援の展開と機関との連携	保育の現場での子育て支援の現状と課題について理解する。	予習：配布したプリントを整理しておくこと。 復習：講義の内容を振り返り理解を深めておくこと。
15回目	まとめ	振り返りを行う。	
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
-----------	--

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『子ども家庭支援論』（建帛社）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	

講義科目名称：カリキュラム論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
松田 清美				

授業概要	<p>本科目では、保育の計画と評価に関して、基本的な考え方や知識を習得する。その上で、子どもの主体性を尊重し、発達を保障する保育を実現するために、計画において必要なことを学生自身が考えながら立案できる力を獲得していく。さらにカリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、保育を高めていく方法を学ぶ。これらを通して、保育者としての専門性を身に付けるとともに、学び続けることのできる保育者になるための基盤となる力を養うことを目指す。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもを理解しようとし、健やかな発達を願う気持ちをもって、学びに向かうことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識や技能	保育における計画と評価について、基本的理論を理解し、実践的に取り組むことができる。	課題（指導計画作成） 模擬保育 試験	10% 5% 60%
コミュニケーション能力	他者と意見を交わし、互いに高め合うことができる。	グループ学習	5%
課題解決能力	質の高い保育を目指して、試行錯誤を重ねながら指導計画の作成や評価に取り組むことができる。	課題（指導計画作成）	10%
主体的に学ぶ力	保育の立案やカリキュラム・マネジメントが保育者にとって重要な職務であることを理解し、積極的に学ぶことができる。	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保育における計画の意義と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における計画の意義や重要性を、社会的背景とともに学ぶ。 ・幼稚園・保育所・認定こども園における保育の計画を概観し、特徴を理解する。 	<p>復習：テキスト第1章・第2章を読み、授業を振り返る。</p>
2回目	PDCA サイクルによる保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に基づくPDCAサイクルの考え方について知り、保育の質の向上につながることを理解する。 	<p>予習：テキスト第1章を読んでおく。</p> <p>復習：テキストをよく読み、PDCAサイクルが保育の質の向上につながることを具体的に理解する。</p>
3回目	教育課程および全体的な計画の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期または乳幼児期全体を見通した目標と計画内容について理解する。 ・実態の捉え方や編成の手順などを具体的に学ぶ。 	<p>予習：テキスト第3章を読んでおく。</p> <p>復習：計画の編成の考え方や手順を具体的にイメージしながら復習する。</p>
4回目	指導計画作成の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画と指導計画の関係を理解する。 ・指導計画の種類を知り、作成の基本的な考え方、内容、留意点等を理解する。 	<p>予習：テキスト第4章を読んでおく。</p> <p>復習：実際の指導計画を丁寧に読み込み、内容等について理解する。</p>
5回目	実習における指導案	<ul style="list-style-type: none"> ・実習において作成する指導案について概観する。 ・指導案作成において考慮すべき観点(子どもの発達過程への配慮、季節や時期の考慮、日々の連続性の重視等)について理解する。 	<p>予習：テキスト第6章の指導計画案を読んでおく。</p> <p>復習：指導案に盛りこむ観点を、実際の指導案を見ながら確認する。</p>
6回目	〈グループ学習〉部分指導計画の作成(1) 一ねらいと活動の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案における「子どもの姿」、「ねらい」「活動」の関連を理解した上で、ねらいと活動を設定する。 	<p>予習：テキスト第6章第1節を読んでおく。</p> <p>復習：テキストを参考にしながら、自身でねらいと活動を設定できるようにする。</p>

7回目	〈グループ学習〉 部分指導計画の作成(2)―教材研究	・設定した活動にふさわしい教材について研究する。	予習：どのような教材があるか、テキストなどを参考に調べておく。 復習：教材を決め、具体的な指導計画を考える。
8回目	〈グループ学習〉 部分指導計画の作成(3)―環境構成と導入・展開	・子どもが活動に興味を持ち、意欲をもって取り組める環境構成と導入を考える。 ・子どもたちが充実感を味わいながらねらいを達成できる展開や援助を考える。	予習：環境構成と導入、展開について、テキストなどを参考に調べておく。 復習：部分指導計画を完成させる。
9回目	〈グループ学習〉 模擬保育の実施	・グループごとに模擬保育を行う。	予習：模擬保育の準備・練習を行う。 復習：模擬保育を振り返り、改善点を考える。
10回目	〈グループ学習〉 模擬保育のふりかえり―評価から改善へ	・部分指導計画と模擬保育を振り返り、グループ内で意見を交わし、よりよいものへと改善する。	予習：自身と他者の模擬保育を振り返る。 復習：指導計画と保育を高められるよう、改善点を明確にする。
11回目	全日実習指導計画の作成(1)	・全日実習指導案について理解し、特に重要となる配慮事項を考えながら、立案する。	予習：全日実習指導計画について調べておく。 復習：指導計画を完成させる。
12回目	全日実習指導計画の作成(2)	・全日実習指導案を完成させる。 ・自身で見直し、指導計画作成の留意点を明確にする。	予習：指導計画を完成させる。 復習：指導計画の考え方・書き方について明確に理解する。
13回目	保育における記録	・保育において記録を作成する意義を考え、実際の保育記録の種類や方法について学ぶ。	予習：テキストの第7章を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
14回目	保育の評価	・保育の評価に関する基本的な考え方を理解する。 ・自己評価や第三者評価などの評価の実際について学ぶ。	予習：テキストの第8章を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
15回目	幼児期から児童期	・幼稚園・保育所等から小学校への接続	予習：アプローチカリキュ

	への移行を支える カリキュラム	に配慮したカリキュラムについて理解 する。	ラムやスタートカリキュラ ムの事例を調べておく。 復習：授業を振り返り、重 要事項を確認する。
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
教科書・参考書	<p>●教科書 『保育の計画と評価—豊富な事例で1からわかる〈第2版〉』宮川萬寿美編 著 萌文書林 2019年</p> <p>●参考書 『幼稚園教育要領』文部科学省 2017年 『保育所保育指針』厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働 省 2017年</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水曜日を基本とするが、研究室在室中はいつでも対応する。
備考・メッセージ	課題や提出物があるため、余裕をもって自宅学習の時間を確保し、学習成果 を着実に積み上げてほしい。

講義科目名称：保育内容総論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	演習
担当教員				
松田 清美				

授業概要	<p>保育内容とその指導法について、総合的な観点から学ぶ科目である。</p> <p>保育が子どもの人格形成や発達にとって重要な意味をもつことを理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針に記されている保育の基本的な考え方を習得する。さらに、初歩的な模擬保育の実施を通して、自ら子どもに関わり、関係を築くことへの考察を深める。これらを通して、理論に裏付けられた実践力の基盤を培い、保育者に必要な専門性を身に付けることを目指す。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・子どもにかかわる際の基本的な態度を身につけている。	・模擬保育	5%
確かな専門的知識や技能	・保育において重要な専門用語や基本的な考え方を理解し、説明することができる。	・課題(「保育の基本辞典」作成) ・テスト	10% 60%
コミュニケーション能力	・他者と意見を交わし、互いに高め合うことができる。	・模擬保育	5%
課題解決能力	・テーマに沿って教材研究を行い、よりよいものへと改善していくことができる。	・模擬保育	5%
主体的に学ぶ力	・子どもの発達を支える保育について、学習成果をもとに考えを述べることができる。 ・保育者に必要な専門性を理解し、学習に意欲的に取り組むことができる。	・課題(小論文) ・授業への参加・態度	10% 5%
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	保育内容とは何か	保育指針と教育要領から、保育内容とは何かを概観する。	予習：保育指針と教育要領の第2章を読んでおく。 復習：授業を振り返り、重要事項を確認する。
2回目	保育の基本(1)―発達に即した指導	・事例をもとに、保育と子どもの発達の関連性を考える。 ・一人一人の発達の特性に応じた援助について学ぶ	予習：テキストの第3章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
3回目	保育の基本(2)―遊びによる学習	・遊びの意義や重要性について事例を通して理解する。 ・遊びにおける保育者の基本的な役割を考える。	予習：テキストの第6章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
4回目	保育の基本(3)―環境を通して行う保育	・「環境を通して行う保育」の考え方や具体的な展開について事例を通して理解する。	予習：テキストの第7章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
5回目	保育の基本(4)―5領域とねらい・内容	・保育における領域の意味や考え方を理解する。 ・各領域のねらいや内容を概観する。	予習：テキストの第8章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
6回目	保育の基本(5)―養護と教育	・養護と教育(5領域)の考え方と関連を知り、それらを一体的に行うことの意味を理解する。	予習：テキストの第4章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
7回目	保育の基本(6)―育みたい資質・能力と育ってほしい姿	・育みたい資質・能力と育ってほしい姿について、その意義や、ねらい・内容との関連を理解する。	予習：教育要領と保育指針第1章の該当箇所を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、

			重要事項と考えをまとめる。
8回目	保育の基本(7)―生活や遊びの連続性	・子どもの生活・遊びとそれによる学習や発達の特徴を考え、連続性が重要であることを理解する。	予習：テキストの第5章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
9回目	保育の基本(8)―小学校教育への接続	・保育・幼児教育から小学校教育への接続について子どもの立場から考える。 ・保育施設と小学校の連携の必要性について学ぶ。	予習：テキストの第13章を読んでおく。 復習：授業内容を振り返り、重要事項と考えをまとめる。
10回目	まとめ―「保育の基本辞典」作成	・これまでの学習を踏まえ、各自で「保育の基本辞典」を作成する。	予習：1回目から9回目での学習内容を振り返っておく。 復習：辞典を完成させ、学習内容の理解を深める。
11回目	模擬保育を考える―自己紹介と教材研究	・保育施設で子どもたちと初めて出会う場面を想定し、親しみをもたれる自己紹介と活動を考える。	予習：自己紹介をどのように行うか考えておく。 復習：自己紹介で用いる道具や部分的保育の教材を考え、練習する。
12回目	模擬保育の実施	・自己紹介の発表を行い、受講生間で意見を出し合う。	予習：自己紹介を練習しておく。 復習：自身と他者の発表を振り返り、気づきをまとめる。
13回目	模擬保育の振り返り	・自己評価と他者からの意見をまとめ、目的やねらいを達成できる自己紹介になるよう再検討する。 ・保育を振り返ることの意義を考え、計画と評価につながる記録について知る。	予習：よりよい自己紹介になるよう改善を具体的に行う。 復習：保育の振り返りと記録について、授業内容を確認する。
14回目	保育における記録	・保育における記録の重要性を理解し、日誌やポートフォリオなどの記録の実践について学ぶ。	予習：保育記録の種類や実際について、テキスト等を用いて調べておく。 復習：保育記録について、種類や特徴を確認し、理解

			を深める。
15 回目	まとめ—子どもの発達を支える保育内容について考える	・子どもが充実感を感じ、発達を遂げていくことができる保育内容について、考えを小論文にまとめる。	予習：これまでの学習を振り返り、保育内容や指導法に関する自身の考えをまとめておく。
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	領域および保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
教科書・参考書	<p>●教科書</p> <p>『演習 保育内容総論 —保育の総合性を読み解く—』神田伸生編著 萌文書林 2019 年</p> <p>●参考書</p> <p>『幼稚園教育要領』文部科学省 2017 年</p> <p>『保育所保育指針』厚生労働省 2017 年</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017 年</p>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水曜日を基本とするが、研究室在室中はいつでも対応する。
備考・メッセージ	<p>・本科目では、子どもや保育に関する事例を多く取り入れたり、模擬保育を行ったりする。受講生にも、子どもの世界を共感的に楽しみ、理解してほしい。</p> <p>・15 回の授業全体を通して、学生に意見を求めたりグループ内での意見交換を行ったりしていく予定である。積極的な参加を期待する。</p>

講義科目名称：保育内容演習 I（健康）	授業コード：31131 33132
英文科目名称：Seminar of childhood care content I (Health)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1	選択 幼稚園教諭：必修	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	<p>①健康の定義について理解する 保育者と子どもの視点から健康について理解する 領域「健康」について理解する</p> <p>②身体機能の発達について理解する 心の発達について理解する 基本生活習慣とその確立について理解する 家庭との連携について理解する</p> <p>③園生活について理解する 園生活の中での遊びについて理解する 戸外環境と戸外活動について理解する</p> <p>④安全管理について理解する 安全教育について理解する 子どもを守るガイドラインについて理解する</p> <p>⑤保育内容・領域について理解する 領域「健康」のねらいについて理解する 領域「健康」ねらいについて理解する</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」の視点から子どもの育ちを説明することができる ・領域「健康」の「ねらい」を理解し、その視点から子どもたちの心情、意欲、態度について具体的に指摘することができる ・領域「健康」の「内容」に示された身につけてもらいたい事柄から、必要な経験、体験、活動を考えることができる 	期末試験 小テスト	60% 35%
コミュニケーション能力			
課題解決能力			

主体的に学ぶ力	・保育者を目指す者として、自らの健康にも関心を持ち、子どもの健全な育ちに寄与できる	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
期末レポート 60%、小テスト(7回)35%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	保育内容演習Ⅰ（健康）の授業の進め方についてを学ぶ	予習：シラバスに目を通しておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
2回目	健康の定義について	健康の定義について学ぶ	予習：「健康の定義」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
3回目	保育者と子どもの視点から健康を考える	健康について保育者の視点と子どもの視点について学ぶ	予習：「保育者と子どもの視点の違い」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
4回目	保育内容と領域「健康」の位置づけについて①	保育内容と領域「健康」の位置づけについて学ぶ（保育内容・領域・ねらいと内容）（小テスト1）	予習：「保育内容と領域「健康」の位置づけ」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
5回目	保育内容と領域「健康」の位置づけ	保育内容と領域「健康」の位置づけについて学ぶ（領域「健康」のねらい）	予習：「保育内容と領域「健康」の位置づけ」について

	けについて②	(小テスト 2)	調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
6 回目	保育内容と領域「健康」の位置づけについて③	保育内容と領域「健康」の位置づけについて学ぶ（領域「健康」の内容と内容の取り扱い）（小テスト 3）	予習：「保育内容と領域「健康」の位置づけ」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
7 回目	心身の発達と基本的生活習慣について	子どもの心身の発達の特徴と基本的生活習慣の確立について学ぶ（小テスト 4）	予習：次回の授業内容を予習し、「心身の発達と基本的生活習慣」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
8 回目	小テストの振り返りによる中間まとめ	4 回の小テストのまとめの結果を振り返る。	予習：4 回の小テストの結果をまとめておくこと 復習：テスト結果を振り返り、できなかったところを復習しておくこと
9 回目	園の生活について	里山保育を題材にして園の生活について健康の視点から学ぶ	予習：「健康を育む園環境について」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
10 回目	園生活の中での遊びと運動能力について	遊びと運動能力の関係について学ぶ	予習：「遊びと運動能力の関係」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに

			調べておくこと
11回目	戸外環境と戸外活動について	戸外環境と戸外活動について学ぶ（小テスト5）	予習：「経験したことのある戸外活動について」について調べておくことについて調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
12回目	安全管理と安全教育について	安全教育・管理の方法、リスクとハザードについて学ぶ（小テスト6）	予習：「リスクとハザードの違い」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
13回目	保育内容(健康)に関わるガイドラインについて	幼児期運動指針、感染症ガイドライン、食育基本法について学ぶ（小テスト7）	予習：保育内容(健康)に関わるガイドラインについて調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
14回目	保育内容(健康)の指導計画の作成と評価について	保育内容(健康)の指導計画の作成方法と評価の観点について学ぶ	予習：「保育内容(健康)の指導計画の作成の方法及び評価の観点」について調べておくこと 復習：配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと
15回目	保育内容(健康)について(まとめ)	事例を参考にねらい・内容・内容の取扱いについて改めて学ぶ	予習：これまで配布した資料に目を通し、理解できなかったところを参考文献等をもとに調べておくこと。 復習：小テストを振り返り定期試験に備えること。

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布する 参考書：演習保育内容健康-大人から子どもへつなぐ健康の視点 井狩芳子 著 萌文書院 ：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼児期運動指針
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に教室にて質問を受け付ける
備考・メッセージ	保育者を目指す者として自分の健康にも関心も持ち、健康維持に努めること

講義科目名称：保育内容演習Ⅰ（表現造形活動）	授業コード：31133 32135 33136
英文科目名称：	ナンバリング CM303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択 幼稚園教 論：必修	演習 単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	<p>①保育現場における造形活動のねらいと内容を理解する 造形活動による幼児の発達について理解する 造形活動における人間関係の構築について考察する</p> <p>②幼児の造形の目的を理解する 幼児の造形の喜びを理解する 望ましい幼児の造形活動を計画する</p> <p>③造形活動を活性化させる保育者の役割を考察する 年齢に応じた事前準備を理解する 対象児と場に応じた環境構成を理解する</p> <p>④幼児の思考の展開を促す支援内容を理解する 幼児の安全な活動を支える支援方法を理解する 子ども達の状況や発達に望ましい造形活動のあり方を考察する</p> <p>⑤保育教材の役割を理解する 保育教材の考案法を理解する 保育教材を用いた保育実践をおこなう</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の造形活動を計画する方法を習得する ・ 幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する ・ 幼児の造形活動に対する保育者の支援内容（指導法）を修得する ・ 幼児の造形活動についての重要性を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の成果 作品の成果 作品の成果 作品の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 20% 20% 20% 20%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の様々な活動を支える造形の役割を体験する 	学修の取り組み	20%
課題解決能力			

主体的に学ぶ力			
			合計 100%
補足事項			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	はじめに	子どもとの造形活動のねらいと内容について	予習：造形のねらいと内容について、自分なりの考えを持つ 復習：造形の意義について確認する
2回目	手づくりおもちゃ ①	身近な材料で手づくりおもちゃを制作する	予習：手づくりおもちゃについてイメージしておく 復習：身近な素材で作れるおもちゃについて発想を広げる
3回目	手づくりおもちゃ ②	手づくりおもちゃを組み立てる おもちゃで遊ぶ	予習：子どもたちが遊ぶ様子をイメージしていく 復習：遊びの展開や安全面について考える
4回目	子どもの造形の鑑賞（スライド鑑賞）	子どもの心身の発達と表現とその評価について理解する	予習：子どもの心身の発達をまとめる 復習：子どもの造形における創造性を確認する
5回目	自然観察（スナップ写真）	美しい自然や動植物を観察し、感性を磨く	予習：周辺の風景を概観しておく 復習：学生それぞれの完成を認め合い、子どもの完成を想像する
6回目	粘土あそび	土粘土を用いて遊ぶ	予習：子どもの頃の粘土あそびの様子をイメージしてみる 復習：粘土あそびが与える子どもへの効用について考える
7回目	木のおもちゃ（1）	木片のおもちゃの制作の援助方法につ	予習：自らのおもちゃ作品

		いて考察する	の組み立て方について構想する 復習：子どもの制作の援助方法について考える
8回目	木片のおもちゃ(2)	木片で自由に遊ぶ子どもの気持ちと想像力を理解する	予習：子どもの発想についてイメージしてみる 復習：子どもの作る喜びについて考える
9回目	絵の具あそび(1)	フィンガーペインティングをして、子どもの心の動きを知る	予習：フィンガーペインティングの意味について考える 復習：フィンガーペインティングの癒しの効用について考える
10回目	絵の具あそび(2)	野菜スタンプで子どもの想像力を知る	予習：野菜の切り口がつくる形から作画を空想する 復習：野菜スタンプでペインティングすることによって得られる子どもの発見と喜びを考える
11回目	ダンボールと新聞紙あそび	子どもの気持ちになって空間を楽しむ	予習：ダンボールと新聞紙でどんな遊びができるか想像する 復習：ダンボールと新聞紙のあそびで得られる子どもへの効用について考える
12回目	水あそび・砂あそび	水の冷たさや光、砂の間隔を子どもの気持ちになって楽しむ	予習：水あそびと砂あそびの環境構成について考える 復習：水あそびと砂あそびで得られる子どもへの効用について考える
13回目	造形ワークショップ運営(1)	学内にて3回、学園祭企画において1回開催する「のびのびワークショップ～つくってあそぼう～」のうち、学生はその1回(2コマ分)に参加し運営に携わる	予習：保育に携わる心の準備をおこなう 復習：自らの造形支援方法について反省をおこなう
14回目	造形ワークショップ運営(2)	学内にて3回、学園祭企画において1回開催する「のびのびワークショップ	予習：保育に携わる心の準備をおこなう

		～つくってあそぼう～」のうち、学生はその1回(2コマ分)に参加し運営に携わる	復習：自らの造形支援方法について反省をおこなう
15回目	造形あそびの考察	指導案の中のねらいと内容について	復習：学外実習を想定しながら保育の計画をおこなう

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称：保育内容演習 I（人間関係）	授業コード：21235 23234
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 学年	1 単位	選択	演習
担当教員				
藤野 正和				

授業概要	<p>この授業では、対人関係の基盤を築いていく乳幼児期において、子どもたちがいかにして他者とかかわりながら、人間関係を形成していき、その中でどのような体験を経験することが必要なのかということについて考えてもらいます。また子どもは、乳幼児期からの他者とかかわりやつながりを通して、さまざまな知識や技能、態度を身につけていきます。このような子どもの育ちを支える保育者としての専門的な知識や関わり、視点を養うことを目指します。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。</p> <p>①子どもの対人関係を中心とした発達についての専門的な知識を説明できる。</p> <p>②子どもと保育者との関係について「人間関係」という視点で考察することができる。</p> <p>③保育者として必要な自己理解および他者理解のあり方について他者と意見交換できる。</p> <p>④人間関係を中心とした子どもの事例を作成し、その内容から保育者の役割を考察することができる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・ 子どもの対人関係を中心とした発達についての専門的な知識を説明できる	定期試験	50
コミュニケーション能力	・ 保育者として必要な自己理解および他者理解のあり方について他者と意見交換できる	ワーク	10
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと保育者との関係について「人間関係」という視点で考察することができる ・ 人間関係を中心とした子どもの事例を作成し、その内容から保育者の役割を考察することができる 	レポート	40

主体的に学ぶ力			
			合計 100%
補足事項			
※実習に関する事例のレポートを作成して頂きます。また、このレポート提出は、定期試験を受験する際の必須条件にします。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の内容の説明、受講における留意点、レポート（事例）の作成の仕方などについて説明する	予習：教科書を大まかに通読しておく 復習：レポートの書き方を振り返っておく
2回目	幼稚園・保育所における領域「人間関係」	幼稚園教育要領・保育所保育指針を中心に領域人間関係について説明する	予習：教科書 P10~39 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
3回目	子どもの人間関係をめぐる現代的課題	子どもの人間関係をめぐる現代の課題について様々な視点から考察を行う。	予習：教科書 P40~50 を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
4回目	子どもの人間関係 ①—おおむね 0 歳から 3 歳未満—	子どもの人間関係の発達過程について感覚・運動と愛着の視点から説明する	予習：教科書 P51~59 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
5回目	子どもの人間関係 ②	子どもの人間関係の発達過程について自己と感情の視点から説明する	予習：教科書 P59~73 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
6回目	子どもの人間関係 ③	子どもの人間関係の発達過程について言語・社会性の視点から説明する	予習：教科書 P74~76 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
7回目	子どもの人間関係 ④	子どもの人間関係の発達過程について対人葛藤・道徳性の視点から説明する	予習：教科書 P74~87 を通読しておく

			復習：授業で配られた資料をふりかえる
8回目	遊びと人間関係の発達	遊びが人間関係の発達にもたらす影響について説明する	予習：教科書 P88~99 を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
9回目	子どもの人間関係についての事例作成①	実習で体験・経験した子どもの様子についてレポートを作成する	予習：実習日誌等で子どもの様子を振り返る 復習：授業で配られたレポートを作成する
10回目	子どもの人間関係についての事例作成②	実習で体験・経験した子どもの様子についてレポートをもとに、子どもの理解や保育者としてのかかわりについて考察する	予習：実習日誌等で子どもの様子を振り返る 復習：授業で配られたレポートを作成する
11回目	保育者に求められる援助の視点①－0～2歳児クラス－	子どもの育ちを支えるために必要な保育者の援助について説明する	予習：教科書 P113~152 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
12回目	保育者に求められる援助の視点②－3～5歳児クラス－	子どもの育ちを支えるために必要な保育者の援助について説明する	予習：教科書 P113~152 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
13回目	親の思いと家庭とのかかわり	DVD を参考資料として、親の思いや家庭の役割について考える	予習：現在の親子関係について資料を参照しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
14回目	親の思いと家庭とのかかわり	DVD を参考資料として、親の思いや家庭の役割について考える	予習：現在の親子関係について資料を参照しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
15回目	授業全体の総括	授業全体を総括するとともに、定期試験の内容等についても説明する	予習：授業で配られた資料を整理しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
-----------	--------------------

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	教科書：保育内容 人間関係[第 2 版] (新時代の保育双書) 濱名 浩 (編集) みらい 参考資料：授業内で適宜配付する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します (研究室)
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を阻害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合はそれ相応の対応を行います。

講義科目名称：保育内容演習Ⅰ（言葉）	授業コード：33232 34231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択 保育士・幼稚園教諭：必修	演習
担当教員				
新井悦子				

授業概要	<p>①言葉の機能・言葉の獲得・発達の基礎を作るものを踏まえ、幼児教育において育みたい資質・能力を理解する。</p> <p>②幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」のねらいや内容について理解を深める。</p> <p>③幼児の発達に即した初語の頃までの発達の特徴、乳幼児期の発達の特徴および乳幼児期の言葉の発達過程について概観し、主体的・対話的な保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>④幼児期の発達や学びの過程を理解し、遊びの中での関わり方・活動の中での関わり方を学ぶ。</p> <p>⑤絵と言葉の豊かな世界（絵本、紙芝居）、劇や物語（パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート等）、想像や言葉のリズム（素話・言葉遊び）を学ぶ。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<p>①言葉の役割、領域「言葉」について理解ができる。</p> <p>②子どもの言葉の発達と保育者の関わりについて理解ができる。</p> <p>③言葉を育む児童文化財について知識を持ち、素話などの大切さを理解し、発表できる。</p>	<p>定期試験 小レポート</p> <p>個人での発表</p>	<p>60%</p> <p>10%</p> <p>10%</p>
コミュニケーション能力	④グループ内で協力をし手遊び、シアター系、劇遊び等の児童文化財の発表ができる。	<p>グループディスカッション</p> <p>グループでの発表</p>	<p>5%</p> <p>10%</p>
課題解決能力			

主体的に学ぶ力	⑤子どもの言葉を育てる環境、児童文化財の大切さを理解し、積極的な学習ができる	授業への参加・態度	5%
			合計
100%			
補足事項			
<p>本授業では、定期試験 60%、レポート 10%、グループディスカッション 5%、発表 20%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。</p>			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	領域「言葉」とは何か	領域「言葉」のねらいと内容	<p>復習 領域「言葉」のねらいと内容に関する学習内容の確認</p> <p>予習 新生児の持つ力と話し言葉出現以前の行動の確認</p>
2回目	言葉の発達 ①初語のころまで	新生児の持つ力を知り、話しことば出現以前の行動を知る	<p>復習 新生児の持つ力と話し言葉出現以前の行動に関して振り返る</p> <p>予習 幼児期前期の言葉の発達の特徴についてと、子どもの発語意欲をどのように育てるか考える</p>
3回目	言葉の発達 ②幼児期前期	幼児期前期の言葉の発達の特徴を知り、子どもの発語意欲をどのように育てるか話し合う	<p>復習 幼児期前期の言葉の発達についてと、子どもの発語意欲をどのように育てるかに関する学習内容の確認</p> <p>予習 幼児期後期の言葉の特徴について知る。</p>
4回目	言葉の発達 ③幼児期後期	幼児期後期の言葉の発達の特徴を知り、子どもの発語意欲をどのように育てるか話し合う	<p>復習 幼児期後期の言葉の発達についてと、子どもの発語意欲をどのように育てるかに関する学習内容の確認</p> <p>予習 言葉の発達を支える環境について調べる。</p>
5回目	言葉の発達 ④言葉の背景にあるもの	言葉の発達を支える環境について考える	<p>復習 言葉の発達を支える環境について振り返る。</p> <p>予習 子どもとの信頼関係を強</p>

			める共感の言葉について考える。
6回目	子どものことばと保育者	子どもとの信頼関係を強める共感の言葉について考える	復習 子どもとの信頼関係を強める共感の言葉について振り返る。 予習 特別な配慮の必要な子どもについて調べる。
7回目	特別な配慮の必要な子ども 情報機器等の有効的な活用法	援助の仕方や対応の仕方について考える	復習 援助の仕方や対応の仕方について振り返る。 予習 わらべうたや手遊びなどについて調べる。
8回目	歌や触れ合いを楽しむ遊び	わらべうたや手遊びなどが育てるものについて理解する	復習 わらべうたや手遊びなどが育てるものについて振り返る。 予習 絵本や紙芝居にはどのようなものがあるか調べる
9回目	児童文化と内容 ① 絵と言葉の世界	絵本や紙芝居は何を育てるか考える	復習 絵本や紙芝居が育てるものについて振り返る。 予習 パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、人形劇とは何か調べる。
10回目	児童文化と内容②劇や物語	パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、人形劇の実演技術を身につける	復習 パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、人形劇の実演について振り返る。 予習 素話・言葉遊びについて調べる。
11回目	児童文化と内容③想像や言葉のリズム	素話・言葉遊びの教育的効果について整理する	復習 素話・言葉遊びの教育的効果について振り返る。 予習 劇遊びについて調べる。
12回目	児童文化と内容④ごっこの世界から劇遊びへ	ごっこ遊びから劇遊びへ発展する過程について学ぶ	復習 ごっこ遊びから劇遊びへ発展する過程を振り返る。 予習 グループでの劇遊びの内容について考える。
13回目	児童文化と内容⑤劇遊び発表会の準備	グループでの劇遊び発表会の練習と準備 学習課題	復習 劇遊びの練習について振り返る。 予習 劇遊びの練習
14回目	児童文化と内容⑥劇遊び発表会の実施	グループでの劇遊び発表会の実施	復習 全グループの劇遊びの発表を振り返る。

			予習 これまでの学習をおおまかに振り返る。
15 回目	復習・総まとめ	これまで学習してきた内容の確認 学習課題	復習 これまで学習してきた内容を振り返る。
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	領域および保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	テキスト：購入『保育内容・言葉』 太田光洋 編著 同文書院（前期の「子どもと言語」と同じ教科書） 参考書：必要に応じて資料を配布 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	個人での発表、グループでの討議・発表において、積極的な参加を期待します。

講義科目名称：乳児保育 I	授業コード：31252 32251
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2	保育士：必修 卒業：必修	講義
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	乳児の心や体の育ちを丁寧に理解しようとすることができる。	・レポート	10%
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や乳児院における乳児保育の現状を理解し、3歳未満時における乳児保育の役割と機能を理解できる。 ・3歳未満児の発育・発達の個人差を理解し、それに応じた知識・技術に基づく援助や関わりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテスト ・定期試験 	10% 30%
コミュニケーション能力	グループ活動に積極的に取り組むことができる。	グループディスカッション	5%
課題解決能力	乳児保育の計画と記録・評価について模擬保育や保育実践の振り返りから課題を明確にできる。 乳児保育の環境づくりについて理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・定期試験 	10% 30%
主体的に学ぶ力	子どもの発達や学びの過程、子育て支援等に関する様々な事柄に常に問題意識を持ちながら積極的に学ぶことができる。	・授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			

<p>・ミニテスト（10%） 定期試験（60%） グループディスカッション（5%） 課題レポート（20%） 授業への参加・態度（5%）の割合で評価する。 ・レポート提出の際は、Melly上でデータを提出することも可能</p>
--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	1. 乳児保育の意義・目的と役割	(1) 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 (2) 乳児保育の役割と機能 (3) 乳児保育における養護及び教育	予習：p4 確認 p10 確認 p14 確認 復習：保育所保育指針 第1章総則参照
2回目			
3回目	2. 乳児保育の現状と課題	(1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 (2) 保育所における乳児保育 (3) 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 (4) 家庭的保育等における乳児保育 (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	予習：p20 確認 復習：学習内容のまとめ
4回目			予習：p36 確認 復習：学習内容のまとめ
5回目			予習：p44 確認 復習：学習内容のまとめ
6回目			予習：p58 確認 復習：学習内容のまとめ
7回目			予習：p58 確認 復習：学習内容のまとめ
8回目	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	(1) 3歳未満児の生活と環境 (2) 3歳未満児の遊びと環境 (3) 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 (4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり (5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 (6) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義	予習：p82 確認 p92 確認 復習：環境を通して行う保育についてまとめたレポート作成
9回目			予習：p120 確認 復習：学習内容のまとめ
10回目			予習：p132 確認 復習：学習内容のまとめ
11回目			予習：p144 確認 復習：指導立案に向けた活動内容の考案
12回目			予習：p144 確認 復習：指導立案に向けた活動内容の考案
13回目	4. 乳児保育における連携・協働	(1) 職員間の連携・協働 (2) 保護者との連携・協働 (3) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働	予習：p154 確認 p166 確認 p178 確認 復習：実習施設（保育所）が実施している様々な子育て支援について調べておく
14回目			
15回目			
16回目	定期試験	あり	

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮ 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	乳幼児の保育に携わるため、日常生活における身だしなみにも十分配慮すること
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業内容を予習し、内容に応じた準備（服装・身なり・資料等）し受講する ・ 学習内容の定着化を図るため、必ず復習する ・ 専門用語等の意味等を調べておく

講義科目名称：乳児保育Ⅱ	授業コード：41154 42155
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1	保育士：必修 卒業：選択	演習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・豊かな愛情と感性にあふれ、情緒の安定を保ちながら、乳幼児への関わりを持つことができる。	・レポート	10%
確かな専門的知識や技能	・3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助について具体的な理解ができる。 ・子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮等について理解できる。	・レポート ・ミニテスト	10% 30%
コミュニケーション能力	・乳児保育における複数担当制を理解し、グループ活動においてメンバーと協力しながら積極的に取り組むことができる。	・グループワーク	20%
課題解決能力	・演習を通して、反省・課題点を抽出しながら、改善できる方法・手段を考えることができる。	・指導案	20%
主体的に学ぶ力	・学習内容ごとに課題意識を持ちながら積極的に学ぶことができる。	・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

- ・ ミニテスト (30%) グループワーク (20%) 課題レポート (20%) 指導案 (20%)
授業への参加・態度 (10%) の割合で評価する。
- ・ レポート提出の際は、Melly 上でデータを提出することも可能

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	1. 乳児保育の基本	(1) 子どもと保育士等との関係の重要性	予習： p 192～確認 復習：演習から保育者と子どもとの関係を考察
2 回目		(2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	
3 回目		(3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち	
4 回目		(4) 子どもの体験と学びの芽生え	
5 回目	2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際	(1) 子どもの1日の生活の流れと保育の環境	予習： p 202～確認 p 232～確認 p 262～確認
6 回目		(2) 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 0歳児の生活の流れと保育環境 1歳児の生活の流れと保育環境 2歳児の生活の流れと保育環境	
7 回目		(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	予習： p 222～確認 p 252～確認 p 282～確認 復習：学習内容のまとめ
8 回目		(4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	
9 回目		(5) 子ども同士の関わりとその援助の実際	
10 回目	3. 乳児保育における配慮の実際	(1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	予習： p 292～確認 復習：保育所における子どもの健康・安全を守る配慮事項についてまとめる
11 回目		(2) 集団での生活における配慮	
12 回目		(3) 環境の変化や移行に対する配慮	
13 回目	4. 乳児保育における計画の実際	(1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画 指導計画について 指導計画の実際	予習： p 326～確認 復習：指導計画案の再考
14 回目		(2) 個別的な指導計画と集団の指導計画 個別的な計画について 集団の計画の考え方・立て方	
15 回目			予習： p 338～確認 復習：指導計画案の再考
16 回目	定期試験	なし	

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新 基本保育シリーズ⑮ 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	乳児保育Ⅰ を履修していること
履修上の注意	乳幼児の保育に携わるため、日常生活における身だしなみにも十分配慮すること
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業内容を予習し、内容に応じた準備（服装・身なり・資料等）し受講する ・ 学習内容の定着化を図るため、必ず復習する ・ 専門用語等の意味等を調べておく

講義科目名称：特別支援教育概論	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 学年	2	選択	演習
担当教員				
藤野 正和				

授業概要	<p>この授業では、障害のある子どもおよび保育における気になる子どもについて専門的な知識と理解、援助の方法について身につけていきます。また、障害のある子どもの保護者に対する理解と支援や、障害のある子どもを取り巻く医療・保健・福祉・教育のつながりについても取り扱っていきます。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。</p> <p>①障害児の教育や保育についての基本的な理念を説明できる。</p> <p>②障害のある子どもについての専門的な知識および援助方法を説明できる。</p> <p>③障害のある子どもの活動および環境構成について計画・記録・評価できる。</p> <p>④障害のある子どもとその保護者に対して積極的な関心を向けることができる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> 障害児の教育や保育についての基本的な理念を説明できる 障害のある子どもについての専門的な知識および援助方法を説明できる 	定期試験	60
コミュニケーション能力			
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの活動および環境構成について計画・記録・評価できる 	レポート	30
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもに対して積極的な関心を向けることができる 	態度・積極性	10
合計			100%
補足事項			

※実習に関する事例のレポートを作成して頂きます。また、このレポート提出は、定期試験を受験する際の必須条件にします。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の内容の説明、受講における留意点、レポート(事例)の作成の仕方などについて説明する	予習：教科書を大まかに通読しておく 復習：レポートの書き方を振り返っておく
2回目	障害児保育・特別支援教育とは	障害児の教育・保育における基本的な理念について説明する	予習：教科書 P12-22 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
3回目	障害児保育・特別支援教育の基本	発達の見方と発達のアセスメントについて説明する	予習：教科書 P23-39 を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
4回目	障害の理解と保育 1	自閉症スペクトラム障害の理解と支援について説明する	予習：教科書 P87-95 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
5回目	障害の理解と保育 2	注意欠如・多動性障害/学習障害の理解と支援について説明する	予習：教科書 P96-105 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
6回目	障害の理解と保育 3	ことばに遅れがある子どもの理解と支援について説明する	予習：教科書 P71-76 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
7回目	障害の理解と保育 4	聴覚障害/視覚障害の理解と支援について説明する	予習：教科書 P60-70 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
8回目	障害の理解と保育 5	肢体不自由/てんかんの理解と支援について説明する	予習：教科書 P51-59 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる

9回目	障害の理解と保育 6	病弱(慢性疾患等)の子どもの理解と支援について説明する	予習:参考資料を通読しておく 復習:授業で配られた資料をふりかえる
10回目	障害の理解と保育 7	不安/緘黙/引っ込み思案の子どもの理解と支援について説明する	予習:P71~76 を通読しておく 復習:授業で配られた資料をふりかえる
11回目	多様な支援を必要とする子どもの理解と保育	外国につながる子ども/子どもの貧困/子どもの虐待の理解と支援について説明する	予習:教科書 P106-115 を通読しておく 復習:授業で配られた資料をふりかえる
12回目	障害児保育・特別支援教育の実際	子ども理解にもとづく計画・記録・評価について説明する 子どもの発達をうながす生活やあそびの環境について説明する	予習:教科書 P116-167 を通読しておく 復習:授業で配られたレポートを作成する
13回目	家庭および関係機関との連携	保護者支援(障害のある子どもの保護者及び心理的な問題を抱える保護者)と家庭・関係機関との連携について説明する	予習:教科書 P168-207 を通読しておく 復習:授業で配られた資料をふりかえる
14回目	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題	医療・保健・福祉・教育における現状と課題について説明する	予習:教科書 P208-221 を通読しておく 復習:授業で配られたレポートを作成する
15回目	授業全体の総括	授業全体を総括するとともに、定期試験の内容等についても説明する	予習:授業で配られた資料を整理しておく 復習:授業で配られた資料をふりかえる
16回目	定期試験		

科目(教職課程用)	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教科書・参考書	教科書:実践に生かす 障害児保育・特別支援教育 前田 泰弘(編著) 萌文書林
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します（研究室）
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を阻害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合はそれ相応の対応を行います。

講義科目名称：社会的養護Ⅱ	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択（資格必修）	講義
担当教員				
西 司				

授業概要	社会的養護方法など基本的な内容について理解し、社会的養護のもとで生活する子どもの保育者として必要な知識、考え方を養う。①子どもの権利擁護の基本を理解し、支援方法の具体的方法・考え方を理解する。②施設養護と家庭養護の生活特性を理解し、支援のあり方について考える力を養う。③保育士として社会的養護施設で働く意義、地域とのかかわりの重要性を理解し、「新しい社会的養育ビジョン」に基づいて、今後の社会的養護の課題と方向性について考える力を養う。この3つを基本柱とした授業を進める。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	施設養護における心のケアとは何かについて理解できる。	小テスト	5%
確かな専門的知識や技能	社会的養護におけるソーシャルワークの視点・実践力をつける学びの方法を理解できる。	小テスト 定期試験	5% 60%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	与えられた課題に対して、学習したことが活かされ、適切に対応することができる。	課題レポート	20%
主体的に学ぶ力	聴く意識・意見発表・質問等積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項

本授業では、定期試験 60%、レポート 20 パーセント、小テスト 10 パーセント、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のポイントと進め方について	
2回目	社会的養護の現状と課題及び仕組みの概略	社会的養護の基本原則、現状と課題の大筋を理解させ、学習目的を共有する。	予習：配布資料を読む 以下予習は毎回同様
3回目	子どもの権利擁護1	子どもの権利擁護の基本を理解する	復習：子どもの権利養護について振り返る
4回目	子どもの権利擁護2	子どもの権利擁護を図る取組みと支援の理解	
5回目	社会的養護における子どもの理解	社会的養護の下で生活する子どもの特徴を理解し、支援する際の留意点を考える。	復習：子どもの理解の仕方について振り返る
6回目	社会的養護の内容1	日常生活支援の必要性について理解する。	復習：日常生活支援はなぜ必要か振り返る
7回目	社会的養護の内容2	社会的養護の子どもの自立について考える。	
8回目	前半のまとめ	前半のまとめ講義と小テスト	前半講義の振り返り
9回目	施設養護と家庭養護の生活特性について	家庭養護と施設養護のメリット・デメリットを理解する。養育里親について理解する。	復習：施設・家庭養護の違いを振り返る
10回目	社会的養護における保育の専門性について	施設内での子どもの行動上の問題等について保育士はどう対応したらよいかを考える	復習：専門性とは何かについて振り返る
11回目	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術	ソーシャルワーク（S・W）の視点を学ぶ。	復習：S・Wにおける支援について振り返る
12回目	社会的養護における家庭支援について	これからの社会的養護としての家庭支援のあり方について理解を深める。	復習：家庭支援とはどういうことか振り返る
13回目	今後の社会的養護の課題と展望	「新しい社会的養護のビジョン」に基づいて、今後の社会的養護の課題と方向性を考えることができる。	復習：新ビジョンに基づく取り組みについて考える。
14回目	後半のまとめ	後半のまとめ講義と小テスト	後半講義の振り返り
15回目	全体を振り返る	全体まとめ講義と課題レポート	
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	社会的養護Ⅱ 中央法規出版、別途資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	指定された座席で受講すること。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業は毎回 PowerPoint を使って、配布資料により進めます。 社会的養護に関する社会の情勢等に関心をもって、学校で学んだこととの関連性をしっかり考えてほしい。

講義科目名称：子育て支援	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位		演習
担当教員				
花城 暢一、澤田 須賀子				

授業概要	<p>授業では、以下の事項を踏まえ、保育相談支援を担う保育者に求められる専門的な知識や技能を様々な演習を通して習得することを目標とする。</p> <p>①保護者に対する相談・助言、情報提供等の支援について、その専門的な特性と展開について具体的に理解する。</p> <p>②保育士の行う子育て支援について、様々な場面や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	保育者に求められる役割や資質について理解を深めることができる。	レポート課題	定期試験 50% レポート・事例検討・グループ協議 40% 学習に取り組む姿勢 10%
確かな専門的知識や技能	保育相談支援に必要な方法・技術についての理解を深めることができる。	事例検討 定期試験	
コミュニケーション能力	子どもや保護者等とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。	レポート課題 定期試験	
課題解決能力	事例分析等を用いて保育相談支援の具体的展開について理解を深めることができる。	事例検討 定期試験	
主体的に学ぶ力	保育者として社会生活上の諸問題に関心を高めることができる。	定期試験 グループ討議	
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

- 授業内で実施するレポート課題・事例検討（40%）
- 定期試験（50%）
- 授業全体を通じた学習に取り組む姿勢（10%）を総合して評価を行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	講義のねらいと進め方についての	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	保育士の行う子育て支援の特性1	子どもの保育とともに行う保護者の支援	予習：保育士の役割について考察する 復習：配布資料を読む
3回目	保育士の行う子育て支援の特性2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	予習：保育者の役割について考察する 復習：配布資料を読む
4回目	保育士の行う子育て支援の特性3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	予習：保護者が抱える生活課題について考える 復習：配布資料を読む
5回目	保育士の行う子育て支援の特性4	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	予習：子育て支援のネットワークについて考察する 復習：配布資料を読む
6回目	保育士の行う子育て支援の展開1	子ども及び保護者の状況・状態の把握	予習：保育者に求められる援助の視点について考察する 復習：配布資料を読む
7回目	保育士の行う子育て支援の展開2	支援計画と環境構成、実践・記録・評価・カンファレンス	予習：保育者に求められる援助の視点について考察する 復習：配布資料を読む
8回目	保育士の行う子育て支援の展開3	職員間の連携・協働、社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	予習：多職種との連携について考察する 復習：配布資料を読む
9回目	保育士の行う子育て支援と実際1	保育所等における支援、地域の子育て家庭に対する支援	予習：保育所等における子育て支援の実際について調べておく。 復習：配布資料をもとに本日の授業振り返る
10回目	保育士の行う子育て	環境を活用した子育て支援	予習：保育所等の保育環境

	支援とその実際2		について調べておく。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
11 回目	保育士の行う子育て支援とその実際3	障害のある子ども及びその家庭に対する支援 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	予習：配慮を必要とする子どもについて実習経験を振り返る。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
12 回目	保育士の行う子育て支援とその実際4	子ども虐待の予防と対応 要保護児童等の家庭に対する支援	予習：子どもの虐待や要保護児童等についての情報を可能な範囲で調べておく。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
13 回目	保育士の行う子育て支援とその実際5	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	予習：地域の社会資源について調べておく。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
14 回目	保育士の行う子育て支援とその実際6	文書・行事等を活用した子育て支援 送迎時対応・園内でのトラブル対応について	予習：実習を振り返り、実習園での文書活用、保護者対応についてまとめておく。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
15 回目	子育て支援と保育者	授業の振り返りとまとめ	予習：いままでの資料を復習する。 復習：配布資料をもとに本日の授業を振り返る。
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト： 配布資料：参考資料をその都度配布します：花城・澤田 参考書：子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 二宮祐子 萌文書林 保護者支援スキルアップ講座 監修・編著 柏女霊峰
履修条件	「子育て支援」を履修していること

履修上の注意	原則、指定された座席で受講すること（座の移動を希望する場合はご相談下さい）：花城 澤田
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します
備考・メッセージ	授業の出欠確認は出席カード（感想記入シート等）を活用して実施します： 花城 澤田

講義科目名称：保育相談	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2		講義
担当教員				
座間味 愛理				

授業概要	<p>現代の日本では、都市化による地域の変化、女性の社会進出に伴う家族の在り方の変化、核家族や少子化など保育をとりまく社会環境は大きく変わり、「子育て支援」への関心が高まっている。保育者はそのような社会背景を理解し、子ども理解と子育てに関わる親への支援、地域との連携、保育者のメンタルヘルスなどについて学んでいく必要がある。</p> <p>本講義では保育者の資質として必要な教育相談（カウンセリングマインド）の必要性について理解し、保育実践の今日的課題に向き合うための基本的知識、子育てに関する教育相談（カウンセリング）理論・技法・応用について学ぶ。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・保育、教育相談の意義を理解し、幼児理解と支援、カウンセリングマインドの重要性について理解できる ・カウンセリングマインドを用いた子どもの理解と支援を言語化できる 	授業内課題の提出	50%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で必要とする協働する態度をもち、グループで課題に取り組む意欲を維持できる 	グループ制作・発表	30%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングマインドを用いた子どもの課題理解と保育者の役割について考え、適切な解決方法を判断できる 	グループ制作・発表	10%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見を取り入れながら、再構築することができる 	グループレポート用紙	10%
合計			100%
補足事項			

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	保育・教育相談、カウンセリングマインドとは何か（第1章）	復習：教科書 pp. 10～17 予習：子どもの発達（乳児期）の確認
2回目	発達理解と相談・支援	保育・教育相談を行うための発達理解（第2章）	復習：教科書 pp. 18-31 予習：教科書 pp. 32-46
3回目	親子の関係づくり	保護者への対応－子育て支援の視点から（第3章）	復習：教科書 pp.162-177 予習：教科書 pp. 61-71
4回目	カウンセリング的アプローチ	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ（第5章）	復習：教科書 pp. 61-71 予習：誰かに話を聞いてもらいたいと思う時のエピソードを振り返る
5回目	カウンセリング的アプローチ	保育現場でのカウンセリング技法の活用（第6章）	復習：教科書 pp. 72-85 予習：誰かに話を聞いてもらえた時の感情を振り返る
6回目	カウンセリング的アプローチ	基礎的対人関係のトレーニング（第9章）	復習：教科書 pp. 110-124 予習：教科書 pp. 86-98
7回目	カウンセリングマインド	保育者の専門性と相談援助（第8章）	復習：教科書 pp. 99-109 予習：子どもの頃のケンカについて振り返る
8回目	事例理解	事例理解①子ども同士のいざこざ	復習：教科書 pp. 126-129、 ケースシートの作成 予習：自己制御について
9回目	事例理解	事例理解②仲間に入れない子ども	復習：pp. 130-133、ケースシートの作成 予習：登園拒否について確認
10回目	事例理解	事例理解③すぐに暴力を振るう子ども	復習：教科書 pp. 134-137、 ケースシートの作成 予習：子どもの怒りについての資料を読む
11回目	事例理解	事例理解④不登園の子ども	復習：教科書 pp. 138～141、 ケースシートの作成 予習：不登園に関する資料を読む
12回目	保育者による支援	模擬ケース検討会議（1回目）	復習：会議資料の整理

		グループとケースの決定、内容について会議する	予習：グループでケースの決定、内容について会議する
13 回目	保育者による支援	模擬ケース検討会議（2 回目） グループとケースの決定、内容について会議する	復習：会議資料の整理 予習：グループでケースの決定、内容について会議する
14 回目	保育者による支援	ケース対応事例の発表と評価① 会議での内容を踏まえ、グループ発表をする。	復習：会議資料の整理 予習：発表や他者のコメントのまとめ、課題の整理
15 回目	保育者による支援	ケース対応事例の発表と評価② 会議での内容を踏まえ、グループ発表をする。	復習：各グループの発表内容と対応を整理し、課題を整理する
16 回目	定期試験		

科目（教職課程用）	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：『子どもの理解と保育・教育相談』 小田 豊・秋田喜代美 編 2014 （株）みらい 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	ケースシートの作成の際には教科書の事例をよく読んでおくこと。

講義科目名称：総合保育技術 I	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	1	選択	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 戸田 恵理子 澤田 須賀子				

授業概要	<p>①幼稚園教育要領に示されたねらいや内容を踏まえ、表現方法を学ぶ。</p> <p>②幼児教育において育みたい資質・能力を踏まえ、様々な表現方法を理解する。</p> <p>③表現技術を学び理解することにより、幼児との主体的・対話的な関り方を学ぶ。</p> <p>④表現あそびの指導法と援助方法を理解する。</p> <p>⑤グループでの活動を通し、協働的な学びから多様な考えを身に付ける。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	豊かな感性を持ち、子どもと関わりを持つことができる。	授業への参加・態度	20%
確かな専門的知識や技能	対象の子どもの年齢に応じた活動を考案し実践に向けた知識と技術を身に付けることができる。	活動計画案提出	20%
コミュニケーション能力	他の人の意見を傾聴し協力して制作することができる。	授業への参加・態度	20%
課題解決能力	様々な問題を解決できる能力や方法を身に付けることができる。	授業への参加・態度	20%
主体的に学ぶ力	積極的に活動に取り組むことができる。	授業への参加・態度	20%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の概要説明とねらいを説明する。	予習:配布資料を確認しておくこと 復習:本日の授業の振り返りをする。

2回目	表現活動の体験	身近な素材の活用や様々な方法を学ぶ。 ①布を使った保育教材 ②リトミック ③紙を使った保育教材	予習: 必要な用具準備の確認 復習: 作品の完成を目指す。
3回目	表現活動の体験	身近な素材の活用や様々な方法を学ぶ。 ①布を使った保育教材 ②リトミック ③紙を使った保育教材	予習: 必要な用具準備の確認 復習: 作品の完成を目指す。
4回目	表現活動の体験	身近な素材の活用や様々な方法を学ぶ。 ①布を使った保育教材 ②リトミック ③紙を使った保育教材	予習: 必要な用具準備の確認 復習: 作品の完成を目指す。
5回目	保育現場訪問	保育現場に出向き、子ども達を取り巻く様々な環境について理解する。	予習: 子どもの発達について調べておく。 復習: 本日の授業の振り返りをする。
6回目	保育現場訪問	保育現場に出向き、子ども達を取り巻く様々な環境について理解する。	予習: 子どもの発達について調べておく。 復習: 本日の授業の振り返りをする。
7回目	指導案指導①	実践活動計画案を立案する。	予習: 観察実習振り返りシートを見直す。 復習: 活動計画を作成する。
8回目	指導案指導②	実践活動計画案を立案する。	予習: 観察実習振り返りシートを見直す。 復習: 活動計画を作成する。
9回目	指導案指導③	実践活動計画案を立案する。	予習: 観察実習振り返りシートを見直す。 復習: 活動計画を作成する。
10回目	指導案指導④	実践活動計画案を立案する。	予習: 観察実習振り返りシートを見直す。 復習: 活動計画を完成する。
11回目	グループ活動	グループわけ、シナリオ制作、役割分担を決める。	予習: シナリオ作成を進める 復習: 役割に応じた準備を行う。
12回目	グループ活動	グループわけ、シナリオ制作、役割分担を決める。	予習: 実践に向けて準備を行う。 復習: 役割に応じた準備を行う。
13回目	グループ活動	実践活動に応じて準備をすすめる。	予習: 実践に向けて準備を行う。 復習: 役割に応じた準備を行う

14 回目	グループ活動	実践活動に応じて準備をすすめる。	予習:実践に向けて準備を行う。 復習:中間発表に向けた確認を行う。
15 回目	中間発表	実践活動中間発表	予習:中間発表に向けた確認を行う。 復習:実践活動の振り返りシートの記入を行う。

科目（教職課程用）	保育内容の指導法に関する科目（情報機器及び教材の活用を含む）
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：総合保育技術Ⅱ	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	1	選択	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 戸田 恵理子 澤田須賀子				

授業概要	①様々な表現方法を理解し実践する。 ②グループ活動を通して協働力を育成する。 ③グループで1つの作品を創作する。 ④地域の子どもたちに発表を通して総合的な表現力を養う。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	豊かな感性を持ち、子どもと関わりを持つことができる。	音楽と動きのひろばにて発表	20%
確かな専門的知識や技能	互いの表現を認め合い共感しあいながら、表現力のスキルを磨くことができる。	音楽と動きのひろばにて発表	20%
コミュニケーション能力	地域の子ども達との交流を通し、表現力を身に付けることができる。	音楽と動きのひろばにて発表	20%
課題解決能力	様々な問題を解決できる能力を身に付けることができる。	授業への参加・態度	20%
主体的に学ぶ力	グループ活動に積極的に取り組むことができる。	授業への参加・態度	20%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の概要とねらいを説明する。	予習:振り返しシートを見直す 復習: 本日の授業の振り返りをする。
2回目	中間発表	実践活動の振り返りをもとに具体的内容を作	予習:振り返しシートを見直す

	振り返り	り直す。	復習: 本日の授業の振り返りをする。
3回目	創作活動	実践活動の振り返りをもとに具体的内容を練り直す。	予習: 活動内容に応じた準備を行う。 復習: 活動内容に応じた準備を行う。
4回目	創作活動	グループ活動①	予習: 活動内容に応じた準備を行う。 復習: 活動内容に応じた準備を行う。
5回目	創作活動	グループ活動②	予習: 活動内容に応じた準備を行う。 復習: 活動内容に応じた準備を行う。
6回目	創作活動	グループ活動③	予習: 活動内容に応じた準備を行う。 復習: 活動内容に応じた準備を行う。
7回目	創作活動	グループ活動④	予習: 活動内容に応じた準備を行う。 復習: 活動内容に応じた準備を行う。
8回目	最終発表 Aグループ	完成した作品を発表する。	復習:指導助言を踏まえ課題点を抽出する。 予習:次回の内容を準備する。
9回目	最終発表 Bグループ	完成した作品を発表する。	復習: 指導助言を踏まえ課題点を抽出する。 予習:次回の内容を準備する。
10回目	最終発表の内容の確認	最終発表の内容を確認し、演出方法を工夫する。	復習:本日の授業の振り返りをする。 予習:次回の内容を準備する。
11回目	鑑賞	音楽と動きのつどい鑑賞	予習:様々な表現方法を学ぶ 復習: 様々な表現方法を学ぶ
12回目	鑑賞	音楽と動きのつどい鑑賞	予習:様々な表現方法を学ぶ 復習: 様々な表現方法を学ぶ
13回目	地域活動	音楽と動きのひろば発表	予習:ひろばの発表に向けた準備を行う 復習: 振り返りシートを記入し自己評価を行う。
14回目	地域活動	音楽と動きのひろば発表	予習:ひろばの発表に向けた準備を行う 復習: 振り返りシートを記入し自己評価を行う。
15回目	振り返り	発表の振り返りをする。	予習: ひろばの振り返りシートをもとに視点をまとめる。 復習:次年度の総合保育技術Ⅲに向けた希望活動を明確にし、表現方法を研究する。

科目（教職課程用）	保育内容の指導法に関する科目（情報機器及び教材の活用を含む）
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	総合保育技術 I を履修していること
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育総合技術Ⅲa			授業コード：	
英文科目名称：				
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年生	1	選択	演習
担当教員				
石多加代子				
授業概要	オペレッタの作品を作りあげる過程を通して、歌唱技術、演技、必要な道具の制作、などを試行錯誤しながら習得をする。そのために①演目の選定、②台本作成、選曲③基礎練習と音取④グループ練習⑤役割分担と作業等を実践する			
資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率	
心豊かな人間力	様々な人間関係の中で、1つの演目を作り上げ、乗り切る事により、協調性、忍耐力、達成感を感じることが出来る			
確かな専門的知識や技能	基礎練習などで、技術を磨く事が出来る。	授業への参加態度	10%	
コミュニケーション能力	グループ練習で、動きや振付など話し合いながら作ってゆくことが出来る。	グループ練習	10%	
課題解決能力	お互いが知恵や自分の特技を出し合うことで様々な問題を解決することが出来る。	分担作業		
主体的に学ぶ力	自分の役割分担を責任と想像力を駆使して遂行できる。	グループ練習 役への取り組み	10%	
			合計	30%
補足事項				
授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習	
1回目		假年度作品鑑賞、説明会	予習 演目を探してくる	
2回目	基礎練習 ①	発声練習、演目選定、パート分け	予習 台本作成案を練る	
3回目	着それ習 ②	発声練習、台本作成、ピアノ伴奏者決定、音取練習	復習 自分のパートの練習予習 台本作成準備	
4回目	基礎練習	発声練習、台本作成、ピアノ		

	③	伴奏者決定、音取練習	
5回目	基礎練習 ④	発声練習、音取練習、台本読み合わせ	復習 オーディションの準備
6回目	オーディション	発声練習、音取練習、オーディション	復習 自分の役の確認と練習
7回目	グループ練習	発声練習、グループで、歌と台詞の練習	復習 流れを掴む
8回目	立稽古①	発声練習、グループで歌とセリフの練習、たち稽古	復習 立稽古の確認
9回目	立稽古②	発声練習、グループで歌とセリフの練習、たち稽古と振付	復習 振付を各自考える
10回目	立稽古③	発声練習、グループで歌とセリフの練習、たち稽古と振付	復習 踊りの確認
11回目	立稽古④	発声練習、部分通し稽古	復習 流れの確認 予習 道具、衣装作成案を練る
12回目	道具、衣装作成①	部分通し稽古、役割分担と話し合い	復習 話し合いの確認 予習 作成の準備
13回目	道具、衣装作成②	部分通し稽古、衣装道具作成	復習 作成物のおくれを補う
14回目	道具、衣装作成③	部分通し稽古、衣装道具作成	
15回目	通し稽古①	通し稽古、制作物の報告	復習 流れをイメージする、制作物の不足分の確認
科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法		
教科書・参考書	プリント		
履修条件			
履修上の注意	舞台制作に興味関心を持ち受講すること		
オフィスアワー	授業前後に対応可能		
備考・メッセージ			

講義科目名称：保育総合技術Ⅲb	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
担当教員				
野田章子				

授業概要	<p>本演習では、身体表現に必要なダンスの基礎を学び、自分にふさわしい表現方法で、「音楽と動きのつどい」に参加できることをねらいとしている。</p> <p>本演習では、①基本的なダンステクニックを学ぶ、②多様なダンスの表現方法を学ぶ、③ダンス創作方法を学ぶ、④ダンスの創作活動を通してコミュニケーションについて学ぶ、ことを目標にする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスを通して身体をコントロールする楽しさが分かる ・ダンスを通して身体で表現することの楽しさが分かる ・ダンスを通して人と交流する楽しさが分かる 	作品発表会	10%
確かな専門的知識や技能	・子どもにダンスを教えるために必要な知識と技術が分かる	レポート	10%
コミュニケーション能力	ダンスが人に伝える手段であることが分かる	グループディスカッション	20%
課題解決能力	ダンス技術習得過程や創作活動中の問題などに対してどのように対処したら良いか考えて取り組むことができる	課題作品 創作作品	15% 15%
主体的に学ぶ力	ダンス技術やダンス作品をよりよくしようと積極的に取り組むことができる	授業への参加・態度	30%
合計			100%

補足事項

課題作品、創作作品、グループディスカッション、作品発表会、レポート、授業への参加・態度を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	過年度作品の鑑賞 授業（a、b、cの選択）	予習：シラバスを読む 復習：自分の選択したコースの活動を調べる
2回目	子どもと踊るダンスの練習	子どもと一緒に踊ることができるダンスを踊り、その特徴を考える。	予習：子どもと踊れるダンスを調べる 復習：子どもと一緒に踊れるダンスの特徴をまとめる
3回目	課題作品の練習①	課題の動きを覚える （0秒～40秒） 動きの力性について学ぶ	予習：子どもと踊れるダンスを練習する 復習：動きの力性についてまとめる
4回目	課題作品の練習②	課題の動きを覚える （40秒～1分20秒） 動きの時間性について学ぶ	予習：課題の動きを練習する 復習：動きの時間性についてまとめる
5回目	課題作品の練習③	課題の動きを覚える （1分20秒～2分00秒） 動きの空間性について学ぶ	予習：課題の動きを練習する 復習：動きの空間性についてまとめる
6回目	課題作品の練習④	課題の動きを覚える （2分00秒～2分40秒） 動きの関係性について学ぶ	予習：課題の動きを練習する 復習：動きの関係性についてまとめる
7回目	課題作品の練習⑤	課題の動きを覚える （2分40秒～3分20秒） ダイナミックな動きについて	予習：課題の動きを練習する 復習：ダイナミックな動きについてまとめる
8回目	課題作品の練習⑥	課題の動きを覚える （3分20秒～4分00分） メリハリのある動きについて	予習：課題の動きを練習する 復習：メリハリのある動き

			についてまとめる
9回目	創作作品の練習①	グループ決めと作品の選択	予習：課題の動きを練習する 復習：いろいろなダンス作品を鑑賞する
10回目	創作作品の練習②	テーマ決めと作品の構想	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、作品の構想を調べる 復習：作品の構想をまとめる
11回目	創作作品の練習③	主題となる動きやイメージの抽出	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、動きやイメージについて調べる 復習：動きやイメージについてまとめる
12回目	創作作品の練習④	効果的な音の選択・編集	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、効果的な音について調べる 復習：効果的な音についてまとめる
13回目	創作作品の練習⑤	ひとながれの動きづくり	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、モチーフとなる動きについて調べる 復習：モチーフとなった動きをまとめる
14回目	創作作品の練習⑥	ひとまとまりの動きづくり	予習：いろいろなダンスを鑑賞し、連続した動きについて調べる 復習：連続した動きをまとめる
15回目	作品の発表	作品の見せあい 意見交流会	予習：創作作品、課題作品の練習 復習：自分の意見をレポートにまとめる

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	教科書：必要に応じてプリントを配布する 参考書：水村真由美（著）『ダンスのかがく』、昭和システム、2013
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応可
備考・メッセージ	円滑なグループ活動を進められるよう、協力的な態度で臨むこと

講義科目名称：総合保育技術IVb	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
担当教員				
野田章子				

授業概要	<p>本演習では、身体表現に必要なダンスの基礎を学び、自分にふさわしい表現方法で、「音楽と動きのつどい」に参加できることをねらいとしている。</p> <p>本演習では、①基本的なダンステクニックを習得する、②多様なダンスの表現方法を習得する、③ダンス創作方法を習得する、④ダンスの創作活動を通してコミュニケーション能力を習得することを目標にする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスを通して身体をコントロールすることができる ・ダンスを通して身体で表現することができる ・ダンスを通して人と交流することができる 	作品発表会	10%
確かな専門的知識や技能	・子どもにダンスを教えるために必要な知識と技術が習得できる	成果レポート	10%
コミュニケーション能力	自分の思いや考えを身体で表現することができる	グループディスカッション	20%
課題解決能力	ダンス技術習得過程や創作活動中の問題などに対してどのように対処すべきか考えて取り組むことができる。	課題作品 創作作品	15% 15%
主体的に学ぶ力	ダンス技術やダンス作品をよりよくしようと積極的に取り組むことができる	授業への参加・態度	30%
合計			100%

補足事項

課題作品、創作作品、グループディスカッション、作品発表会、レポート、授業への参加・態度を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	つどい発表準備①	創作作品前半の動き決め	予習：前期の内容を復習する 復習：前半の動きをまとめる
2回目	つどい発表準備②	創作作品後半の動き決め	予習：前半の動きを練習する 復習：後半の動きをまとめる
3回目	つどい発表準備③	創作作品前半の動き通し練習	予習：前半の動きを練習する 復習：前半の動きを踊り込む
4回目	つどい発表準備④	創作作品後半の動き通し練習	予習：後半の動きを練習する 復習：後半の動きを踊り込む
5回目	つどい発表準備⑤	課題作品前半の構成決め	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる 復習：課題作品前半の構成をまとめる
6回目	つどい発表準備⑥	創作作品前半の構成決め	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる 復習：創作作品前半の構成をまとめる
7回目	つどい発表準備⑦	課題作品後半の構成決め	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる 復習：課題作品の後半の構成をまとめる

8回目	つどい発表準備⑧	創作作品後半の構成決め	予習：いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる 復習：創作品の後半の構成をまとめる
9回目	つどい発表準備⑨	課題作品の通し練習	予習：課題作品を練習する 復習：課題作品を復習する
10回目	つどい発表準備⑩	創作作品の通し練習	予習：創作作品を練習する 復習：創作作品を復習する
11回目	つどい発表準備⑪	衣装製作	予習：衣装のデザインを考える 復習：衣装を完成させる
12回目	つどい発表準備⑫	小道具制作	予習：小道具のデザインを考える 復習：小道具を完成させる
13回目	つどい発表準備⑬	作品の演出（音響・照明など）	予習：いろいろな作品を鑑賞し、音響や照明について調べる 復習：音響案、照明案をまとめる
14回目	つどい発表準備⑭	完成発表	予習：舞台発表に必要なものを準備する 復習：準備物の見直し、踊りの復習を行う
15回目	つどい発表準備⑮	つどいの反省と総括	予習：つどいの映像等を見て自分の意見をまとめる 復習：成果レポートを作成する

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	
履修条件	教科書：必要に応じてプリントを配布する 参考書：水村真由美（著）『ダンスのかがく』、昭和システム、2013

履修上の注意	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	授業の前後で対応可
	円滑なグループ活動を進められるよう、積極的な態度で臨むこと

講義科目名称：総合保育技術Ⅲ c	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	選択	実技
担当教員				
藤澤 明日菜				

授業概要	音楽の基礎的理論を学び、確かな読譜力と表現力を習得する。また楽器の実技指導により幼児教育において必要となるコミュニケーション方法や表現力を身に付ける。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・楽器の演奏力を身に付けることで、言葉では表現できない心を表現できる。	・実技演奏(合奏)	25%
確かな専門的知識や技能	・各楽器の仕組みを理解し、演奏技術を向上させる。 ・読譜に於いて必要な専門用語を理解できる。	・実技演奏(個人練習)	25%
コミュニケーション能力	・必要に応じ各楽器ごとのセクション練習や合奏箇所を話し合い、遂行できる。	・グループディスカッション	25%
課題解決能力	・合奏や個人練習等の際に生じた不足点を分析し、改善できる。	・実技演奏(セクション練習)	20%
主体的に学ぶ力	・器楽に於ける専門的知識を理解し、積極的に学ぶことができる。	・授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項	
・本授業では、実技演奏 70%、グループディスカッション 25%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業の流れや使用する楽器の説明。	各楽器の名称を覚える。
2回目	楽器体験	実際に様々な楽器に触れ、各担当楽器を決定する。	各楽器の名称を覚え、演奏方法を調べる。
3回目	楽器の仕組み	各担当楽器の仕組みやメンテナンスの方法について学ぶ。	各楽器に必要なメンテナンス用品の確認・楽器の構造について調べる。
4回目	個人練習 (音だし)	各担当楽器を個人で練習し、音を鳴らせるようにする。	音の出る仕組みについて調べ、個人で練習する。
5回目	個人練習 (運指等の確認)	各担当楽器の基礎練習に必要な運指や演奏方法について学ぶ。	各楽器の演奏可能音域や運指表を調べ、運指等を確認する。
6回目	基礎練習 (音階 B♭-Major)	基礎合奏の基本となる B♭-Major の音階を覚える。	音階における運指の確認・復習する。
7回目	基礎練習 (アーティキュレーション)	器楽演奏に於いて必要な演奏技術であるアーティキュレーション(スラー・タンギング等)の演奏方法を覚える。	アーティキュレーションの種類を調べ、種類毎の奏法を復習する。
8回目	基礎合奏 (スラー・タンギングを用いての音階練習)	前回で学んだ音階・アーティキュレーションの確認を全体合奏で行う。また、合奏時の各楽器の配置場所について学ぶ。	音階とアーティキュレーションの奏法を再確認し、復習する。
9回目	基礎練習 (譜読み)	話し合いにより決定した楽曲の譜読みをし、演奏する。	楽曲の参考音源を聴いておく。
10回目	基礎練習 (音楽表現記号)	楽譜に記載されている音楽表現・強弱記号について学び、それを演奏で実践する。	演奏楽曲に記載されている音楽表現・強弱記号について調べておく。
11回目	基礎合奏 (ハーモニー)	前回学んだ音楽表現・強弱記号を用い、ハーモニーのバランスについて学ぶ。	長調・短調のハーモニーの取り方を復習する。
12回目	合奏練習 (基礎と楽曲)	基礎合奏で各個人の演奏技術を向上させ、楽曲の合奏で応用する。	基礎合奏の内容確認・合奏曲を復習する。
13回目	パート・セクション練習	楽曲のスコアを読み、同じセクションやパート毎に分かれて練習に取り組む。	各パート毎に配布するスコアをパート内で読んでおく。
14回目	合奏練習 (楽曲の分析)	楽曲を演奏するにあたり、自分がどの役割(旋律・伴奏等)を担当しているのかを把握し、フレーズを理解する。	各役割毎に打ち合わせ・練習をする。
15回目	合奏練習	基礎・楽曲の合奏や後期の課題の確認。	

--	--	--	--

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	楽器使用前後のメンテナンスや取扱に十分配慮すること
オフィスアワー	授業前後に対応可能
備考・メッセージ	

講義科目名称：総合保育技術Ⅳ c	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	選択	実技
担当教員				
藤澤 明日菜				

授業概要	総合保育技術Ⅲ c で学んだ基礎知識と演奏技術をもとに、更に楽器を用いての表現方法のレパートリーを増やし、保育現場での指導力や表現力を身に付けることを目標とする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・総合保育技術Ⅲ c で習得した楽器の演奏力をより向上させ、演奏により自己表現ができる。	・実技演奏(合奏) ・成果発表(つどい)	15% 50%
確かな専門的知識や技能	・読譜に於いて必要な専門用語を理解し、応用できる。	・実技演奏(個人練習)	10%
コミュニケーション能力	・必要に応じ各楽器ごとのセッション練習や合奏箇所を話し合い、練習の効率化ができる。	・グループディスカッション	10%
課題解決能力	・合奏や個人練習等の際に生じた不足点を分析し、対策と改善ができる。	・実技演奏(セッション練習)	10%
主体的に学ぶ力	・器楽に於ける専門的知識を理解し、積極的に学ぶことができる。	・授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項	
・本授業では、成果発表 50%、実技演奏 45%、グループディスカッション 10%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	基礎練習 (音階・半音階)	運指や呼吸法の確認を行い、演奏技術をさらに向上させる。	各楽器毎に運指の確認をしておく。
2回目	基礎合奏 (音階・半音階)	合奏時に指定の速さで音階・半音階を演奏し、楽曲の演奏に応用する。	指定した速さで音階・半音階の練習をしておく。
3回目	パート練習	各楽器毎に分かれて、楽曲の練習(リズム・ハーモニー等の確認)。	各楽器毎に練習箇所を話し合っておく。
4回目	セクション練習	各セクション毎に分かれて、楽曲の練習(リズム・ハーモニー等の確認)。	各楽器毎のリーダー同士で打ち合わせをしておく。
5回目	合奏練習	演奏楽曲のテーマや構成を再確認し、演奏する。	練習箇所の確認をし、復習する。
6回目	合奏練習 (演出)	成果発表時の演出を話し合い、演奏楽曲の構成と組み合わせていく。	各係の担当毎に打ち合わせをする。
7回目	合奏練習 (楽曲)	合奏時に周囲の楽器の演奏を聴くことで各個人の役割を再確認し、演奏の表現力を高める。	楽曲の譜読みをしておき、合奏時の不足点を復習する。
8回目	セクション練習 (楽曲)	前回の合奏時の気付きをまとめ、セクション毎に練習をする。	各楽器毎のリーダー同士で打ち合わせをしておく。
9回目	合奏練習 (楽曲・演出)	演出を合奏と並行しながら確認していき、進行の方法について学ぶ。	各係の担当毎に打ち合わせをしておく。
10回目	合奏練習 (楽曲・演出)	演出の進行に応じて楽曲の合奏練習を行い、演出に合わせた演奏技術について学ぶ。	練習箇所の確認をし、復習する。
11回目	合奏練習 (進行確認)	成果発表の進行を確認し、決められた時間内に進行が収まるようにする為の確実な進行表を作成する。	各係で集まり、話し合いをする。
12回目	合奏練習 (進行確認)	前回作成した進行表をもとに、合奏と演出を進行する。	進行表の流れを各自確認しておく。
13回目	成果発表の通し練習	実際の本番通りに演出を進行し、スムーズな動きが出来るようにする。	進行表の流れを各自確認しておく。
14回目	成果発表の通し練習	前回での復習を踏まえ、演出だけでなく演奏面でも内容を充実させる。	演奏時のテンポ・バランス等を再確認しておく。
15回目	成果発表の反省と楽器のメンテナンス	成果発表の反省後、各楽器毎に必要なメンテナンス用品を用い、正しくメンテナンスを行う。	

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	
履修条件	総合保育技Ⅲ c を履修のこと
履修上の注意	楽器使用前後のメンテナンスや取扱に十分配慮すること
オフィスアワー	授業前後に対応可能
備考・メッセージ	

講義科目名称：保育内容演習Ⅱ（保育教材研究 a）	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
澤田 須賀子				

授業概要	授業では、以下の事項を踏まえ、子どもの年齢や発達段階に応じた様々なあそびを理解し演習を通して保育技術習得することを目標とする。
	①あそびの重要性を学び、主体的なあそび活動によって子どもに身につく力を理解することができる。
	②子どもの興味・関心を引き出す保育教材を知り、子どもが興味・関心を持つことができる保育教材を考えることができる。
	③季節や行事における様々な素材や用具を活用した保育教材を考えることができる。

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	あそび活動を支援する保育者の役割を知ることができる。	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	子どもの興味・関心を引き出す保育教材を知ることができる。	レポート	10%
コミュニケーション能力	あそびやおもちゃを通したコミュニケーションについて考えることができる。	レポート	10%
課題解決能力	子どもの年齢や発達段階に応じた様々なあそびを理解することができる。	レポート 課題作品	10% 25%
主体的に学ぶ力	子どもの年齢や様子に配慮した保育活動を理解し、子どもの発達に応じたあそび活動を考えることができる。	レポート 課題作品	10% 25%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			

○レポート課題 50%

○課題作品 50%

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	子どもにとってのあそびとは	・オリエンテーション ・0～5歳児のあそびについて考える	予習：シラバスを読んで授業内容を確認する 復習：0～5歳児のあそびについて復習する
2回目	いろいろな素材や画材を知る	保育施設で子どもたちが実際に使用する素材や画材を使用する	予習：子どもたちが使用する画材について調べる 復習：本日の学習内容をレポートにまとめる
3回目	紙を使ったあそびを考える	・新聞紙を使ったあそび ・白い紙を使ったあそび	予習：紙を使用した遊びを調べる 復習：紙を使った遊びについてレポートをまとめる
4回目	感触あそびについて考える	・小麦粉粘土あそび ・寒天あそび ・スライムあそび	予習：感触あそびについて調べる 復習：感触あそびについてレポートをまとめる
5回目	0歳児のあそびについて考える	・0歳児にとってあそびが大切な理由 ・身近なものでできる0歳児のおもちゃ	予習：0歳児のあそびについて調べる 復習：私の考える「0歳児のあそび」をレポートにまとめる
6回目	1・2歳児のあそびについて考える	・1・2歳児のあそびについて ・身近なものでできる1・2歳児のおもちゃ	予習：1・2歳児のあそびについて調べる 復習：私の考える「1・2歳児のあそび」をレポートにまとめる
7回目	ごっこあそびについて考える	・ごっこあそびについて知る ・ごっこあそびに使えるおもちゃ	予習：ごっこあそびについて調べる 復習：ごっこ遊びについてレポートをまとめる
8回目	いろいろな保育教材 ①	紙皿を使ったあそび	予習：紙皿を使ったあそびについて調べる 復習：作品を完成させる
9回目	いろいろな保育教材	牛乳パックを使ったあそび	予習：牛乳パックを使った

	②		あそびを調べる 復習：作品を完成させる
10 回目	シアター制作①	・牛乳パックシアター ・てぶくろシアター ・スケッチブックシアター ・パネルシアター の紹介	予習：色々なシアターについて調べる 復習：制作するシアターを決定する
11 回目	シアター制作②	シアター制作	予習：シアターに必要な素材を準備する 復習：シアターを制作する
12 回目	シアター制作③	シアター制作	予習：シアター制作をする 復習：シアター制作をする
13 回目	シアター制作④	シアター制作	予習：シアター制作をする 復習：シアター制作をする
14 回目	シアター制作⑤	シアター制作	予習：シアター制作をする 復習：シアター制作をする
15 回目	シアター制作⑥	シアター提出	予習：シアターを完成させる 復習：シアターに関するレポートをまとめる

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	参考書：『発達がわかれば保育ができる』 川原佐公／著 ひかりのくに 『2・3・4・5歳児の 技法あそび実践ライブ』 村田夕紀・内本久美／著 ひかりのくに 配布資料：その都度配布します。
履修条件	
履修上の注意	原則、指定された座席で受講すること（座の移動を希望する場合はご相談下さい）。 道具箱を毎回持参すること。（道具箱の内容についてはオリエンテーションの際に連絡します。）
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します
備考・メッセージ	授業の出欠確認はアクティブポータルで実施しますので、携帯を持参してください。出欠確認後の携帯使用は不可。

講義科目名称：保育内容演習Ⅱ（保育教材研究b）	授業コード：11154 12153
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1	卒業：選択 幼免：選択	演習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの主体的活動の重要性を理解する 2. 子どもが様々な環境に関わりながらあそぶことが出来るように、5領域の観点からこどものあそびが展開出来るような指導案作成及び実践を行う 3. 子どもの年齢や発達に応じた遊びを考え実践する 4. 子どもの興味・関心を引き出すための様々な工夫を生み出す力を身につける 5. 子どもの遊び活動が発展できるような、保育者の援助の方法を理解し実践する <p>以上のことを実際の保育現場で実践し、振り返りを通して子どもを主体とした保育活動に保育教材を活用することの意義や重要性を理解することを目標とする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・子どもの主体的な活動に関わる保育者の役割を理解することができる。	・レポート	10%
確かな専門的知識や技能	・子どもの年齢や発達に応じた遊びの考案や実践につなげることができる。 ・子どもが様々な環境に関わりながら遊ぶことの重要性を理解できる。	・保育教材等の考案・制作・実践	40%
コミュニケーション能力	・自分や仲間の考えなどを受容しながら、新たな意見・アイデアを取り入れることができる ・保育現場等での保育実践の振り返りを仲間と共有することができる。	・グループディスカッション	20%
課題解決能力	保育現場で活用した保育実践について振り返りを通したレポートの作成ができる。	・レポート	20%
主体的に学ぶ力	子どもが安全で楽しめるための保育教材の必要性を理解し、積極的に取り組むことができる	・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			

・保育教材等の考案・制作・実践（40%） グループディスカッション（20%） レポート（30%）
 授業への参加・態度（10%）の割合で評価する。
 ・レポート提出の際は、Melly上でデータを提出することも可能

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習	
1回目	子どものあそびについて	①「あそび」の意義について ②子どもが主体的に関わるあそびについて		
2回目	保育現場における 絵本や紙芝居について	①子どもと絵本・紙芝居について ②絵本や紙芝居を読む時の配慮事項について	選書 2冊 紙芝居・絵本	
3回目	子どもの年齢・発達に応じた 保育について I	・子どもの興味・関心を引き出すあそびについて	予習：OT 報告書参照し、保育教材製作アイデアを考案する 復習：製作した教材の改善点をレポートにあげ改良点をまとめる	
4回目		・子どもの年齢や発達段階に応じた保育教材の考案・準備 ・身近にある素材の活用について		
5回目	子どもの年齢・発達に応じた 保育について II	・子どもの興味・関心を引き出す保育教材の制作		
6回目		・子どもの興味・関心を引き出す保育教材の提出 ・PDCA サイクルチェック		
7回目	園行事について	・保育現場における園行事のあり方について ・子どもの育ちに必要な園行事の考案（企画・実践に向けて）		予習：行事を通した子どもの育ちについて考えをまとめる
8回目	園行事の実際 I	・子どもの育ちに必要な園行事の準備・計画		復習：実習日誌を参照しレポート作成
9回目	園行事の実際 II	・子どもの育ちに必要な園行事の実践を終えて ・PDCA サイクルチェック		
10回目	保育教材を活用した保育の 計画 I	・子どもの発達の個人差に応じた活動内容と保育者の支援のあり方について（保育所実習に向けて）	予習：子どもの発達段階についてレポートの作成を行う 復習：保育教材の制作における工夫の改善ポイントについて記入し再度レポート作成する	
11回目	保育教材を活用した保育の 計画 II	・子どもの発達や一人ひとりの姿を理解した保育の計画について		
12回目		・子どもの主体的な活動を目指した保育の計画について		
13回目		・制作活動中の子どもの安全面への配慮について		
14回目	環境を通した保育の重要性 (3歳未満児)	・「環境」を通して行う保育について ・子どもの主体的活動の尊重とは	予習：子どもの生活と遊びにおける保育者の具体的な援助について考えをまとめる。	
15回目	環境を通した保育の重要性 (3歳以上児)			
16回目	定期試験	なし		

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	内容ごとに、必要なプリントを配布 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	授業に必要な用具等の準備を行い、持参しているか確認をして受講すること 授業に必要な用具等の管理、後片付けまで留意して受講すること
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	制作した保育教材や身につけた様々な保育技術を子どもと一緒に楽しめることができるよう、積極的な姿勢で受講すること

講義科目名称：子どもと音楽Ⅰa(ピアノ・楽典)	授業コード：41132 42133 43131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択必修	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 若杉 千春 濱崎 典子 西沢素登子 黒田 照子				

授業概要	ピアノは個人レッスンで学習する。楽典はワークブック 1 を使用し、楽譜を読むための必要な知識を養う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	童謡の歌詞を理解しながら歌うことができる。	授業態度	5%
確かな専門的知識や技能	・教則本から1曲暗譜で演奏できる。 ・童謡課題10曲の弾き歌いができる。	定期試験 定期試験	30% 40%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	保育現場に必要な音楽理論の基礎を身に付けることができる。	小テスト	20%
主体的に学ぶ力	与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けている。	授業参加	5%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業概要と担当教員との顔合わせ、レッスンと楽典の理解度調査	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
2回目	個人レッスンと楽典ワークブック	保育者のためのピアノの基礎とワークブック p4~p5	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
3回目	個人レッスンと楽典ワークブック	保育者のためのピアノの基礎とワークブック p6~p7	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
4回目	個人レッスンと楽典	保育者のためのピアノの基礎とワークブック	復習:指導箇所を練習する。

	ワークブック	p8～p9	予習:ピアノの課題を練習すること
5回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	保育者のためのピアノの基礎とワークブック p10～p11	復習:レッ指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
6回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	保育者のためのピアノの基礎とワークブック p12～p13	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
7回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック p14～p15	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
8回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック p16～p17	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
9回目	個人レッスンと楽典 小テスト	教則本と童謡レッスン ワークブック小テスト	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
10回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック P18～p19	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
11回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック P20～p21	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
12回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック P22～p23	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
13回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック P24～p25	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
14回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡レッスンとワークブック P26～p27	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノの課題を練習すること
15回目	楽典小テスト	教則本と童謡レッスンとワークブック 小テスト	復習:指導箇所を練習する。 予習:ピアノ課題の練習
16回目	定期試験(ピアノ)	定期試験(実技)	

科目(教職課程用)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書: 指つかいつきバイエルピアノ教本(担当教員の指示がある場合購入) ブルグミュラー-25番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアルバム 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社) 幼児のための音楽教育(教育芸術者) ジュニア・ワークブック1 サーベル社 参考書:音楽リズム(東京書籍)
履修条件	
履修上の注意	課題は必ず練習してレッスンに望みましょう。

オフィスアワー	授業の開始前・開始後に対応する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：子どもと音楽 I b(ピアノ・楽典)	授業コード：41234 42231 43232 51231
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択必修	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 若杉 千春 濱崎 典子 西沢素登子 黒田 照子				

授業概要	ピアノは個人レッスンで学習する。楽典は子どもと音楽 I a で修得した知識を活用し、リスニングゲームを取り入れながらワークブックで必要な知識を養う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	童謡の歌詞を理解しながら歌うことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識 や技能	教則本から2曲暗譜で演奏できる。 童謡課題曲10曲の弾き歌いができる。	定期試験 15回目に実技試験	40% 30%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	保育現場に必要な音楽理論の知識を身に付けることができる。	9回目と15回目 小テスト	20%
主体的に学ぶ力	与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。	授業参加	5%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業概要と担当教員との顔合わせ、レッスンとワークブック p28~p29	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
2回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡曲レッスンとワークブック p30~p31	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
3回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡曲レッスンとワークブック P32~p33	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
4回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	教則本と童謡曲レッスンとワークブック p34~p35	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。

5回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡曲レッスンとワ-クブック P36～p37	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
6回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡曲レッスンとワ-クブック P38～p39	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
7回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P40～p41	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
8回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P42～p43	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
9回目	個人レッスンと楽典 小テスト	教則本と童謡レッスン ワ-クブック小テスト	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
10回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P44～p45	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
11回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P46～p47	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
12回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P48～p49	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
13回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P50～p51	復習:指摘された曲を練習する。 予習:ピアノ課題を練習すること。
14回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	教則本と童謡レッスンとワ-クブック P52～p53	復習:指摘された曲を練習する。 予習:童謡曲を練習しておくこと。
15回目	童謡弾き歌い試験 楽典小テスト	童謡 10 曲弾き歌い実技試験 楽典小テスト	復習:指摘された曲を練習する。 予習:教則本を練習しておくこと。
16回目	定期試験(ピアノ)	定期試験(実技)	

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
教科書・参考書	教科書: 指つかいつきバイエルピアノ教本(担当教員の指示がある場合購入) ブルグミュラ-25番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアルバム 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社) 幼児のための音楽教育(教育芸術者) ジュニア・ワ-クブック1・ジュニア・ワ-クブック2(サ-ベル社) 参考書:音楽リズム(東京書籍)
履修条件	子どもと音楽Ia(ピアノ・楽典)を履修しておくこと。
履修上の注意	毎回の課題に向き合い、練習してレッスンに望みましょう。
オフィスアワー	授業の開始前・開始後に対応する。
備考・メッセージ	毎日の練習を心がけましょう。

講義科目名称：子どもと音楽Ⅲa(ピアノ・楽典)	授業コード：31135 32123 33134
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	選択	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 井上美佐代 濱崎 典子 西沢素登子 黒田 照子				

授業概要	教育実習や保育所実習に向け季節の童謡と生活の歌の弾き歌いを学習する。 実習園の課題曲を学習していく。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	童謡の歌詞を理解しながら歌うことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識 や技能	童謡 20 曲の弾き歌いができる。 試験課題曲 5 曲の弾き歌いができる。	実技試験 定期試験	20% 50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	保育現場で必要な音楽理論の応用を身に付けることができる。	小テスト	20%
主体的に学ぶ力	与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。	授業参加	5%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	子どもと音楽 I a・I b 課題曲の実技試験	ピアノの実技試験とワークブック 2 p15～p17	復習:再度復習する。 予習:ピアノ課題の練習をする。
2 回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	童謡・生活の曲のレッスンとワークブック P18～p20	復習:指導箇所を復習する。 予習:実習に向けた課題の練習をする。
3 回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	童謡・生活の曲のレッスンとワークブック P21～p23	復習:指導箇所を復習する。 予習: 実習に向けた課題の練習をす

			る。
4回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡・生活の曲のレッスンとワ-クブック P24~p26	復習:指導箇所を復習する。 予習:実習に向けた課題の練習をする。
5回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	園の課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p27~p29	復習:指導箇所を復習する。 予習:実習に向けた課題の練習をする。
6回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	園の課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p30~p32	復習:指導箇所を復習する。 予習:実習に向けた課題の練習をする。
7回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡レッスン ワ-クブック 2 p33~p35	復習:指導箇所を復習する。 予習:童謡課題の練習をする。
8回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡レッスン ワ-クブック 2 p36~p38	復習:指導箇所を復習する。 予習:童謡課題の練習をする。
9回目	個人レッスンと楽典 小テスト	童謡レッスン ワ-クブック 2 小テスト	復習:指導箇所を復習する。 予習:童謡課題の練習をする。
10回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡レッスン ワ-クブック 2 p39~p41	復習:指導箇所を復習する。 予習:童謡課題の練習をする。
11回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	保育所実習課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p42~p44	復習:指導箇所を復習する。 予習:保育園に向けた課題の練習をする。
12回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	保育所実習課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p45~p47	復習:指導箇所を復習する。 予習:保育園に向けた課題の練習をする。
13回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	保育所実習課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p48~p50	復習:指導箇所を復習する。 予習:保育園に向けた課題の練習をする。
14回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	保育所実習課題曲と童謡レッスン ワ-クブック 2 p51~p53	復習:指導箇所を復習する。 予習:試験課題の練習をする。
15回目	個人レッスンと楽典 小テスト	個人レッスンと楽典小テスト	復習:指導箇所を復習する。 予習:学習成果発表会に向けた練習をする。
16回目	定期試験(ピアノ)	定期試験(実技)	

科目(教職課程用)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
-----------	--------------------------

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書: 指つかいつきバイエルピアノ教本(担当教員の指示がある場合購入) ブルグミュラ-25番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアルバム 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社) 幼児のための音楽教育(教育芸術者) ジュニア・ワークブック2 サ-ベル社 参考書:音楽リズム(東京書籍)
履修条件	
履修上の注意	毎回の課題に向き合い、練習してレッスンに望みましょう。
オフィスアワー	授業の開始前・開始後に対応する。
備考・メッセージ	毎日の練習を心がけましょう。

講義科目名称：子どもと音楽IIIb(ピアノ・楽典)	授業コード：24232 31234 32233 33233
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	選択	演習(複数)
担当教員				
友廣 憲子 井上美佐代 濱崎 典子 西沢素登子 黒田 照子				

授業概要	
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・童謡の歌詞を楽しみながら歌うことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識や技能	・童謡課題曲5曲の弾き歌いができる。 ・学習成果として様々なジャンルの曲から1曲暗譜で演奏することができる。	定期試験 学習成果発表実技試験	20% 50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	・保育現場に必要な音楽理論の応用を身に付けることができる。	小テスト	20%
主体的に学ぶ力	・与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。	授業参加	5%
合計			100%
補足事項			
領域及び保育内容の指導法に関する科目			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	授業概要と担当教員との顔合わせ、レッスンと楽典の理解度テスト	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:ワークブックとピアノ課題の練習
2回目	個人レッスンと楽典 ワークブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくドリル・ワークブック④ P4～p7	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:学習成果発表会の課題の練習をする。
3回目	個人レッスンと楽典	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド	復習:指導後の注意点を練習する。

	ワ-クブック	リル・ワークブック④ P8～p11	予習: 学習成果発表会の課題の練習をする。
4回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P12～p15	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: 学習成果発表会の課題の練習をする。
5回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P16～p19	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: 学習成果発表会の課題の練習をする。
6回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P20～p23	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:童謡課題曲の練習をする。
7回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P24～p27	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:童謡課題曲の練習をする。
8回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P28～p31	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:童謡課題曲の練習をする。
9回目	個人レッスンと楽典 小テスト	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P32～p35	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:童謡課題曲の練習をする。
10回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P36～p39	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:ピアノ学習成果発表会と童謡課題の練習をする。
11回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P40～p42	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: ピアノ学習成果発表会と童謡課題の練習をする。
12回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P43～p45	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: ピアノ学習成果発表会と童謡課題の練習をする。
13回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P46～p47	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: ピアノ学習成果発表会と童謡課題の練習をする。
14回目	個人レッスンと楽典 ワ-クブック	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ P48～p50	復習:指導後の注意点を練習する。 予習: ピアノ学習成果発表会と童謡課題の練習をする。
15回目	楽典小テスト	童謡課題曲と様々なジャンル曲とおんがくド リル・ワークブック④ 小テスト	復習:指導後の注意点を練習する。 予習:学習成果発表会の曲を練習する。

16 回目	定期試験(ピアノ)	定期試験(実技)	
-------	-----------	----------	--

科目 (教職課程用)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書: 指つかいつきバイエルピアノ教本(担当教員の指示がある場合購入) ブルグミュラ-25 番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアルバム 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社) 幼児のための音楽教育(教育芸術者) 新版 おんがくドリル・ワークブック④ 参考書:音楽リズム(東京書籍)
履修条件	
履修上の注意	毎回の課題に向き合い、練習してレッスンに望みましょう。
オフィスアワー	授業の開始前・開始後に対応する。
備考・メッセージ	毎日の練習を心がけましょう。

講義科目名称：子どもと造形 a	授業コード：41131 42132 43133
英文科目名称：	ナンバリング CM105

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習 複数
担当教員				
陣内敦 陣内智子				

授業概要	<p>①自分を表現したい心を理解する 相手に伝えたい心を理解する 感じる心を理解する</p> <p>②自然の中にある形を発見する感覚を理解する 偶然による形から発想する感覚を理解する 素材を構成する技術を修練する</p> <p>③幼児の描画概念の発達段階を理解する 幼児の描画道具の扱い方について理解する 幼児への言葉かけ等の支援方法について考察する</p> <p>④壁画装飾がもたらす幼児への効用を理解する 季節を表す素材について理解する 室内環境が与える保育活動の効用を考察する</p> <p>⑤個人の個性の享受と意見の構築の方法を理解する 自分の役割を見つけ達成することの大切さを理解する</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画の原理について理解する ・ 絵画技術と幼児の絵画活動について理解する ・ 幼児の絵画活動に対する保育者の支援方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の成果 作品の成果 作品の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 20% 20% 20%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を理解する 	作品の成果	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者が備えるべき造形教育の資質を高める（共同制作について） 	学修の取り組み	20%
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	子どもと造形についての講話 「子どもたちへの自画像」制作	予習：造形の意味について、自分なりの考えを持つ 復習：造形の意義について確認する
2回目	モダンテクニック (1)	フロッターージュによる絵画制作	予習：フロッターージュについて予備知識を得る 復習：フロッターージュ技法の可能性について考える
3回目	モダンテクニック (2)	デカルコマーニによる絵画制作	予習：デカルコマーニについて予備知識を得る 復習：デカルコマーニ技法の可能性について考える
4回目	モダンテクニック (3)	スタンプングによる絵画制作	予習：スタンプングについて予備知識を得る 復習：スタンプング技法の可能性について考える
5回目	モダンテクニック (4)	コラージュによる絵画制作	予習：コラージュについて予備知識を得る 復習：コラージュ技法の可能性について考える
6回目	工作 (1)	染め紙制作	予習：染め紙について予備知識を得る 復習：染め紙技法の可能性について考える
7回目	工作 (2)	短冊づくり うちわづくり	予習：染め紙の活用法について想像する 復習：染め紙の他の活用について考える
8回目	壁面構成 (共同制作) (1)	グループで題材を考える	予習：個人の題材案を作る 復習：話し合い方について事後反省をおこなう
9回目	壁面構成 (共同制作) (2)	アイディアスケッチをまとめる	予習：個人のアイディア案を作る

			復習：グループのアイデアのまとめ方について事後反省をおこなう
10回目	壁面構成（共同制作）（3）	パネルに下絵を描く	予習：下絵の写し方について計画する 復習：下絵の描き方について事後反省をおこなう
11回目	壁面構成（共同制作）（4）	色彩構成を考える	予習：色彩のイメージを持つ 復習：色彩構成のまとめ方について事後反省をおこなう
12回目	壁面構成（共同制作）（5）	パーツを切り貼りする	予習：素材の持ち味を想像する 復習：作業工程の事後反省をおこなう
13回目	壁面構成（共同制作）（6）	パーツを切り貼りする	予習：色彩の調和を想像する 復習：作業工程の事後反省をおこなう
14回目	壁面構成（共同制作）（7）	パーツを切り貼りする	予習：作品の仕上がりを想像する 復習：作業工程の事後反省をおこなう
15回目	季節の壁面構成（共同制作）（8）	修正を加え完成 観賞する	予習：作り上げる喜びを想像する 復習：作り上げた喜びを味わう

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	

オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称：子どもと造形b	授業コード：41231 42232 43233
英文科目名称：	ナンバリング CM209

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択	演習 複数
担当教員				
陣内敦 陣内智子				

授業概要	<p>①熟達する喜びを理解する 工夫することの喜びを理解する 造り上げる喜びを理解する</p> <p>②素材の材質感や特徴を理解する 素材の加工方法を理解する 発想を構築していく方法を修練する</p> <p>③幼児の工作概念の発達段階を理解する 幼児の工作道具の扱い方について理解する 幼児への言葉かけ等の支援方法について考察する</p> <p>④手作りの造形がもたらす幼児への効用を理解する 手作りの造形の種類と構造について理解する</p> <p>⑤絵本や人形劇の児童文化財の価値を理解する 人形劇における話の展開方法を理解する 人形劇によって幼児に伝達される内容について考察する</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・工作の原理について理解する ・工作技術と幼児の工作活動について理解する ・幼児の工作活動に対する保育者の支援方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の成果 作品の成果 作品の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 20% 20% 20%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の成果 	<ul style="list-style-type: none"> 20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が備えるべき造形教育の資質を高める（児童文化財について） 	<ul style="list-style-type: none"> 学修の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 20%
合計			100%

補足事項

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	オリエンテーション	子どもと造形についての講話 「折り紙」制作	予習:造形の意味について、自分なりの考えを持つ 復習:造形の意義について確認する 折り紙の楽しさを感じる
2 回目	粘土の工作(1)	技法の詳解を見る(ビデオ鑑賞)	予習:粘土の工作について予備知識を得る 復習:粘土の技法について確認する
3 回目	粘土の工作(2)	粘土作品を素手やへらを用いながら成形する	予習:制作する作品のイメージを作る 復習:素材について感じたものを味わう
4 回目	粘土の工作(3)	粘土作品の装飾をひっかきや糊薬によってほどこす	予習:装飾についてイメージを作る 復習:粘土の工作の可能性について考える
5 回目	紙の工作(1)	技法の詳解を聞く 自作品の構想を作る	予習:制作するもののイメージを作る 復習:アイディアスケッチから制作工程について計画する
6 回目	紙の工作(2)	新聞紙と和紙で成形	予習:紙の成形方法について計画する 復習:成形手順について再構想と修正をおこなう
7 回目	紙の工作(3)	新聞紙と和紙で成形	予習:自作品の成形手順について計画する 復習:成形手順について修正をおこなう
8 回目	紙の工作(4)	新聞紙と和紙で成形	予習:成形手順を再構成す

			る 復習：自作品の立体的な構造等について鑑賞する
9回目	紙の工作（5）	部分的に色和紙を貼り装飾する	予習：色彩案を作る 復習：色和紙の調和を鑑賞し、紙の工作の肌合いを楽しむ
10回目	人形劇制作（共同制作）（1）	童話を選び劇の展開を考える	予習：人形劇の体験を思い出す 復習：話の展開について修正する
11回目	人形劇制作（共同制作）（2）	下絵を描く	予習：展開をまとめる 復習：話の内容と感情表現などを登場人物の表情や情景に活かす方法を考える
12回目	人形劇制作（共同制作）（3）	人形に描画し着彩をほどこす	予習：色彩の計画をおこなう 復習：着彩の修正をおこなう
13回目	人形劇制作（共同制作）（4）	画面側に描画し着彩をほどこす 背景の下絵を描く	予習：色彩の調和を想像する 復習：色彩による画面の空間表現について再検討をおこなう
14回目	人形劇制作（共同制作）（5）	背景の着彩をほどこす	予習：話の展開やせりふを推敲する 復習：人形の動きとせりふが整合していることを確認する
15回目	人形劇制作（共同制作）（6）	教室内でグループごとに劇の実演をおこなう	予習：人形劇実演の練習をおこなう 復習：人形劇の楽しさを味わう

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	

教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称：子どものリズム	授業コード：
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1	選択	演習
担当教員				
野田章子				

授業概要	<p>本演習は、子どものリズム・表現遊びを中心に、幼児期にふさわしい運動内容を学び、さらにその適切な指導法と援助方法を理解することをねらいとしている。</p> <p>本演習では、①リズム・表現遊びの実践ができる、②リズム・表現遊びの計画ができる、③リズム・表現遊びの指導や援助方法が分かる、ことをねらいにしている。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、子どもにとって表現・リズム遊びが必要なのか説明できる。 ・子どもにふさわしい表現・リズム遊びの計画ができる。 ・表現・リズム遊びの指導法と援助方法を説明できる。 	授業への参加・態度 成果レポート	40%
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・表現・リズム遊びの実践を通して、いろいろな人と交流し、意見を交わすことができる。 	創作などのグループ活動	30%
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・分からなかったことなどを調べて解決することができる。 	課題レポート	20%
主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ成果をまとめ発表する 	作品発表	10%
合計			100%

補足事項	
<p>創作などのグループ活動、作品発表、課題レポート、成果レポート、授業への参加・態度を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。</p>	

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	子どものリズムとは	授業のねらいと内容について	予習：リズム・表現遊びとは何か調べる 復習：リズム・表現遊びについてまとめる
2回目	リズムを感じてみよう	「内的リズム」について リズムを使った遊びの実践	予習：リズムとは何か調べる 復習：リズムを使った遊びをまとめる
3回目	4つのキーワードで動きを広げよう	「時間性」「力性」「空間性」「関係性」について 4つのキーワードで動く遊びの実践	予習：動きとは何か調べる 復習：4つのキーワードで動く遊びをまとめる
4回目	自由に動こう① 「ボール」	ボールを使って動きを広げよう ボールを使って動く遊びの実践	予習：ボールの使った遊びを調べる 復習：ボールを使った遊びをまとめる
5回目	自由に動こう② 「フープ」	フープを使って動きを広げよう フープを使って動く遊びの実践	予習：フープを使った遊びを調べる 復習：フープを使った遊びをまとめる
6回目	自由に動こう③ 「紙」	紙を使って動きを広げよう 紙を使って動く遊びの実践	予習：紙を使った遊びを調べる 復習：紙を使った遊びをまとめる
7回目	自由に動こう④ 「イメージ」	イメージを使って動きを広げよう イメージを使って動く遊びの実践	予習：イメージを使った遊びを調べる 復習：イメージを使った遊びをまとめる
8回目	指導と援助①「手本になる動きについて」	子どもの手本になる良い動きとは何か考える	予習：良い動きについて調べる 復習：授業で学習した動きを復習する
9回目	リズム・表現遊びの計画①「イメージづくり」	自分の表したいイメージを動きで表現する	予習：自分の動きをまとめる 復習：授業で学習した動きを復習する

10 回目	リズム・表現遊びの計画②「動きづくり」	イメージで表現した動きをつなげて、連続した動きにする	予習：自分の動きをひとまとまりの動きにする 復習：授業で学習した動きの練習をする
11 回目	指導と援助②「指導言語について」	表現あそび中の子どもへの声かけなど、適切な指導にふさわしい言葉がけについて考える。	予習：声かけ、言葉がけについて調べる 復習：指導言語についてまとめる
12 回目	リズム・表現遊び③「作品づくり」	連続した動きにメリハリをつけて、ダイナミックな動きに変化させる。	予習：自分の動きをデフォルメする 復習：授業で学習した動きを練習する
13 回目	リズム・表現遊び④「発表会づくり」	発表できるように動きをまとめる	予習：作品の動きを覚える 復習：完成した動きを練習する
14 回目	まとめ	作品発表	予習：作品の動きを練習する 復習：発表会を振り返る
15 回目	指導と援助③「評価」	子どもの表現をどのように評価すれば良いのか考える。	予習：評価について調べる 復習：成果レポートを作成する

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：必要に応じてプリントを配布する 参考書：岩崎洋子（編著）『保育と幼児期の運動あそび』、萌文書林、201 高野牧子（編著）『うきうきわくわく 身体表現遊び -豊かに広げよう！子どもの表現世界-』、同文書院、2015 小谷隆真『あたらしい表現遊び』、すずき出版、1994
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応可
備考・メッセージ	自分の体感から学びが広げられるよう、積極的に取り組むこと 運動できる服装、体育館シューズで受講すること

講義科目名称：子どもと運動	授業コード：41232 42234 43231
英文科目名称：Physical exercise methods for early child	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1	選択	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	<p>①子どもの運動能力・体力について理解する 運動発達の段階について理解する 発達段階における運動発達の特徴について理解する</p> <p>②園や家庭の環境と運動発達の関係について理解する 物理的環境と運動能力の関係について理解する 心理社会的環境と運動能力について理解する</p> <p>③多様な運動経験と運動コントロール能力を高める方法について理解する 運動意欲を高める方法について理解する 自己概念形成及び知的能力の発達と運動遊びの関係について理解する</p> <p>④子どもの自主性と保育者の意図性について理解する 子どもの運動経験の意味とその捉え方を理解する 具体的な保育者の援助について理解する</p> <p>⑤自発性を促す運動遊びの機会づくりについて理解する 魅力的な園環境の構成について理解する 運動経験を保障する活動内容について理解する</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動遊びの場面で適切な支援方法を考えることができる。 ・子どもの発達に応じた運動遊びを企画することができる。 	期末レポート 課題発表	40% 10%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの運動経験に関係する保育現場の問題点を指摘することができる 	期末レポート	20%

主体的に学ぶ力	・保育者を目指す者として、自ら運動に親しむことができる	授業への参加・態度	30%
合計			100%
補足事項			
期末レポート 60%、課題発表 10%、授業への参加・態度 30%の割合で評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	子どもの運動能力の特徴について	幼児期運動能力検査による運動能力の測定評価方法を通して、子どもの運動能力の特徴について学ぶ	予習：子どもの運動能力の現状について調べる 復習：配布資料を参考に子どもの運動能力・体力の現状についてまとめる
2 回目	保育者に求められる運動に対する意識と関わり方	自らの運動能力を知り、保育者として運動に対する意識やかかわり方を学ぶ（新体力テストの実施）	予習：保育者の運動に対する意識と子どもの運動能力の関係について調べる 復習：自らの運動能力について振り返り、これからのライフスタイルについて考える
3 回目	多様な運動経験につながる運動遊びの実践方法について	運動経験の意味とその捉え方、具体的な保育者の援助について学ぶ	予習：多様な運動経験を促す運動遊びについて調べる 復習：運動遊びにおける具体的な保育者の援助のポイントをまとめる
4 回目	運動遊びの機会づくりについて	魅力的な環境構成と自発性を促す機会づくりについて学ぶ	予習：自発的な活動を引き出す言葉かけについて調べる 復習：配付資料を参考に魅力的な園環境とはどのようなものかまとめる
5 回目	自然環境を利用した運動遊びについて	ネイチャーゲームの体験とそのポイントについて学ぶ 学習課題	予習：自然環境でどのような遊びを体験してきたか振り返る 復習：ネイチャーゲームのポイントについてまとめる

6回目	移動系の運動遊びについて①	様々な鬼ごっこ遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：体験したことのある鬼ごっこ遊びを振り返る 復習：鬼ごっこのポイントについてまとめる
7回目	移動系の運動遊びについて②	遊具を使った移動系の遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：体験したことのある遊具を使った遊びについて振り返る 復習：遊具を使った移動系の遊びのポイントをまとめる
8回目	操作系の運動遊びについて①	フープや縄を使った遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：体験したことのあるフープや縄遊びについて振り返る 復習：フープや縄を使った遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる
9回目	操作系の運動遊びについて②	ボールを使った遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：体験したことのあるボールを使った遊びについて振り返る 復習：ボールを使った遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる
10回目	平衡系の運動遊びについて①	マット、跳び箱などを使った遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：これまで体験したマット、跳び箱等を使った遊びを振り返る 復習：マット、跳び箱などを使った遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる
11回目	平衡系の運動遊びについて②	鉄棒や平均台を使った遊びの環境構成と指導のポイントについて学ぶ	予習：これまで体験した鉄棒や平均台などを使った遊びを振り返る 復習：鉄棒や平均台を使った遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる
12回目	運動遊びの計画と実践①	グループに分かれてサーキット遊びを企画する	予習：サーキット遊びについて調べておく 復習：サーキット遊びを企

			画する際の留意点についてまとめる
13回目	運動遊びの計画と実践②	企画したサーキット遊びを実施し、評価する	予習：企画した内容を確認しておく 復習：実施した内容を振り返り、改善点を見つけておく
14回目	運動遊びの計画と実践③	運動会種目をグループに分かれて企画する	予習：運動会で行われる種目について調べておく 復習：企画する際の留意点についてまとめておく
15回目	運動遊びの計画と実践④	企画した運動会種目を実施し、評価する	予習：企画した内容を確認しておく 復習：実施した内容を振り返り、改善点を見つけておく

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科書・参考書	教科書：必要に応じて資料を配布する 参考書：幼児期における運動発達と運動遊びの指導 杉原 隆／河邊貴子編著 ミネルヴァ書房 ：0～5歳児の発達にあった楽しい運動遊び 柳澤秋孝著 ナツメ社 ：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児期運動指針
履修条件	
履修上の注意	実技の際は保育専攻指定ジャージとシューズを着用の上、装飾品ははずし運動ができるよう準備すること
オフィスアワー	授業の前後に教室にて質問を受け付ける
備考・メッセージ	保育者を目指す者として自分の健康にも関心も持ち、身体を動かす習慣を身につけ、健康維持に努めること

講義科目名称：子どもと言語	授業コード：31132 32131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習（単独）
担当教員				

授業概要	<p>幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、かつ幼稚園教育要領に示された領域のねらい・内容を理解し、幼児の発達に則した保育を構想する方法を身に付ける。具体的には、子どもの言葉を育む児童文化財として、絵本・紙芝居を中心に学ぶ。どのような絵本や紙芝居があるのか、集団への読み語りの方 法、発達段階や目的にあった選び方など班活動を中心にグループで討議しながら身につける。各自が 集団への読み語りに適切な絵本を1冊ずつ選び読み語りを実演し、最終的には班単位でおはなし会を企 画、実演する。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	①絵本と紙芝居の児童文化財として の特徴と教育的意義の理解ができ る。 ②子どもの発達や目的に合った絵 本・紙芝居を選ぶことができる。 ③子どもの発達や目的を考慮し、適 切に読み語りすることができる。	レポート 絵本の読み語り発表	50% 20%
コミュニケーション能力	④グループ内で協力し、おはなし会を 企画・運営できる。	グループディスカッ ション	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	⑤自分の意見を持ち、積極的に意見を 言うことができる。	グループディスカッ ション	10%
合計			100%
補足事項			

・本授業では、レポート（授業内、授業後）50%、グループ活動・ディスカッション 30%、発表 20%の割合で評価する。

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	・授業のねらい ・進め方 ・評価、アンケートについての説明	復習：授業のねらいや進め方などについて振り返る 予習 言葉を育む児童文化の概要・絵本について考える
2回目	児童文化の概要	・言葉を育む児童文化の概要・絵本について特徴と留意点	復習 言葉を育む児童文化の概要・絵本に関する学習内容の確認 予習 集団への読み語りについて考える
3回目	絵本研究	・集団への読み語りについて	復習 集団への読み語りについて振り返る 予習 絵本の種類について調べる
4回目	絵本研究	・絵本の種類	復習 絵本の種類に関する学習内容の確認 予習 子どもの発達と絵本について考える
5回目	絵本研究	・子どもの発達と絵本	復習 子どもの発達と絵本に関する学習内容を振り返る 予習 読み語りにふさわしい絵本の準備
6回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習(小グループでの読み語りの練習)	復習 読み語りの練習 予習 読み語りの発表準備
7回目	絵本の読み語り	読み語りの練習と発表(1)・紙芝居の活用	復習 紙芝居の活用について振り返る 予習 読み語りの発表準備
8回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習と発表(2)・課題別研究	復習 課題別絵本について振り返る 予習 読み語りの発表準備
9回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習と発表(3)	復習 課題別絵本について振り返る

			予習 読み語りの発表準備
10 回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習と発表（４）・素話の活用	復習 素話の活用について振り返る 予習 読み語りの発表準備
11 回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習と発表（５）・保育絵本の活用	復習 保育絵本の活用について振り返る 予習 読み語りの発表準備
12 回目	絵本の読み語り	・読み語りの練習と発表（６）・手遊びの活用	復習 読み語り発表と手遊びの活用について振り返る 予習 おはなし会について調べる
13 回目	おはなし会の研究（１）	・おはなし会の準備・指導案作り	復習 おはなし会の指導案について振り返る 予習 おはなし会の準備
14 回目	おはなし会の研究（２）	・おはなし会の実施	復習 おはなし会を振り返る 予習 おはなし会の準備
15 回目	おはなし会の研究（３）	・おはなし会の実施	復習 おはなし会を振り返る
16 回目			

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	テキスト：購入「保育内容・言葉」 太田光洋編著 岸井勇雄・武藤隆・柴崎正行監修 同文書院 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	・ 2 回目の講義後、読み語り発表用の絵本を準備すること。読み語りの練習、おはなし会の練習が重要になる。



講義科目名称：子どもと暮らし	授業コード：23132 24131
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 学年	1 単位	選択	演習
担当教員				
藤野 正和 花城 暢一				

授業概要	<p>授業では、子どもの育ちにかかわる保育者として子どもや子どもを取り巻く環境についての基本的な知識とその内容を多角的な視点で捉える専門性の基礎を養うことを目指します。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。</p> <p>①子どもについて多様な視点から他者と意見交換することができる</p> <p>②子どもの発達過程の基礎的な知識について説明できる</p> <p>③子どもの生活や環境について保育者の視点から考察することができる</p> <p>④子どもを取り巻く諸問題について資料等を用いて解決策を見出すことができる</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達過程の基礎的な知識について説明できる 子どもの育ちについて保育者の視点から考察することができる 	定期試験	60
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> 子どもについて多様な視点から他者と意見交換することができる 	グループディスカッション	20
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く諸問題について資料等を用いて解決策を見出すことができる 	レポート	20
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

--

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション	担当教員の自己紹介・受講生同士の自己紹介、本授業における心構えについての確認を行う	予習：教科書を大まかに通読しておく 復習：レポートの書き方を振り返っておく
2回目	子どもの世界	子どもの信念の在り方から子どもと大人のかかわりについて説明する	予習：教科書 P17~34 を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
3回目	子どもの発達過程	エリクソンの発達理論を中心に子どもの発達過程について説明する	予習：教科書 P35~51 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
4回目	子どもの生活習慣	子どもの身辺自立・生活習慣に関する基本的な知識を説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
5回目	子どもの遊び	子どもの遊びの分類と遊びによって育まれる力について説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
6回目	子どもの健康	子どもにおける心理的なストレスについて基本的な知識を説明する	予習：教科書 P113~131 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
7回目	子どもの人間関係	ボウルヴィの愛着理論や対人的なコミュニケーションの発達について説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
8回目	子どもの環境	子どもの認知発達や子どもと環境とのかかわりについて説明する	予習：教科書 P93~111 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる

9回目	子どもの言葉・文化	子どもの言語発達や文化が子どもに与える影響について説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
10回目	子どもの感性・表現	子どもの感性や子どもが表現することの意味について説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
11回目	特別な支援を必要とする子どもの生活	発達障害の種類や特徴、かかわりの留意点について説明する	予習：教科書 P151~168 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
12回目	特別な支援を必要とする子どもの生活	インクルーシブ保育について説明を行い、インクルーシブ保育についての議論を行う	予習：教科書 P169~190 を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
13回目	子どもの権利	子どもの権利について説明を行い、出生前診断について議論を行う	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られたレポートを作成する
14回目	現代の子どもの諸問題	子どもとメディア、IT、AI など次世代の情報システムがもたらすものについて説明する	予習：参考資料を通読しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
15回目	授業全体の総括	授業全体を総括するとともに、定期試験の内容等についても説明する	予習：授業で配られた資料を整理しておく 復習：授業で配られた資料をふりかえる
16回目	定期試験		

科目（教職課程用）	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域の専門的事項（これらの内容を合わせた科目）
教科書・参考書	教科書：子ども支援の現在を学ぶ—子どもの暮らし・育ち・健康をみつめて — 仲本美央・山下幸子・稲垣美加子編 みらい 参考資料：授業内で適宜配付する

履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します（研究室）
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を阻害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合はそれ相応の対応を行います。

講義科目名称：保育実習 I（施設）	授業コード：90133
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	保育士：必修	実習
担当教員				
若杉千春、滝川由香里、松田清美				

授業概要	<p>施設実習を通して、保育士資格の取得のために必要な専門的知識・技術の習得、実習生としての姿勢を学習していく。本実習では以下の事項を学習の目標とする。</p> <p>① 社会福祉施設の役割、機能などを実践現場で体験を通して理解する。</p> <p>② 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。</p> <p>③ 子どもに直接に関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深めることができる。</p> <p>④ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践できる。</p> <p>⑤ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解する。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身につけることができる。	・実習中の取り組み ・巡回指導訪問	10% 5%
確かな専門的知識や技能	保育者の役割と仕事内容を理解し、保育者に求められる専門的な知識や技能について習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
コミュニケーション能力	関係者との協働を通して、児童や利用者の状況を理解しながら支援していく姿勢を身につけることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	児童および利用者の人権と最善の利益の考察、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
主体的に学ぶ力	実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むことができる。	・実習中の取り組み ・振り返りレポート	10% 15%

出席	受験要件
合計	100%
補足事項	
<p>○実習中の取り組み（20%）</p> <p>○実習日誌（20%）</p> <p>○実習施設からの評価（40%）</p> <p>○振り返りレポート（15%）</p> <p>○巡回訪問指導（5%）を総合評価しておこなう。</p> <p>※「保育実習Ⅰ」の全体評価は、「保育所実習（50%）」と「施設実習（50%）」で総合評価する。</p>	

実践実習（実習計画と学習内容）	
＜福祉施設での実習＞（1日8時間以上×10日間）	
（内容）	
1	実習施設の役割と機能について学ぶ。
2	観察や記録を通し子どもを理解し、個々の状態に応じた援助やかかわりを学ぶ。
3	養護内容や生活環境について学ぶ。
4	生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
5	職員間の役割とチームワークについて理解する。
6	記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。
7	安全及び疾病予防への配慮について理解する。
8	専門職として保育士の役割と職業倫理について学ぶ。

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	施設のオリエンテーションを受け、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する。必要書類（腸内検査等含む）を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	実習中は遅刻・欠席がないように心がけましょう。

講義科目名称：保育実習 I（保育所）	授業コード：90135
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2	保育士：必修	実習
担当教員				
戸田 恵理子 松田 清美				

授業概要	<p>保育所実習を通して、</p> <p>① 保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学ぶ</p> <p>② 既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける</p> <p>③ 子どもに直接関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深める</p> <p>④ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する</p> <p>⑤ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解することを学習の目標とする。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、子どもたちとの関わりを楽しみながら実習に臨むことができる。	・実習中のサービス内容 ・巡回訪問指導	10% 10%
確かな専門的知識や技能	保育士に必要な、保育に関する専門的知識・技能を積極的に習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
コミュニケーション能力	子どもとの関わりを通して、子どもの年齢や発達に応じた声かけや援助の方法を身につけることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	子どもの最善の利益を保障する日々の保育を理解し、場面に応じた課題解決法を見出すことができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
主体的に学ぶ力	日々の実習において、自己課題を明確にし、主体的に実習に臨むことができる。	・実習中のサービス内容 ・振り返りレポート	10% 10%
合計			100%
補足事項			
実習中のサービス内容（20%） 実習日誌（20%） 実習施設からの評価（40%） 巡回訪問指導（10%） 振り返りレポート（10%）を総合して評価をおこなう。			

※保育実習Ⅰの全体評価は「施設実習：50%」と「保育所実習：50%」で総合評価する。

実践実習（実習計画と学習内容）	
<保育所での実習>（1日 8時間以上×10日間）	
実習内容	
1	施設及び保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ
2	観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ
3	発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する
4	生活や余暇活動及び遊びの一部を担当し、保育技術の習得をする
5	保育計画立案、実践、反省、改善ができる
6	施設及び保育所、認定こども園と家庭・地域社会との連携を理解する
7	安全及び疾病予防への配慮について理解する
8	専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 内容ごとに、必要なプリントを配布
履修条件	
履修上の注意	・実習前後及び実習期間中の健康管理には十分留意すること ・実習に関わる準備を丁寧に行うこと
オフィスアワー	授業・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	・保育実習Ⅰ（保育所実習）の学びの振り返りを次の実習に活かしましょう

講義科目名称：保育実習Ⅱ（保育所）	授業コード：90503
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期（集中講義）	2年次	2	保育士：選必 卒業：選択	実習
担当教員				
戸田 恵理子				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 「保育実習Ⅰ」で習得した知識や内容を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援に携わる保育士に必要な専門知識や保育技術などを身につける。 4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 実習における自己の課題を明確化する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	対人援助職である保育士の仕事に携わる者として、明るく柔和な態度と責任感を持ちながら行動できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中のサービス内容 ・巡回訪問指導 	10% 10%
確かな専門的知識や技能	保育に関する専門的知識・技能を実習現場で生かしながら、保育者からの指導助言を柔軟に受け止め、自身の知識・技術向上につなげることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価 ・実習日誌 	10% 10%
コミュニケーション能力	保育者の子どもや保護者との関係性に着目しながら、状況に応じたコミュニケーションの方法を習得することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価 	20%
課題解決能力	1日1日の実習を丁寧に振り返ることや、子ども・保育者との継続的な関係性のもとに成り立つ保育中の様々な場면을多面的に分析・考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価 ・実習日誌 	10% 10%
主体的に学ぶ力	保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解しながら積極的に実習に臨むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中のサービス内容 ・振り返りレポート 	10% 10%

合計	100%
補足事項	
実習中のサービス内容（20%） 実習日誌（20%） 実習施設からの評価（40%） 巡回訪問指導（10%） 振り返りレポート（10%）を総合して評価をおこなう。	

実践実習（実習計画と学習内容）	
＜保育所での実習＞（1日 8時間以上×10日間）	
実習内容	
1	保育全般に参加し、保育技術を習得する
2	子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について具体的に学ぶ
3	指導計画を立案し実践する
4	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する
5	地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ
6	子どもの最善の利益への配慮を学ぶ
7	保育士としての職業倫理を理解する
8	保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて自己の課題を明確化する

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 内容ごとに、必要なプリントを配布
履修条件	保育実習Ⅰを履修すること
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前後及び実習期間中の健康管理には十分留意すること ・実習に関わる準備を丁寧に行うこと
オフィスアワー	授業・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	・振り返りを通して、保育士に必要な資質能力の向上を目指しましょう

講義科目名称：保育実習Ⅲ（施設）	授業コード：90137
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	保育士：必修	実習
担当教員				
若杉千春、滝川由香里				

授業概要	<p>1年時の保育実習Ⅰ（施設）で学んだ実習内容を踏まえ、専門的知識・技術の習得、保育士の資質等を学習していく。本実習では以下の事項を学習の目標とする。</p> <p>① 「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知恵や指導技術を身につけることができる。</p> <p>② 児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。</p> <p>③ 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。</p> <p>④ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>⑤ 保育士としての自己の課題を明確化することができる。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。	・実習中の取り組み ・巡回指導訪問	10% 5%
確かな専門的知識や技能	児童福祉施設（保育所以外）その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質を習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
コミュニケーション能力	「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知識や指導技術を身につけることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	児童および利用者の生活課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%

主体的に学ぶ力	実習の目標および自己課題を明確にし ながら主体的に実習に臨む姿勢を身に 着けることができる。	・実習中の取り組み ・振り返りレポート	10% 15%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
○実習中の取り組み（20%） ○実習日誌（20%） ○実習施設からの評価（40%） ○振り返りレポート（15%） ○巡回訪問指導（5%）を総合評価しておこなう。			

実践実習（実習計画と学習内容）	
＜保育所以外での施設実習＞（1日8時間以上×10日間）	
（内容）	
1	実習施設事前オリエンテーション（上記実習期間前に実施する）
	実習施設の理解① 目的、沿革、運営方針、環境（地理的、物的、人的）、1日の生活の流れ、児童の姿、子ども・利用者の姿
	実習施設の理解② 実習中の行事、実習計画（担当予定など）、実習中の心得（持ち物、服装等）、準備するものなど
2	（1）養護全般に参加し、養護技術を習得する。
	（2）個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズの把握とその理解。
	（3）子ども・利用者の観察や関わりを通して、児童の発達・利用者の援助を理解する。
	（4）子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
	（5）子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
	（6）保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
	（7）児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。
	（8）多様な専門職との連携や、地域社会との連携について学ぶ。

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	

教科書・参考書	
履修条件	施設のオリエンテーションを受け、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する必要書類（腸内検査等含む）を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。
履修上の注意	
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	実習中は遅刻・欠席がないように心がけましょう。

講義科目名称 教育実習	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	4単位	選択	演習
担当教員				
澤田 須賀子・戸田 恵理子・松田 清美				

授業概要	<p>すでに学んだ理論をもとに、幼稚園・認定こども園において実際に園児と接し、幼児の実態を知り、幼稚園教諭・保育教諭としての職務内容や役割を理解が深まるよう、以下の事項を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園・認定こども園教育の内容、機能等を実践現場で体験を通して理解する。 2. 既習の学習全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 幼稚園・認定こども園の機能・役割・幼児や職員の様子などを実際に見たり、聞いたりして幅広く学ぶ。 4. 幼児に直接的に関わることを通して、幼児や幼児を取り巻く環境について理解を深める。 5. 幼稚園教諭・保育教諭の職務内容や役割を理解し、自らの保育観を形成する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身に付けることができる	実習評価 巡回指導訪問 実習中の取り組み	10% 5% 10%
確かな専門的知識や技能	幼稚園教諭・保育教諭の役割と仕事内容を理解し、専門的な知識や技能を習得することができる。	実習評価 実習日誌	10% 10%
コミュニケーション能力	保育者との協同を通して、幼児の状況を理解しながら支援していく姿勢を身に付けることができる。	実習評価	10%
課題解決能力	実習を通して、各自の課題をより明確にし、幼稚園教諭・保育教諭になるにあたっての課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	実習評価 実習日誌	10% 10%
主体的に学ぶ力	実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むことができる。	実習評価 実習日誌 巡回指導訪問	10% 10% 5%

出席	受験要件
合計	100%
補足事項	
○実習評価 50 パーセント ○実習日誌 30% ○実習指導訪問 10% ○実習の取り組み 10%	

実践実習（実習計画と学習内容）	
実践実習（幼稚園） 1日8時間以上×10日間	
内容	
1	幼稚園の1日の流れ（活動、休息、生活リズム）を知る
2	幼児に対する教諭の指導や配慮について学ぶ
3	年齢や発達段階による 遊びの内容、環境との関わりについて知る
4	幼稚園教諭の職務内容、勤務体制、地域や保護者との連携の大切さについて学ぶ
5	家庭や地域社会との関係について知る

講義科目名称：保育実習指導 I（施設）	授業コード：33231 34232
英文科目名称：	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	保育士：必修	演習
担当教員				
若杉千春、滝川由香里、松田清美				

授業概要	<p>授業では、保育士資格の取得のために必要な施設実習について専門的な知識・技術、実習生としての姿勢を学習していく。本授業では以下の事項を学習の目標とする。</p> <p>① 施設実習の意義・目的を理解する。</p> <p>② 実習内容を理解し、実習生としての心構えを学び、自らの実習の課題を明確化する。</p> <p>③ プライバシーの保護と守秘義務について理解する。</p> <p>④ 子どもの人権と最善の利益の尊重の具現化について理解する。</p> <p>⑤ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>⑥ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身に着けることができる。	・学習に取り組む姿勢 ・事前準備	10% 10%
確かな専門的知識や技能	保育者の役割と仕事内容を理解し、保育者に求められる専門的な知識や技能について習得することができる。	・レポート課題 ・部分保育実習	15% 15%
コミュニケーション能力	関係者との協働を通して、児童や利用者の状況を理解しながら支援していく姿勢を身に着けることができる。	・レポート課題	10%
課題解決能力	児童および利用者の人権と最善の利益の考察、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・レポート課題	20%
主体的に学ぶ力	実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むこと	・レポート課題	20%

	ができる。		
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
○授業内レポート（40%） ○授業での取り組み（20%） ○事前準備（20%） ○振り返り（レポート・振り返り）（20%）			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	実習全体のオリエンテーション	実習の意義と目的について	予習：テキスト及びシラバスを読んで授業内容を確認する 復習：配布資料を読む
2回目	保育・教育・実習についての内容と理解	各実習についての意義・目的を理解する	予習：テキスト・配布資料を読む。 復習：幼稚園・保育所・施設実習の内容（意義・目的）について理解する
3回目	施設種別毎の理解と実習内容	養護系施設について理解する	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習施設（児童福祉施設における養護系施設）について理解する。
4回目	施設種別毎の理解と実習内容	障害系施設について理解する	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習施設（児童福祉施設等における障害系施設）について理解する
5回目	施設実習への準備	手続き、心構え、事前学習	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：施設実習に向けた手続き・心構え・事前学習の内容について理解する。
6回目	施設実習への展開	実習期間中の流れ、生活援助への参加	予習：テキストおよび配布資料を読む。

			復習：実習期間の日程、施設での生活支援などについて理解を深める。
7回目	実習の内容と方法	実習の1日の流れについて（障害系施設）	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習施設（障害系施設）の1日の流れについて理解する。
8回目	実習記録の意義と方法	日誌の構成と内容について	予習：テキストおよび配布資料を参考にして、日誌の記入を練習する。 復習：実習中の記録（日誌の構成と内容）について理解を深める。
9回目	実習の内容と方法	実習の1日の流れについて（養護系施設）	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習施設（養護系施設）の1日の流れについて理解する。
10回目	実習日誌の書き方	日誌の記録方法	予習：テキストおよび配布資料を参考にして、日誌の記録方法を学ぶ。 復習：実習中の記録（日誌の記録方法）について理解を深める。
11回目	実習遵守事項の理解	個人のプライバシー、守秘義務、子どもの人権の尊重など	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習に関する個人情報の保護、守秘義務、人権尊重等について理解を深める。
12回目	実習先事前訪問の理解	オリエンテーションの準備	予習：テキストおよび配布資料を参考にして、オリエンテーションの準備を進める。 復習：実習に向けたオリエンテーションの内容についてしっかりと理解する。

13 回目	実習課題の設定	実習課題の立案	予習：これまでの学びから自分の関心を整理し、実習先の方針や概要などを確認しておく。 復習：立案した実習課題が実現可能なものであるか、課題解決方法について具体的に考察する。
14 回目	施設実習直前の全体的事前指導	実習内容、心得注意、必要書類の確認等	予習：テキストおよび配布資料を参考にして、実習の心得をしっかりと自覚する。 復習：施設実習の留意点・遵守事項等についてしっかりと理解する
15 回目	施設実習事後指導	施設実習の振り返りを行う。	予習：実習時の記録を振り返り、自己の課題を明確にしておく。 復習：振り返りを基に保育士としての自己課題をまとめる。

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧 他 著 わかば社 参考書：関連資料 実習日誌
履修条件	
履修上の注意	授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じておくこと。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	レポートや実習に必要な書類などの提出期限厳守

講義科目名称 実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）	授業コード：
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	選択	演習
担当教員				
澤田 須賀子・戸田 恵理子・松田 清美				

授業概要	<p>資格取得のために必要な専門的知識・技術の習得、実習生としての姿勢を学習していく。本授業では以下の事項を学習の目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育者としての職業倫理を理解する 実習園の概要を理解する 実習園の保育の目標を理解する。 2 実習記録の意義と方法を習得する 指導計画立案をする 模擬保育等を行い多様な保育技術の習得をする。 3 実習の自己課題を明確にする 子どもの発達を理解する 実習に必要な書類や遵守事項を周知する。 4 実習後の自己点検・自己評価をする グループディスカッションやロールプレイによって実習の振り返りをおこない、実習の成果や新たな学習課題を確認する。 5 保育者の仕事の現状を丹念に把握しながら保育者としての資質向上への意欲を持つ
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身に着けることができる	学習に取り組む姿勢	10%
確かな専門的知識や技能	実習を円滑に進めていく知識や技術を習得することができる。	レポート提出 確認ミニテスト	10% 10%
コミュニケーション能力	グループディスカッションやロールプレイによって 実習の振り返りをおこない、実習の成果や新たな学習課題を確認する。	レポート提出	10%
課題解決能力	幼稚園・保育所・認定こども園における実習の目的・内容・方法を理解することができる。 「事前指導」では、各自の学習内容や課題を明確にする 「事後指導」では、実習で得た学習内	事前準備 事後報告書 指導案立案	15% 15% 20%

	容を振り返り、多面的に検討して反省・評価を行い改善への課題を探究することができる。		
主体的に学ぶ力	授業への意欲、提出書類の正確さ、事前準備（指導案立案）実習の振り返りを総合して評価を行うことができる。	レポート提出	10%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
○レポート課題（30%） ○学習に取り組む姿勢（10%） ○事前準備・事後振り返り（30%）			
○指導案立案（20%） ○確認ミニテスト（10%）			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習復習
1回目	オリエンテーション	・保育実習、教育実習の意義と目的、施設実習の振り返り ・守秘義務について	予習：シラバスの内容を熟読 復習：1年次の施設実習についての振り返り
2回目	「幼稚園教育実習」事前指導	・過去のデータからの考察（実習園が望む実習生の姿を知る） ・事前準備 指導案作成について	予習：幼稚園の生活の流れを把握する 復習：1年次の指導案のチェックと反省・改善
3回目	実習先オリエンテーションについて	・実習生カードの作成（実習の目的を設定） ・園への電話のかけ方や訪問について ・オリエンテーション報告書作成	予習：実習園の園長名、住所、電話番号、正確な名称について準備しておく 復習：指導案作成
4回目	幼稚園・認定こども園の生活 日誌の記入について	・認定こども園、幼稚園の生活の流れや保育形態の確認 ・施設実習日誌と教育実習日誌の記入の相違点	予習：様々な保育形態があるが実習園の保育形態を調べておく 復習：施設実習日誌で指導を受けた内容を確認する
5回目	模擬保育の準備	・グループ編成 ・保育内容設定 計画立案	予習：模擬保育の流れと設定保育のイメージを持つ 復習：子どもの発達年齢を考慮した子どもの活動
6回目	模擬保育（1）	計画 ⇔ 実践 ⇔ 評価 ⇔	予習：自分の役割に責任をも

		反省 ⇔ 改善	って準備しておく 復習：模擬保育の役割に応じた準備を行う
7回目	模擬保育（2）	計画 ⇔ 実践 ⇔ 評価 ⇔ 反省 ⇔ 改善	予習：指導案を完成させておく 復習：模擬保育の役割を理解して行動する
8回目	「事前指導」実習に必要な書類について お礼状の書き方	・それぞれの書類が重要であることを踏まえ、記入の方法やり扱いを学ぶ。 ・実習後のお礼状の書き方	予習：実習園までの通勤の方法や所要時間の確認 印鑑等必要物品の準備 復習：施設実習のお礼状内容と投函について確認する
9回目	教育実習 必要書類渡し 実習遵守事項の確認	・教育実習書類確認 ・実習遵守事項を読み捺印する	予習：実習園の保育目標と事前準備するものの再確認 復習：施設実習のお礼状内容と投函確認する
10回目	幼稚園教育実習 巡回指導	・教育実習期間に保育学科教員による巡回指導を受ける	予習：実習内容の振り返りをする 復習：巡回指導を振り返り、残りの実習計画を再確認する
11回目	「幼稚園教育実習」 事後指導	・実習直後の振り返り ・実習報告会	予習：実習中の保育内容を整理しておく 復習：実習日誌の修正
12回目	「保育実習Ⅰ」 事前指導	・教育実習からの課題 ・オリエンテーション準備 ・実習生カード	予習：保育所での実習目標 復習：施設、幼稚園、保育所、認定こども園の違いを確認する
13回目	保育所・認定こども園の生活 腸内検査について	・子どもの発達（0～2歳を中心に）の見直し ・保育所の1日の流れ 子どもの安全について	予習：子どもの発達段階と遊びについて 復習：これまれの実習中のヒヤリハット体験から事故防止について確認
14回目	実習日誌について 保育指導案作成	・実習日誌の記入上の注意 ・3歳児、5歳児の指導案立案	予習：文字の丁寧さ、文章の書き方、指導案の流れを決めておく 復習：幼稚園教育実習の日誌の見直しと指導案の活動設定
15回目	「保育実習Ⅰ」必要	・「保育実習Ⅰ」書類確認	予習：実習園の保育目標と事

	書類渡し 実習遵守事項の確認	・遵守事項を読み捺印する	前準備するものの再確認 復習：指導計画案立案の見直し
--	-------------------	--------------	-------------------------------

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 著者代表 小櫃 智子 わかば社 配布資料：その都度配布します。
履修条件	
履修上の注意	欠席した場合は、次の授業前までに資料を取りに来ること。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します
備考・メッセージ	授業の出欠確認はアクティブポータルで実施しますので、携帯を持参してください。出欠確認後の携帯使用は不可。

講義科目名称：保育実習指導Ⅱ	授業コード：90506
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期（集中講義）	2年次	1	保育士：選択必修	演習
担当教員				
戸田 恵理子 澤田 須賀子 松田 清美				

授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもに関わる「保育」という職業において、あたたかなまなざしや優しさを持ち、子ども・保育者・保護者に対する重要性を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・課題レポート 	10% 5%
確かな専門的知識や技能	既習の学習内容と関連させ専門的知識を活用し、保育の実践につなげる応用力を身に着けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テスト ・ミニテスト 	10% 10%
コミュニケーション能力	模擬保育等の実践活動においてメンバーと協力しながら積極的に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案立案 ・模擬保育 ・課題レポート 	20% 20% 5%
課題解決能力	実習を通して明らかになった自己課題を、様々な観点から分析し保育の実践力を高めていくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習シート 	10%
主体的に学ぶ力	実習を通して明らかになった反省・課題点の改善を積極的に行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート ・授業への参加・態度 	5% 5%
合計			100%
補足事項			

- ・指導案立案 (20%) 模擬保育 (20%) グループディスカッション (10%) 課題レポート (10%)
- ・漢字テスト (10%) ミニテスト (10%) 実習シート (10%) 自己評価シート (5%)
- ・授業への参加・態度 (5%) の割合で評価する。
- ・レポート提出の際は、Melly 上でデータを提出することも可能

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	1. 保育実習による総合的な学び	(1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	予習：保育所保育指針 1章・4章を読み返す。
2 回目		(2) 子どもの保育と保護者支援	復習：実習園で取り組んでいる保護者支援内容についてレポートを作成する
3 回目	2. 保育の実践力の育成	(1) 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり ・乳幼児の保育の流れを踏まえた指導案立案と模擬保育準備	予習：保育者の具体的な援助の内容及び方法について考えをまとめておく
4 回目			復習：担当年齢の指導案の立案
5 回目		(2) 保育の知識・技術を活かした保育実践 ・0 歳児 ・1 歳児 ・2 歳児	予習：模擬保育において主担当・補助の保育士の連携について振り返る
6 回目			復習：模擬保育を通して把握できた留意点を踏まえた指導案を作成する
7 回目			
8 回目			
9 回目			
10 回目	3. 計画と観察、記録、自己評価	(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	予習：日誌を通して子ども・保育者・実習生の記入欄を読み返す
11 回目		(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	復習：保育場面の捉え方、記録の方法などについて振り返り、実習シートにまとめる。
12 回目	4. 保育士の専門性と職業倫理	・保育士の業務内容や職業倫理の理解	予習：保育士倫理綱領に目を通す
13 回目			復習：現場保育者の講和から自身が目指す保育者像についてレポートを作成する。
14 回目	5. 事後指導における実習の総括と評価	(1) 実習の総括と自己評価	予習：実習を振り返り計 20 日間の実習記録を読み返す。
15 回目		(2) 課題の明確化	復習：実習後に明らかになった課題に対して解決策を考案する。
16 回目	定期試験	なし	

科目（教職課程用）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書：乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新 基本保育シリーズ⑮ 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 ※ 内容ごとに、必要なプリントを配布
履修条件	
履修上の注意	毎回の予習復習実施の上、受講すること
オフィスアワー	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	提出書類の正確さ（オリエンテーションの事前事後報告、指導案立案等）を求めます

講義科目名称：保育実習指導Ⅲ（施設）	授業コード：90132
英文科目名称：	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	保育士：必修	演習（集中講義）
担当教員				
若杉千春、滝川由香里				

授業概要	<p>授業では、保育士資格の取得のために必要な施設実習について専門的な知識・技術、実習生としての姿勢を学習していく。本授業では保育実習Ⅰ（施設）で習得した知識や技術をさらに向上していくために以下の事項を学習の目標とする。</p> <p>① 保育実習Ⅲ（施設）の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</p> <p>② 実習内容および実習課題を明確化する。</p> <p>③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</p> <p>④ 子どもおよび利用者の最善の利益と職業倫理について理解する。</p> <p>⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p> <p>⑥ 社会資源と関係機関との連携を理解する。</p> <p>⑦ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。	・学習に取り組む姿勢	40%
確かな専門的知識や技能	児童福祉施設（保育所以外）その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質を習得することができる。	・レポート課題	10%
コミュニケーション能力	「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知識や指導技術を身につけることができる。	・レポート課題	10%

課題解決能力	児童および利用者の生活課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・レポート課題	20%
主体的に学ぶ力	実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨む姿勢を身に着けることができる。	・レポート課題	20%
出席			受験要件
合計			100%
補足事項			
○授業内レポート（40%） ○授業の取り組み（40%） ○振り返り（レポート・振り返り）（20%）を総合評価しておこなう。			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1回目	オリエンテーション・保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の明確化	保育実習Ⅲ（施設）の意義と目的について、保育実習Ⅰにおける反省と自己課題の設定	予習：保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲの課題を考える。 復習：配布資料を読む
2回目	保育実習Ⅲ実習先についての内容と理解	各実習施設を理解する	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：保育実習Ⅲの実習施設および実習内容について理解を深める。
3回目	施設種別毎の理解と実習内容	保育実習Ⅲの実習施設について理解する	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：施設の種別を理解し、実習内容を振り返る。
4回目	施設種別毎の理解と実習内容 ・実習先の決定	保育実習Ⅲの実習施設について理解するし、実習施設を決める	予習：テキストおよび配布資料を読む。実習希望施設までの移動手段を調べる。 復習：施設の種別を理解し、実習先の位置づけ、活動内容などについて理解を深める。
5回目	養護技術を習得する	施設実習での生活援助について学ぶ	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習施設での生活場

			面の援助方法について理解を深める。
6回目	子ども・利用者の個人差・ニーズについて理解する	子ども・利用者のニーズについて学ぶ	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：子どもや・利用者のニーズについて理解を深める。
7回目	実習計画を立案する	保育実習Ⅰの内容を基に実習Ⅲの計画の立案を行う	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習計画に内容を振り返る。
8回目	保育技術の発表と反省・評価①	指導案立案・実践・振り返り①	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：指導案の立案などについて理解を深める。
9回目	保育技術の発表と反省・評価②	指導案立案・実践・振り返り②	予習：テキストおよび配布資料を参考にして、日誌の記入を練習する。 復習：指導案の立案などについて理解を深める。
10回目	関係機関との連携方法を具体的事例で学ぶ	事例検討（グループワーク）	予習：配布資料を読む。 復習：事例検討を通して、連携のあり方などについて理解を深める。
11回目	地域社会との連携について学ぶ	事例検討（グループワーク）	予習：配布資料を読む。 復習：事例検討を通して、地域との連携について理解を深める。
12回目	実習先事前訪問の理解	オリエンテーションの準備	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：実習準備（オリエンテーション等）の準備について振り返る。
13回目	お礼状の書き方・反省会について	実習の振り返りについて	予習：テキストおよび配布資料を読む。 復習：お礼状の書き方などを理解する。
14回目	施設実習直前の全体	実習内容、心得注意等	予習：テキストおよび配布

	的事前指導		資料を読む。 復習：実習の留意点等を振り返る。
15 回目	施設実習事後指導	施設実習の振り返りを行う。	予習：実習時の記録を振り返り、自己の課題を明確にしておく。 復習：振り返りを基に保育士としての自己課題をまとめる。

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト：『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧 他 著 わかば社 参 考 書：関連資料 実習日誌
履修条件	
履修上の注意	1 回目～4 回目の授業は、前期の5月～7月に実施する。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	レポートや実習に必要な書類などの提出期限厳守

講義科目名称：保育実践演習（教職実践演習）（幼稚園）	授業コード：13233
英文科目名称：Seminar in teacher's training (nursery and kindergarten)	実務教員

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2	必修・選択	演習
担当教員				
陣内 敦 中尾健一郎 花城暢一 松田清美 友廣憲子 戸田恵理子 澤田寿賀子 座間味愛理 藤野正和 若杉千春 滝川由香里				

授業概要	<p>①教育・保育に対する使命感や情熱を持つ 子どもから学び共に成長する姿勢を身につける</p> <p>②子どもの成長や安全・健康を第一に考え、適切に行動する</p> <p>③保育者としての自覚に基づき、適切な行動をとる 組織の一員として協力して組織を遂行する 保護者や地域と良好な人間関係を築く</p> <p>④子どもに対して受容的に接し、豊かな交流をおこなう 子どもの発達や心身の状況を理解し、適切な援助をおこなう 子どもと信頼関係を築き、活力ある学級経営をおこなう</p> <p>⑤情報収集力を高めるために、タブレット等を活用し、保育・教育の基本的な知識と保育技能を身につける 保育の援助技術を身につける 子どもの育ちを確かめながら保育計画を立てる</p>
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力	・社会や組織の一員としての自覚を持ち、良好な人間関係を築くことができる		
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ・教科・保育内容等の内容を理解し、指導法を工夫することができる ・子どもや学級経営などを理解し、適切に行動することができる 	各回の課題シート	60%

主体的に学ぶ力	・保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもから学び共に成長しようと努力できる	ポートフォリオファイルの作成状況	20%
		口頭発表	20%
合計			100%
補足事項			
毎回の課題シート 60%、ポートフォリオファイルの作成状況 20%、口頭発表 20%の割合で評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
1 回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項①	・オリエンテーション (陣内) ・実習の振り返り(自己評価)と保育のP D C A サイクル (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
2 回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項②	・保育に対する使命感と自己の職責を果たす意思について (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
3 回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項③	・実習の振り返りと保育者としての課題(グループ協議) (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
4 回目	使命感や責任感に関する事項養護的・教育的愛情等に関する事項④	・体験の共有(まとめ・発表) (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
5 回目	使命感や責任感に関する事項養護的・教育的愛情等に関する事項⑤	・保育者の持つべき養護的・教育的愛情とは (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
6 回目	使命感や責任感に関する事項養護	・保育者として成長するための課題の認識と解決に向けて (実習担当)	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする

	的・教育的愛情等に関する事項⑥		復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
7回目	社会性や対人関係に関する事項①	・組織の一員としての自覚と職務遂行（川原）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
8回目	社会性や対人関係に関する事項②	・少子高齢化と世代間交流（花城）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
9回目	幼児理解や学級経営に関する事項①	・子どもの理解と学級経営（澤田）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
10回目	幼児理解や学級経営に関する事項②	・発達障害のある子どもの理解と援助（藤野）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
11回目	幼児理解や学級経営に関する事項③	・長時間保育と子どもの心身の発達の（戸田）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
12回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項①	・保育の中の表現造形の意義と捉え方（陣内）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
13回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項②	・保育の中の健康の意義と捉え方（中尾）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する

14 回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項③	・保育の中の音楽表現の意義ととらえかた（友廣）	予習：テーマに合わせた実習時の振り返りをする 復習：配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する
15 回目	ポートフォリオファイルの作成	資料をまとめポートフォリオファイルを作成する	予習：これまでのテーマの内容を振り返っておく 復習：課題シートを整理して、内容をまとめ、ファイルに整理する
16 回目	口頭発表と学習の振り返り	口頭発表シートを作成し、発表を行い、レポートをまとめる	予習：口頭発表のテーマを選定しておく 復習：発表を振り返り、改善点をまとめておく

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	各授業担当教員が授業の前後に教室で質問を受け付ける
備考・メッセージ	毎回の資料および課題シートについてはファイルに綴じておくこと。

講義科目名称：卒業研究 I	授業コード：52132 52133 52134 52135 52136 52137 52138 52139 52140 52141 他1件
英文科目名称：Graduation research I	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1	必修・選択	演習
担当教員				
陣内 敦 中尾健一郎 花城暢一 松田清美 友廣憲子 戸田恵理子 澤田寿賀子 座間味愛理 藤野正和 若杉千春 滝川由香里				

授業概要	<p>①自ら課題にするゼミナールを選択する 地域活動や講演会等に参加し問題意識を持つ文献などから現代の保育・教育に関する課題を理解する</p> <p>②子育て支援機関の現状を知る 子育て支援機関の役割について考察する 保育・教育関連機関の連携の現状について理解を深める</p> <p>③ゼミ活動における議論を通し自らの興味関心を探る 自己の保育観・保育者観を見つめる ゼミで取り組むテーマを見つける</p> <p>④地域の保育・教育機関を訪問し調査する 実地研修に参加する 調査の方法を習得する</p> <p>⑤調査した結果や研修で学んだことをまとめる 調査結果や研修にて修得したことをもとに議論し、理解を深める 新たな課題を見つけ解決策を模索する</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力			
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する現代の社会的課題について問題意識を持つことができる ・保育の現場で実際に起こっている課題を捉え、それについて考えることができる ・情報収集力を高めるため、タブレット等を活用し、自らの追求すべき研究課題を発見することができる ・地域の保育実践現場を見学し、課題 	授業への参加・態度 取り組みへの積極性・協調性	40% 60%

	の現状分析を行うことができる ・保育の現場で得た学習内容とこれまでの学習内容を有機的に関連付けることができる		
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
授業への参加・態度 40%、取り組みへの積極性・協調性 60%の割合で、ゼミごとに評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
分野1 陣内	造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について	・造形活動における子どもの情操と創造性の発達についての理解 ・子どもいっしょに作って遊べる造形教材の開発	予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく 復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと
分野2 中尾	子どもの健康と運動遊びについて考える	・健康と運動の関係について体験を通して理解する ・地域の運動遊び環境について体験を通して理解する ・様々な環境に応じた運動遊びを実践する	予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく 復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと
分野3 花城	地域の子育て環境について考える ～地域交流・フィールドワークを通して～	・地域の子育て環境や様々な取組みについて考える ・地域の自然や公園等を調査し、子育てと自然環境の関わりについて考察する ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける	予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく 復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと
分野4 松田			予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく 復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと

			おくこと
分野5 友廣	保育における音楽教育を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における音楽活動について理解する ・保護者や子どもたちとの交流を通じた音楽活動を実践する ・様々な身体表現を理解する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野6 戸田	子どもとあそびについて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「あそぶ」ことについて ・子どもの年齢・発達などに応じた保育教材を考え制作する ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し、様々な保育資源を知る 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野7 澤田	子どもの育つ保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの環境づくりについて ・保育現場に出向き、子ども達の実態を知る 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野8 座間味			<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野9 藤野	多様な文化と子どもの発達		<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野10 若杉	難聴児の聴覚活用教育と音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・難聴と言葉の育つしくみについて理解する ・難聴児の実態を知る 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野11	生命（いのち）の	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生について理解する。 	予習：毎回の活動内容に関

滝川	教育について	・生命を育むために必要な要素について理解する。	する資料を収集し、調べておく 復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと
----	--------	-------------------------	--

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	各ゼミ担当教員が授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	各ゼミの活動においては主体的な学ぶ姿勢をもち、地域に必要とされる保育人材になるため資質向上に努めること

講義科目名称：卒業研究Ⅱ	授業コード：52231 52232 52233 52234 52235 52236 52237 52238 52239 52240 他1件
英文科目名称：Graduation researchⅡ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1	必修・選択	演習
担当教員				
陣内 敦 中尾健一郎 花城暢一 松田清美 友廣憲子 戸田恵理子 澤田須賀子 座間味愛理 藤野正和 若杉千春 滝川由香里				

授業概要	<p>①設定したテーマについて調査学習する 関連事項について文献資料などを収集し熟読する 各教科が横断的に関連していることを理解する</p> <p>②議論の際に他者の意見を聞く姿勢を学ぶ 結論を導き出していく過程を学ぶ 情報リテラシーについて理解する</p> <p>③問題を解決するために様々な視点の情報を収集する 様々な立場からの意見を聞く 自己の意見を再構成する方法を学ぶ</p> <p>④取り組んで行く課題を自己の問題として考察する 調べた内容をまとめ発表する お互いに発表要項をまとめる</p> <p>⑤卒業研究活動報告会で他ゼミの発表を聞く 発表内容について理解を深める ゼミ仲間と協力して取り組んだことを振り返る</p>
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力			
課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を身につけている ・課題解決のための対応・判断方法などについて検討する力を身につけている ・情報収集能力を高めるために、タブレット等を活用し、多視的な観点によって課題を考察することができる 	授業への参加・態度 活動報告集の資料 活動報告会の発表	40% 30% 30%

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育現場で活用するための知識・技能を習得し、自らその習得内容を確認することができる ・表現力や人間関係力を向上させ、他者理解を広げることができる 		
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
授業への参加・態度 40%、活動報告資料 30%、活動報告会の発表 30%の割合で、ゼミごとに評価する			

授業計画	テーマ	授業の内容	予習・復習
分野1 陣内	造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者とのコミュニケーション能力の涵養 ・研究成果レポート作成とプレゼンテーション 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野2 中尾	運動遊びによる実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ・前期活動の体験を生かし、運動遊びを考案し、実践する ・実践した成果をまとめ、発表する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野3 花城	地域の子育て環境について考える ～地域交流・フィールドワークを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ・地域の子ども達との交流活動を企画運営し、フィールドワークを実施する ・活動内容をまとめ、学んだことや感じたことを発表する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野4 松田			<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>

			おくこと
分野5 友廣	保育における音楽教育を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で子どもたちに音楽活動を実践する ・実践した内容をまとめ発表する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野6 戸田	子どもとあそびについて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体的なあそびに大切な保育の環境を考える ・制作した保育教材を保育場面において活用し、改良点等の再考（再製作）を行う ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し習得した保育者に必要な要素をまとめ発表する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野7 澤田	子どもの育つ保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの環境づくりについて ・保育現場に出向き、子ども達の実態を知る 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野8 座間味			<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野9 藤野	多様な文化と子どもの発達		<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>
分野10 若杉	難聴児の聴覚活用教育と音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚を活用した音楽活動について考え実践する ・活動内容をまとめ発表する 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>

			おくこと
分野 11 滝川	生命（いのち）の 教育について	<ul style="list-style-type: none"> ・生命にまつわる教育についての考察を深める ・生命にまつわる教育の実践をする 	<p>予習：毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく</p> <p>復習：毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと</p>

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	各ゼミ担当教員が授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	各ゼミの活動においては主体的な学ぶ姿勢をもち、地域に必要とされる保育人材になるため資質向上に努めること